

森

明治十五年二月
十三年八月

右森「チノ」カ竊盜被告事件ニ對シ明治十五年二月二十三日彦根輕罪裁判所ニ於テ被告長谷川「スチ」共々伊香郡田邊村共有山ニ立入り落葉ヲ竊取セントシテ未タ其所業ヲ遂ケサル科刑法第三百七十二條同第三百七十二條ニ依リ重禁錮一月以上一年以下ニ該ル處未タ其所業ヲ遂ケサルヲ以テ同第三百七十五條同第一百十二條ニ照シ二等ヲ減シ十六歲未滿ニシテ是非ヲ辯別シタルヲ以テ同第八十條ニ照シ又二等ヲ減シ同第七十條同第七十一條ニ照ラシ七日ノ拘留ニ處スト言渡シタル確定裁判ニ對シ本院檢事長渡邊驥ハ明治十六年十月二十五日治罪法第四百二十五條ニ從ヒ非常上告ヲ爲シタリ該要旨タルヤ本院ニ於テ明治十五年十月十一日被告長谷川「スチ」カ共有山ニ立入り落葉ヲ竊取セントシテ捕押ヘラレタル所爲ハ產物ヲ竊取スルノ類ニ非サレハ刑法ニ問フヘキ正條ナシトシテ原裁判ヲ破毀シ更ニ無罪放免ノ言渡ヲ爲シタリ然レハ共犯森「チノ」カ所爲タル右「スチ」ト同一ノ事件ナレハ「スチ」ノ所爲ニシテ果シテ法律上罰スヘキナクハ則チ「チノ」ニ於テハ法律ニ於テ罰セサル所爲ニ對シ刑ノ言渡ヲ受ケタル者ナルヲ論テ竣タスト云フニアリ玆ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ被告ハ池上ニ散亂セル落葉ヲ掻集竊取セントセシ者ニテ竹木礦物其他ノ產物ト云フヘキニ非ス又他人ノ積置キタル者ニ非ス又出入ヲ禁止シタル場所ニ非サレハ被告カ該所爲ハ刑法第三百七十三條ノ支配スル所ニ非ス其他現ニ刑法ニ問フヘキノ正條ナキナリ然ルチ原裁判所カ右第三百七十三條其他ニ問擬シ拘留ニ處シタルハ擬律錯誤ノ裁判ニシテ破毀ノ原由アルモノトス因テ治罪法第四百二十九條ニ據リ明治十五年二月二十三日彦根輕罪裁判所ニ於テ森「チノ」ニ言渡シタル裁判ヲ破毀シ直チニ裁判スルヲ左ノ如シ

被告人森「チノ」カ田邊村共有山ニ立入り林間ニ散亂セル落葉ヲ竊取セントセシ際山岡吉右衛門等ニ見咎メラレ其所業ヲ遂ケサルノ所爲ハ刑法ニ問フヘキ正條ナキヲ以テ無罪放免ス
第一千六百八十七號

○判文(漂流物拾得) 明治十六年二月二日上告
全 年十一月十四日發付

長野縣信濃國諏訪郡四賀村
平民

岩

長藏
明治十五年十一月
三十年七月

右長藏カ被告事件ニ付明治十五年十一月八日上諏訪治安裁判所ニ開キタル松本輕罪裁判所ニ於テ被告カ漂流木ヲ隱匿シタル事實ハ証憑充分ナラストシ治罪法第三百五十八條ニ依リ無罪ト言渡シタル裁判ニ對シ檢事代理警部補市橋友孝ハ被告カ漂流木ヲ拾ヒ得テ自宅ヘ運搬シ置キ官署ニ申告セサルハ即チ漂流木ヲ拾ヒ得テ官署ニ申告セサル者ナレハ隱匿シタルノ証憑充分ナリ右ハ刑法第三百八十五條ニ依リ處斷スヘキモノナルカ故ニ原裁判ノ破毀ヲ求ムト云フニ在リ爰ニ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
本案ノ上告ハ原裁判官カ犯罪ノ事實判定上ニ對シ不當ヲ論スルニ止ル然ルニ諸般ノ徵憑ニ

依り犯罪ノ事實ヲ判定スルハ法律上專ラ承審官ニ任スル所ノ職權タリ故ニ其職權ニ侵入シタル上告ハ到底治罪法第四百十條各項以外ニ涉リ上告ノ理由ト爲スヘカラサルヲ以テ該上告ハ治罪法第四百二十七條ニ依リ之ヲ棄却スルモノ也

第千六百八十八號

○判文(水利妨害) 明治十五年十二月六日上告
明治十六年十一月十四日發付

新潟縣越後國古志郡田井村

平民

稻

田兵吉

明治十五年九月
六十六年七月

水利妨害被告事件ニ付明治十五年九月十二日長岡輕罪裁判所會議局ニ於テ豫審終結ノ故障ニ對シ言渡シタル判決ニ服セス上告セシ要領ハ告訴人菊池作次郎カ用水路ノ敷地ハ被告カ所有地内ヲ通過スルモノニテ元來作次郎カ被告ノ地所ヲ掠奪シタル者ナレハ設ヒ之ヲ決潰スルモ自己ノ所有地ヲ取還シタルモノニシテ罪トナルヘキモノニ非ス然ルニ豫審ニ於テ罪アリト言渡サレタルハ不服ナリ又故障趣意書中該敷地ハ被告カ所有地ナルヲ申立タルニ之ニ判決ヲ與ヘス且告訴人作次郎ハ詐欺取財ノ罪免カル可カラサルコトヲ申立タルモ亦判決ヲ下サ、ルハ是亦不服ナリト云ニアリ
對手人檢事高野薰ハ上告趣旨ニ對シ一々之ヲ辨駁シ原裁判ハ允當ナリト答辨セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

本案上告ノ論旨タル二個ノ原由ヲ提出シ其一ハ被告カ所爲ハ告訴人菊池作次郎カ被告ノ所有地ヲ掠奪シ用水路ヲ切開キタルヲ以テ其地所ヲ取還シタルモノニシテ水利ヲ妨害セシニ非サルニ豫審ニ於テ罪アリト言渡サレタルハ不服ナリト云フニ在テ要スルニ承審官カ正當ノ法規ヲ踐ミ認定セシ事實ノ當否ヲ非難スルニ過キサレハ上告ノ原由トナスヲ得ス其二ハ故障趣意書中該用水敷地ハ被告カ所有地タルコト、菊池作次郎ハ詐欺取財ノ罪ヲ免カレサルモノナルヲ申立タルニ判決ヲ與ヘサルハ不服ナリト云フト雖モ該故障ノ趣意タル治罪法第二百四十六條第三項ニ規定シタル場合ニ適當セサルヲ以テ之ヲ採用セサルモノナレハ會議局ニ於テ判決ヲ與ヘサルハ當然ノ處分ニシテ毫モ間然スヘキ所ナキヲ以テ是亦不服ヲ訴フルヲ得サルモノトス

第千六百八十九號

○判文(贓品故買) 明治十五年十一月三十日上告
明治十六年十一月十四日發付

大坂府西區本町通三丁目平民

古手古道具商

山村

半三郎

明治十五年七月

四十歲

明治十五年七月十日大坂輕罪裁判所ニ於テ右半三郎ノ被告事件ヲ審判シ大坂府三商取締規則ニ違反セシト贓品故買ノ所爲ト二罪ノ内刑法第一百一條ニ依リ其故買ノ一罪ニ從ヒ刑法第

三百九十九條ニ照シ一月二十日ノ重禁錮ニ處シ四圓ノ罰金ヲ附加シ仍ホ第四百條ニ依リ七月ノ監視ニ付シタリ半三郎ハ右裁判ヲ不當ナリトシ上告ヲ爲シタリ依テ本院檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ノ旨趣ヲ審按スルニ上告人ハ明治十五年三月中内野龜三郎ヨリ八角時計ヲ買得シタルコトナシ原裁判上証憑トシタル警察署ノ調査ハ苛酷脅迫ノ訊問ニ堪ヘズシテ爲シタル不實ノ口供ナルニ原裁判所ハ是等ノ事實ヲ審究セズ又該時計ノ果シテ盜贓品ナルカ否ヲ審究セズ其他上告人ニ利益ナル種々ノ事實ヲ審究セズシテ上告人ヲ盜贓故買者ト判定シタルハ不當ナリト論告スルニ在リテ要スルニ原裁判所ノ探証及ヒ事實ノ判定ニ對シ不服ヲ訴フルニ外ナラス茲ニ原裁判言渡書ヲ查スルニ被告半三郎カ贓品タルヲ知テ大ノ八角時計一個ヲ買得セシ事實ハ大坂府警部辻岐三ノ作リシ半三郎及ヒ内野龜三郎ノ訊問調査并檢事補大野吉利カ作リシ半三郎ノ訊問調査ニ依リ判明ナリト其証憑ヲ舉示シ其事實ヲ認定シタル者ニシテ即チ事實裁判官カ其權内ニ於テ爲シタル適法ノ判定ナルニ付之ニ對シ徒ニ不服ヲ唱フルモ以テ上告ノ理由ト爲スナ得サル者トス因テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本件上告ヲ棄却スル者也

第一千六百九十號

○判文(樹木毀損及ヒ淨水汚穢)明治十五年十二月廿六日上告
同 十六年十一月十四日發付

新潟縣越後國刈羽郡廣井村平民

飯 田 ヒ ッ

明治十五年十一月

四十七年八月

明治十五年十月二十四日長岡輕罪裁判所會議局ニ於テ豫審判事カ大關八郎右衛門カ樹木ヲ毀損シ飲料ノ淨水ヲ汚穢スル被告事件ノ證據充分ナラストシ免訴シタルハ越權ノ處分アル事ナシト言渡シタル判決ニ對シ民事原告人飯田「ヒッ」カ上告ノ要旨ハ豫審判事カ被告事件ヲ證明スヘキ證人ノ陳述ヲ要セスシテ免訴シタル豫審終結言渡ヲ認可シ其故障申立ヲ棄却セラレタルハ不當ナリ將タ故障趣意書ノ末項ニ共犯ノ起訴ヲ受ケサル者アルトノ證據トシテ「念書差入證」ノ寫ヲ明記シ置キタルニ會議局ハ右ニ干與ナクシテ本案ノ判決ヲ與ヘタルハ治罪法第二百五十五條ニ乖戾セリト云フニ在リ爰ニ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

凡ソ豫審判事カ法律上爲スヘキ處分ヲ爲サ、ルカ又ハ其爲スヘキ場合ニ於テ其爲スヘキ旨ヲ請求シタルニ豫審判事之ヲ肯ンセザル等ノ事アリテ始メテ之ヲ越權ノ處分ト謂フヘキノミ本件原書類ヲ審閱スルニ頭初豫審中民事原告人其他ヨリ曾テ被告事件ノ證人トシテ指名シ訊問ヲ求メタルコトアルナケレハ之レカ陳述ヲ要セスシテ終結ノ言渡ヲ爲シタルトテ固ヨリ之ヲ越權ノ處分ト謂フコト得ス況ンヤ民事原告人ニシテ該言渡ニ對シ故障ヲ爲シ得ヘキ場合ハ治罪法第二百四十六條二項ノ制裁アリテ本件ノ如キ到底公訴上即チ免訴ノ言渡ニ對シテ口情ヲ申立ツルモ未ダ曾テ私訴ニ付越權ノ處分アルト謂フ可カラサル場合ニ於テオヤ則チ會議局カ該終結言渡ヲ認可シタルハ敢テ不當ノ判決ニ非ストス將タ故障趣意書ノ末ニ共犯者アルトノ證據ヲ添付シタルニ拘ハラヌシテ會議局カ判決ヲ爲シタルハ治罪法第二百

五十五條ニ乖戾セリト云フト雖モ抑該條ハ會議局ニ於テ共犯ノ起訴ヲ受ケサル者アルコトヲ發見シタル時ニ限り其荷モ之ヲ發見セズ即チ是等證據ヲ以テ信據スヘカラス果シテ其事アルヲ保ツヘカラサル者トスル時ハ更ニ之ヲ豫審等ノ手續ニ從事セサルモ敢テ不可ナルナシトノ旨趣ニシテ本件ノ如キハ會議局ニ於テ右證據ノ提出ニ干與ナクシテ判決ヲ下シタル以上ハ其會議局ヲシテ共犯者アルコトヲ發見セシムルノ資料ニ供スルニ足ラス會議局ニ於テ之ヲ豫審着手ヲ必要ト見込マサルニ因テ然ルト認メサルヲ得ズ則チ之ヲ以テ不當ノ處分ト爲スヘカラサルコト勿論ナリトス且夫レ民事原告人ニシテ上告ヲ爲シ得ヘキ場合ハ治罪法第四百十二條ノ制裁アリテ必ス私訴ニ關スル豫審又ハ公判ニ對シ同第四百十條各項ノ原由アルニ限レリトス然ルニ本件上告第一ノ点ハ勿論第二ノ点モ只管公訴上即チ共犯者不問ノ處分ニ對シ不服ヲ鳴スニ止マリ未ダ曾テ私訴ニ關スル豫審ニ於ケル不當ノ廉チ論告スルニ非サレハ則チ到底該上告ノ旨趣ハ總テ相立タス治罪法第四百二十七條ニ遵ヒ該上告ハ之ヲ棄却スルモノナリ

第一千六百九十壹號

○判文(賭博)明治十五年十二月八日上告
同 十六年十一月十四日發付

茨城縣常陸國行方郡濱村平民魚
類商

貝塚彦兵衛

明治十五年十月
四十六年九月

賭博被告事件ニ付明治十五年十月二十日土浦輕罪裁判所カ刑法第二百六十一條ニ依リ重禁錮三月ニ處シ罰金十圓ヲ附加スト言渡シタル裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ塙彌兵衛宅ニ於テ賭博ヲ爲スチ傍觀シタルハ相違ナキモ現ニ博奕ヲ爲シタルコト之レ無シト云ヒ又彌兵衛ノ父惣八ハ八十歳ニ殆キ齡ニシテ知覺精神モ不充分ナレハ法律ニ於テ証人ト爲スチ証サ、ルモノナリト云ヒ要スルニ原裁判ハ事實理由ニ齟齬アル不當ノ判決ナリト云フニアリ

原檢事補山口重理ハ上告趣意ノ不理ナルヲ論駁シ原裁判ハ適當ナリト答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

本案被告ハ原裁判所カ認定シタル事實ニ對シ其當否ヲ辨論シ以テ上告ノ理由ト爲スト雖トモ凡ソ諸般ノ徵憑ヲ採擇シ事實ヲ認定スルハ原裁判官ノ特有スル權内ニシテ輒シ其當否如何ニ論及スルヲ得サルモノトス又齡八十ニ殆キヲ以テ知覺精神ノ錯亂シタルモノトシテ証人トナスヲ得サルコトノ法律アラサルハ論テ俟タサルナリ因テ上告ノ趣旨相立ス

右ノ理由ナルニ因リ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スルモノ也

第一千六百九十二號

○判文(官吏ノ職務妨害)明治十六年一月廿二日上告
全 年十一月十四日發付

福島縣岩代國北會津郡若松瀧澤
町士族蒔繪師

阿部源四郎

明治十五年十月
二十年八月
百八十五

官吏職務ヲ行フヲ妨害シタル被告事件ニ付若松輕罪裁判所カ刑法第三百二十九條同第四百十條同第三百一條第二項同第四百條ニ照シ一ツノ重同第三百二十九條ニ遵ヒ六月ノ重禁錮ニ處シ六圓ノ罰金ヲ附加スト言渡タル裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ羽賀儀助外五人ハ現場事實ヲ詳カニ知リナカラテ巡查ニ荷擔シ之カ證人トナリ却テ被告源四郎ヲ曲者ニ陷レタルハ共謀シテ誣陷シタルモノナリ決テ巡查カ職務ヲ行フ際妨害シ之ヲ毆打負傷セシメタルアルニアラサルニ原裁判所ハ充分ナル審問ヲ盡サス輕々之ヲ斷了シ六月ノ重禁錮六圓ノ罰金ノ刑ヲ言渡シタルハ不當ナリト云フニアリ

對手人檢事補藤井民次郎ハ上告趣旨ノ不當ナルヲ辨駁シ原裁判允當ナリト答辨セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ノ理由トスル處証人ノ誣證ヲ信シ裁判ヲ與ヘラレタルニ因リ冤罪ニ陷リタリト云フニアリト雖モ要スルニ採證ノ當否ヲ論難シ徒ニ不服ヲ訴フルニ過キサレハ破毀ヲ請求スルノ原因ト爲スヲ得ス何ントナレハ治罪法第四百四十六條ニ被告人ノ白狀官吏ノ檢證調書證據物件証人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアリテ各種ノ證據ヲ取捨採擇シ其事實ヲ認定スルハ事實裁判所ニ任從セシモノナレハナリ因テ上告ノ趣旨相立ス右ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スル者也

第一千六百九十三號

○判文(牆毀壞) 明治十六年一月十一日上告
年十一月十四日發付

德島縣阿波國美馬郡舞中島村平民

大

塚 清 市

明治十五年十一月
三十七年七月

右清市カ被告事件ニ付明治十五年十一月十四日脇町治安裁判所ニ開キタル德島輕罪裁判所ニ於テ被告ハ明治十五年十一月十日舞中島村大塚政次郎ノ家屋ニ屬スル藪垣ノ道路通行ノ障リト爲ルヨリ憤テ起シ銚ヲ以テ右藪垣十一間程毀壞シタル者ニテ大塚政次郎ノ告訴調書及ヒ德島縣警郡補心得巡查鹽田近太郎ノ檢證調書當廷ニ於テ被告ノ白狀等ニ據リ其犯狀明白ナリトス右ハ刑法第四百十八條人ノ家屋ニ屬スル牆壁云々牧場ノ柵欄ヲ毀壞シタル者ハ十一日以上三月以下ノ重禁錮ニ處シ又ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ストアルニ依リ被告大塚清市ヲ罰金十二圓ニ處シ犯罪ノ用ニ供シタル銚一挺ハ沒収シ其拘留ヲ釋放スルモノナリト言渡シタル裁判ニ對シ被告上告ヲ爲シタルノ要點ハ無罪者ナル被告ヲ有罪者視シテ刑法第四百十八條ニ依リ處斷セラレタリ又被告事件ノ豫審ヲ要セス直ニ公判アリシハ治罪法ニ背キタル越權ノ處分アリト云フニ在リ爰ニ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

本案ノ上告ハ第一無罪者ヲ有罪者視セラレタリトノ申立ハ原裁判官カ事實判定上ニ不服ヲ鳴スニ止リ上告ヲ爲スヘキ理由ナキモノトス何トナレハ諸般ノ徵憑ニ依リ犯罪ノ事實如何ヲ判定スルハ專ラ裁判官ニ任スル所ノ職權ニシテ被告ニ於テ其職權ニ侵入シ不當ヲ論スル事ヲ得サレハナリ第二被告事件ノ豫審ヲ要セサルハ治罪法ニ背キタル越權ノ處分ナリト申立ルト雖モ本件ハ明治十四年第五十四號布告ニ(輕罪ニシテ檢察官ニ於テ豫審ヲ要セスト

見込モノニ限リ始審裁判所々在ノ地ヲ除クノ外治安裁判所ニ於テ輕罪裁判所ヲ開キ其裁判ヲ爲スヲ得ヘシトアルニ依リ豫審ヲ要セス裁判ヲ下シタルモノニ付原裁判ヲ以テ越權ノ處分アリト爲スヲ得ス
右ノ理由ナルヲ以テ該上告ハ總テ理由ナキモノトシ治罪法第四百二十七條ニ依リ之レヲ棄却スルモノナリ

第一千六百九十四號

○判文(土地賣買讓渡規則違犯)明治十五年十二月十九日上告
明治十六年十一月十四日發付

新潟縣越後國北魚沼郡小出島村

平民藥種營業

松

原カチ

明治十五年九月十九年四月生

土地賣買讓渡規則違犯被告事件ニ付明治十五年九月廿八日長岡輕罪裁判所カ同規則第五條明治十四年第七十二號布告ニ依照シ證印稅一圓七十一錢ノ五倍八圓五十五錢ニ該ル仍ホ刑法第八十一條同第八十五條ニ依リ四圓八十錢九厘ノ罰金ニ處スト言渡タル裁判ニ對シ檢事補小原朝忠ハ上告セリ其要領ハ被告「カチ」カ地券書換ヲ怠リタル所爲ハ齡二十歳ニ滿タサルト未發前自首シタルトノ廉ヲ以テ本刑ヨリ二等ヲ通減ス可キモノナルニ原裁判所ハ之カ一等二等ヲ遞減シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニアリ
對手人松原「カチ」ハ之ニ答辨セス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ

刑法第九十九條ニ從犯及ヒ未遂犯其他特別ノ加重減輕ハ其加減シタルモノヲ以テ本刑ト爲スノ明文アリテ一等二等ヲ遞減スヘキモノナルモ本案「カチ」カ被告事實ハ刑法第八十一條同第八十五條ニ依リ減輕セシモノナレハ一般ノ減輕ニ係リタルモノニテ其二等ヲ通減スヘキモノナルニ原裁判所ハ其一等二等ヲ遞減シ處分爲シタルハ擬律錯誤ニ係リタル上告ノ原因アルモノト判定ス

右ノ理由ニ基キ治罪法第四百二十九條ニ依リ原裁判ノ全部ヲ破毀シ直ニ裁判スル左ノ如シ

松原カチ

原裁判所カ認メタル事實ノ理由及ヒ證憑ニ依リ土地賣買讓渡規則ニ違犯シ地券證五十七通ノ書換ヲ怠リ而シテ未發前自首シタルヲ明白ナリ之テ罰スル法律ハ

明治十三年第五十二號布告土地賣買讓渡規則第五條同十四年第三十號同第七十二號布告ニ照シ證印稅一圓七十一錢ノ五倍八圓五十五錢ノ罰金ニ該ル

犯時齡二十歳ニ滿タサルヲ以テ刑法第八十一條ニ依リ本刑ニ一等ヲ減シ六圓四十一錢二厘五毛未發前自首スルヲ以テ同第八十五條ニ依リ本刑ヨリ又一等ヲ通減シ四圓二十七錢五厘ノ罰金トナル

因テ被告松原「カチ」チ四圓二十七錢五厘ノ罰金ニ處スル者也

第一千六百九十五號

○判文(賭博)明治十五年十二月十八日上告
明治十六年十一月十四日發付

栃木縣下野國芳賀郡坂井村平民
農業

大久保 熊三郎
明治十五年九月
四十年

明治十五年九月十六日宇都宮輕罪裁判所ニ於テ右被告人大久保熊三郎ハ明治十五年八月二十三日ニ於テ鈴木房吉外四名ト共ニ金錢ヲ賭ケ博奕ヲ爲シタル事由ヲ悔悟シ自首スト雖モ其現場ヲ撞見シタル相當官吏ノ處分ナキヲ以テ犯罪ノ証憑充分ナラサル者ト爲シ治罪法第三百五十八條ニ依リ無罪ノ上放免スト言渡シタル裁判ニ對シ同裁判所檢事補吉野信三ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告人カ現ニ賭博ヲ爲シタルハ共犯鈴木房吉外二名カ申立アルノミナラス其現行ヲ認メ當時其處分ヲ爲シタル相當官吏ノアルハ公判始末書ニ本職カ陳述スル所ニ於テ明瞭ナルニ原裁判所ハ毫モ此等ノ點ヲ審理セズ單ニ相當官吏ノ處分ナキモノト爲シ又該犯罪ノ日子ハ明治十五年八月二十六日ナルニ八月二十三日ト爲シタルハ不法ナリト謂フニアリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告書ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審判スルハ左ノ如シ
原一件書類ヲ檢閱スルニ被告人大久保熊三郎カ賭博罪ヲ犯シ現場ニ於テ巡查ニ撞見セラレタルハ檢察官カ公判廷ニ於テ証明シタル如ク被告人ノ自白及ヒ共犯人鈴木房吉等カ陳述スル所ニ於テ証憑充分ナリ然ルニ原裁判所カ証憑充分ナラサル者ト爲シ且犯罪ノ日子ハ明治十五年八月二十六日ナルニ明治十五年八月二十三日ト爲シタルハ專橫越權ノ處分ニシテ

治罪法第四百十條第十一項ニ適當スル破毀ノ原由アル者トス
右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ノ成規ニ從ヒ原裁判言渡ノ全部ヲ破毀シ水戸輕罪裁判所ニ移シ更ニ審判セシムル者也

第一千六百九十六號

○判文(毆打創傷)明治十五年十一月廿九日上告
同 十六年十一月十四日發付

茨城縣常陸國鹿島郡青塚村
平民

岩崎 平太郎

明治十五年五月
二十歲四月

明治十五年五月二十日水戸輕罪裁判所ニ於テ右平太郎ノ毆打創傷被告事件ヲ審理シ刑法第四百二十五條第九項及第三百一條第三項第三百五條ニ照シ仍ホ第三百一條ニ從ヒ一ノ重キ第三百一條第三項ノ罪ヲ以テ重禁錮十一日ニ處シ犯罪ノ用ニ供シタル物品ハ刑法第四十三條第四十四條ニ依リ沒収セリ平太郎ハ右裁判ニ服セス上告ヲ爲シタリ其要領ハ初メ對手方ヨリ打掛リシニ依リ上告人ハ其場ヲ遁ントセシモ對手方ハ羽織ノ袖ヲ捕ヘテ離サス之ヲモキ取ラレタルヨリ互ニ組合其袖ヲ取戻シタルマテニ上告人ヨリ手ヲ出シテ毆打セシニアラサルハ証人ノ陳述ニ依ルモ判然タリ而シテ上告人カ下駄ヲ以テ毆打セシハ同友北川藤太ヲ誤テ毆打シタルノ事實ハ公判廷ニ於テ藤太ノ陳述及ヒ豫審調查書類ニ依リ分明ニシテ對手方ニ對シテ爲シタル毆打ノ實迹アルヲナシ又上告人ハ毆打ノ所爲アリト仮定シテ論スルモ彼レ

不正ニ打掛リ上告人ノ袖ヲモキ取り其袖中ニハ實印及ヒ認印ヲ入レアルニ依リ之ヲ取戻サ
 シ爲メニシテ正當防衛ノ所爲ナレハ不論罪若クハ宥恕セラルヘキ者ナリ以上ノ理由ニシテ
 毫モ毆打ノ事迹及ヒ証據等之ナキニ原裁判所ハ想像ヲ以テ妄リニ有罪ノ推測ヲ爲シ刑ノ言
 渡ヲ爲シタリト云ニ在リ依テ本院檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ
 上告ノ論旨數項ニ涉ルト雖モ要スルニ原裁判所ニ於テ爲シタル事實ノ判定ニ對シ不服ヲ唱
 フルニ過キカルナリ抑諸般ノ証憑ヲ採擇シ犯罪事實ノ有無ヲ判定スルハ一ニ事實裁判官ノ
 職權ニ屬シ輒ク他ヨリ侵入スヘカラサルモノトス而シテ今原裁判言渡書ヲ查スルニ其認視
 シタル各証憑ヲ舉示シ被告人平太郎カ刑法第三百一條第三項ニ該ル犯罪ノ事實アルヲ判
 定シ且其三個ノ創傷平太郎ノ所爲ニ係ルト共毆者北川藤太ノ所爲ニ係ルトヲ知ルニ由ナキ
 ニ依リ同法第三百五條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ其範圍内ニ於テ相當ノ刑ニ處斷シタル者ニ
 シテ毫モ不法ノ點アルヲナシ依テ上告ノ旨趣總テ相立タス治罪法第四百二十七條ニ從ヒ之
 ナ棄却スルモノ也

第千六百九十七號

○判文(竊盜)明治十六年一月十日上告
 同 年十一月十五日發付

東京府日本橋區住吉町十八番地
 井上甚太郎方同居平民大工職

安 田 鉄 之 助
 明治十五年十月
 三十四年十月

右鉄之助カ竊盜被告事件ニ係ル豫審終結ノ故障ニ付明治十五年十月二十八日東京輕罪裁判
 所會議局ニ於テ豫審判事カ被告ニ對シ持兇器竊盜事件遂豫審處云々中略明治十五年八月二
 日兼テ所有ノ古短刀ヲ懷中シ日本橋區濱町二丁目十一番地湯屋渡世七海喜太郎方板塀ヲ越
 へ兩戸ヲ明ク忍入二階ニ有之同家雇女川上「ヨシ」所有ノ金六錢衣類三枚ヲ盜取リタル事實
 ハ被告カ自白植村常告外二名ノ始末書贓品買取タル川名新六ノ始末書巡查桐原彦吉ノ告發
 書等ニ依リ証據充分ナリトシ而シテ其短刀ハ刀身ノミニシテ刃及ヒ鋒鈍且缺ケ僅ニ劍体ヲ
 存スルモ兇器ノ性質ヲ具有セスト爲シ刑法第三百六十六條第三百六十八條第三百六十七條
 ニ該當スヘキモノナルニ依リ東京輕罪裁判所へ移ストノ終結言渡ハ相當ナルヲ以テ之ヲ認
 可ストノ判決ニ對シ同裁判檢事補菊池武夫カ上告ヲ爲シタル要旨ハ被告カ所爲ハ刑法第三
 百七十條ニ該ル重罪ナルニ原會議局ハ被告カ攜帶セシ短刀ノ刃尖ノ缺損又ハ把柄ナキ等外
 部裝飾有無如何ニ依テ兇器トセサルノ理由ヲ以テ之ヲ刑法第三百六十八條第三百六十七條
 ニ該當スヘキモノトシ東京輕罪裁判所へ移ストノ管轄違ナル豫審終結言渡ヲ認可シタルハ
 不當ナリト云フニ在リ茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告及ヒ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之レヲ
 審按スルニ刑法第三百七十條兇器ヲ攜帶シテ人ノ住居シタル邸宅ニ入り竊盜ヲ犯シタル者
 ハ輕懲役ニ處ストアル其兇器トハ刀劍銃鎗等ノ如キ武器ヲ總稱スルモノニシテ刀劍ノ如キ
 ハ把柄等ノ外飾有無ニ論ナシ又刃尖ノ稍缺鈍アルニセヨ之ヲ攜帶シテ人家ニ入り竊盜ヲ爲
 シタル者ハ本條ノ支配スヘキモノナリ本件被告カ犯罪ノ事實ハ短刀ヲ懷中シ七海喜太郎二
 階へ忍入金品ヲ竊取シタルハ豫審判事モ之ヲ認ムル所ニシテ即チ刑法第三百七十條ニ該

ル重罪タルハ勿論ナリ況ンヤ其証據品タル短刀ヲ檢審スルニ刃尖少シク缺ケ把柄ハ之レナ
キモ歴然劍体ヲ存シ殺傷ノ用ニ供スルニ足ルニ於テチヤ然ルニ原會議局ハ豫審判事カ之レ
ヲ東京輕罪裁判所へ移ストノ管轄違ナル言渡ヲ認可シタルハ不當ノ判決ナリトス因テ治罪
法第四百三十一條ニ則リ原判決ノ管轄違ノ一部ヲ破毀シ更ニ本院ニ於テ言渡ヲ爲ス左ノ
如シ

安田 鉄之助

右ノ理由ナルヲ以テ被告犯罪ノ事實及証據物件ハ原判官カ認メタル所ニ依リ東京重罪裁判
所へ移スモノ也

第一千六百九十八號

○判文(偽造証書) 明治十五年十二月廿七日上告
同 十六年十一月十五日發付

岩手縣陸中國西磐井郡一關村平
民大工職

鈴木 松次郎

明治十五年八月
三十八年八月

偽証被告事件ニ付明治十五年八月廿八日磐井輕罪裁判所會議局ニ於テ該事實ハ刑法第四百
條第二百十條第二百一十一條第二百一十二條ニ當ルヲ以テ豫審終結ノ言渡ヲ取消シ當輕罪裁判
所ニ移ストノ言渡ニ服セス上告セル要領ハ増子達之助ナル者ノ賴談ニ應シ爾ヲ買受ケサル
旨ノ証書ヲ認メ渡シタル一ハ毫モ覺ヘ非サルニ其証書ノ被告カ筆蹟ニ似タルト証人等ノ陳

述ヲ信シタル會議局ノ判決ハ不服ナリト云ニアリ

對手人檢事補庄田金次郎ハ答辨セス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ以判決スル左ノ如シ

被告上告ノ趣意ハ増子達之助ノ賴談ニ應シ爾ヲ買受ケサル旨ノ証書ヲ認メ渡シタル事ハ覺

ヘ非サルニ其証書ノ筆蹟カ被告ノ手ニ似タルト証人等ノ陳述ヲ信シ會議局カ判決ヲ爲シタ

ルハ不服ナリト云フニ在リトイヘ治罪法第四百四十六條ニ証據物件證人ノ陳述鑑定人ノ申

立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアリテ諸証憑ノ取捨採擇證人陳述ノ採否ニ於ケ

ル等總テ承審官ノ權内ニ屬スルモノニシテ他ヨリ侵入スルヲ得サルモノナリ然ルチ漫ニ採

證ノ可否ヲ論難シテ事實ニ入ラント試ムルモ固ヨリ上告ノ原由ト爲スチ得ヘカラサルニ付

上告ノ趣旨相立ストス

右ノ如クナルヲ以治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ヲ棄却スルモノナリ

第一千六百九十九號

○判文(証券印稅犯則) 明治十五年十二月廿三日上告
同 十六年十一月十五日發付

函館縣渡島國函館區鱸横町七十

二番地平民當時札幌縣石狩國札

幌區南一條西一丁目四番地居住

日雇渡世

淺井 助十郎

百九十六
明治十五年十月
五十二年七月生

新潟縣越後國三島郡出雲崎町番
地不詳平民當時札幌縣石狩國札
幌區南二條西三丁目十六番地居
住大工職

相

澤甚藏

明治十五年十月
四十年二月生

証券印稅犯則被告事件ニ付明治十五年十月十九日札幌輕罪裁判所カ免訴ノ言渡ニ對シ檢事
補近藤昂藏上告セリ其要領ハ印稅犯則ノ如キハ純然タル繼續犯罪ト云フヘキモノニアラサ
ルモ他ノ單ヘナル竊盜犯等ト同視スルヲ得サルヲ以テ治罪法第十三條但書ニ準シ其發覺ノ
日ヲ以テ犯罪最終ノ日トナシ處斷セサルヲ得サルヲ原裁判茲ニ出ス既ニ公訴期滿免除六月
ノ期限ヲ經過シタルトシ免訴ノ言渡ヲナシタルハ不當ナルヲ以テ擬律改正アラントテ求ム
ト云フニアリ

對手人淺井助十郎相澤甚藏ハ答辨セス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルノ如シ

本案助十郎甚藏カ被告事實ハ各金二圓以下ノ科料ニ該ルヘキモノニテ即チ刑法第九條ニ定
メタル違警罪ノ刑ノ範圍内ナリトス而シテ明治十四年第四十四號布告ニ違警罪ノ審判ニ關
スル一切ノ手續ハ云々當分ノ内便宜取計ラヒ其裁判言渡ニ付テハ總テ上訴ヲ許サストアレ

ハ本案上告ハ成立サル上告ナリトス因テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ棄却スル者也

第七百號

○判文(耕地冒認)明治十五年十二月廿五日上告
明治十六年十一月十五日發付

高知縣土佐國高岡郡桑田山村平民

中

平太三

次
明治十五年十月
五十六年

耕地冒認被告事件ニ付明治十五年十月二十三日高知輕罪裁判所ニ於テ罪トナルヘキニ非ス
因テ無罪私訴原告人山本丹次カ該地ヲ受取度トノ請求ハ相立スト言渡シタル裁判ニ服セス
丹次代人高芝改作上告セル要領ハ被告太三次ハ本訴ノ地所ヲ民事原告人ヘ永代賣渡証文ニ
認メ相渡スヘキ旨ノ約束ヲ果サスシテ竊カニ先キノ年限買受人堅田丑五郎ヘ地所賣渡シタ
ルモノナルヲ原裁判所ハ丹次カ期限ニ至リ金調成難キヲ以テ太三次ニ於テ丑五郎ノ求メニ依
リ其名義ニ切換ヘタルト判決セリ然レ共同ノ年限買受人堅田官次ニ關スル地所來ル明治十
九年テ期トシ賣渡シタルモノニシテ是亦名義切換アルヲ見レハ丹次カ金調成難キ迎右ノ顛
末ニ至ルヘキ謂レアルヘカラス尙ホ官次ニ關スル地所ニ付言渡シニ理由ヲ附セサルノミナ
ラス該判決ハ擬律錯誤アリト云フニ在リ

對手人中平太三次ハ答辨セス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

原裁判言渡書ニ掲クル事實ノ理由ハ被告太三次カ身代限ヲ爲スニ際シ民事原告人丹次ニテ

買受ケタル即右太三次カ其前堅田丑五郎へ年限賣ニ爲シタル地所ヲ期限後ニ至リ太三次ニ於テ金調成リ難キヲ以丑五郎ヨリ出訴ノ末先キノ契約ニ基キ丑五郎へ名義切換フヘキトノ判決ニ依リ之ヲ履行シタルトノ趣意ナレハ今民事原告人カ原裁判ハ丹次カ期限ニ至リ金調成リ難キヲ以太三次ニテ丑五郎ノ求メニ應シ其名義ニ切換ヘタルト判決セリトノ申立ハ原裁判ノ趣意ヲ誤認セルモノニシテ全ク原裁判ハ事實ト相違ノ廉アルヲ見ス要スルニ上告ノ主旨ハ徒ラニ承審官ノ事實判定上ニ就キ其適否ヲ論難シ之カ破毀ヲ求ムルモノト云フヘシ而尙公判始末書ヲ見ルニ「民事原告人ハ地所ヲ目的トシテ入札シタル者ナレハ其引渡シチ受ケンコトヲ求ム尤其中未タ年限中ノモノモアレハ丑五郎ノ名前ニ替リ居分丈ケノ引渡ヲ望ム旨陳述セリ」トアルニ依レハ堅田官次ニ關スル地所ハ私訴請求外ナルヲ以原裁判所カ堅田官次ニ關スル地所ニ付言渡ノ理由ヲ附セサリシハ至當ナリトス依テ上告ノ趣意ハ総テ相立タストス

第七百壹號

○判文(實印盜用) 明治十五年十二月十八日上告
明治十六年十一月十五日發付

廣島縣安藝國豊田郡瀬戸田町平
民雜業

田

中政教
明治十五年九月
三十三年三月生

印影盜用私書偽造破告事件ニ付明治十五年九月九日廣島縣裁判所カ刑法第百條ニ照シ一ツノ重キ同第二百十條同第二百十二條ニ依リ二年ノ重禁錮ニ處シ十圓ノ罰金ヲ附加シ仍ホ六月ノ監視ニ付スト言渡タル裁判ニ照セス上告セリ其要領ハ檢察官ハ印影盜用ノ所爲ニ付公訴ハナカリシニ原裁判所ハ刑法第百八條ヲ適用シ又數罪俱發一ツノ重キ同第二百八條ニ據ラス同第二百十條ヲ適用セラレタリ其他公判廷ニ於テ山沖一助カ被告政教ハ共犯ニアラサルニ己ノ故意アリテ認告シタルコトヲ自白スルモ其罪ヲ問ハス且檢察官カ訴訟書類ヲ隱誦シタル等共ニ不法ノ裁判ナリト云フニアリ

對手人檢事補岡村登作ハ上告趣旨ノ不當ナルヲ辨駁シ原裁判允當ナリト答辨セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
上告第一ノ理由ハ公訴ニ係ラサル刑ヲ適用シタリト云フニアリト雖モ公判始末書ニ徵スルニ檢察官ハ印影盜用ニ對スル刑ノ適用ヲ求メサルモ裁判官ハ被告政教カ公訴ノ全部ニ對シ其事實適當ナル法律ヲ適施スル當然ノ職務ニテ決テ違法ニアラサルナリ上告第二ノ理由ハ數罪俱發一ツノ重キ刑法第百八條ナリト云フモ輕罪ノ刑ハ其所犯情狀重キ者ニ從テ處斷スト同第百條末項ニ掲ケル處ニテ其情狀ノ輕重ヲ判定スルハ原裁判所ノ職權ナレハ他ヨリ之ヲ左右スルヲ得ス上告第三ノ理由ハ公判廷ニ於テ共犯人ノ自白ヲ採ラサリシト云フモ採証ノ權ハ原裁判所ノ專ラサル處タル治罪法第百四十六條ニ被告人ノ自狀云々其他諸般徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアリテ是亦輒シ非難スルヲ得ス上告第四ノ理由檢察官訴訟書類ヲ隱誦シタルヲ以テ不法ナリトスルモ檢察官ハ公訴ノ原告人ナレハ訴訟書類ヲ熟閱スル最モ

職掌ノ然ラシムルニ處ニテ法理上之ヲ聽サ、ルトノ理アルコトナシ因テ上告ノ趣旨總テ相立
、ス

右ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スル者也

第七百二號

○判文(漁業妨害)明治十五年十二月十五日上告
明治十六年十一月十五日發付

青森縣陸奥國三戸郡下市川村平

民農業

吉田源 右衛門

明治十五年十月

四十五年五月

明治十五年十月二十八日八戸治安裁判所ニ開キタル弘前輕罪裁判所ニ於テ右吉田源右衛門
カ被告事件ヲ審判シ刑法第二百六十八條第二百六十九條ニ依リ重禁錮一月罰金十圓ニ處ス
ト言渡シタル裁判ニ服セス被告人ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告人ニ於テ一旦網船諸器械
ヲ堀内淺吉ニ賣却ノ約ヲ爲シタルモ代金ノ全額ヲ拂ハサルニ因リ約定証書ニ基キ其器械ヲ
押収シタルモノナルニ原裁判官ハ威力ヲ以テ漁業ヲ妨害シタル罪アリト爲シ農工ノ業ヲ妨
害スル者ヲ罰スヘキ刑法第二百六十九條ニ依リ處斷シタルハ所謂法律ニ於テ罰スヘカテサ
ル所爲ニ對シ不當ノ刑ヲ適用シタルモノナリト云フニ在リ大審院檢事池上二郎ハ其意見ヲ
陳述シ附帶ノ上告ヲ爲シタリ其旨趣ハ原裁判言渡書ニ其方ハ云々多人數ニテ堀内淺吉ノ肯
ンセサルヲ顧ミス威力ヲ以テ網船并附屬ノ器械ヲ不殘持去リタル事豫審判事補齋田信利ノ

調書檢察官佐藤文衛ノ陳述等ニ依レハ漁業妨害ノ罪ヲ犯シタルコト明瞭ナリトアリテ前ニハ
威力ヲ以テ人ノ物品ヲ持去リタリトシ後ニハ漁業ヲ妨害シタルコト明瞭ナリトス如此事實ノ
理由ニ齟齬アル不法ノ裁判ナルニ因リ破毀シテ他ノ裁判所ニ移サレンコト望ムト云フニ在
リ依テ判決ヲ爲ス左ノ如シ

原裁判所ニ於テ被告人ノ所爲ニ對シ刑法第二百六十九條ヲ適用シ利ノ言渡ヲ爲シタルモ其
犯罪ノ事實ニ至テハ本院檢事附帶上告ノ如ク言渡書ニ舉示シタル事實ノ理由前後齟齬アル
ニ因リ被告人ハ果シテ何等ノ所爲アリヤ其犯罪ノ有無ヲ確認スルコト得ス從テ法律適用ノ
當否ヲ監査スルニ由ナシ要スルニ原裁判ハ治罪法第四百十條第九項ノ場合ニ適當スル不法
ノ裁判ナルヲ以テ被告人カ上告ニ對シ別ニ其當否ヲ辨明スルヲ要セサルモノトス
右ノ理由ナルニ因リ治罪法第四百二十八條ノ成規ニ從ヒ原裁判言渡ノ全部ヲ破毀シ本案被
告事件ヲ盛岡輕罪裁判所ニ移シ更ニ審判セシムルモノナリ

第七百三號

○判文(毆打創傷)明治十五年十二月十六日上告
同 十六年十一月十五日發付

熊本縣肥後國飽田郡改崎村

平民

加藤 九平

明治十五年十月

三十五歲

明治十五年十月六日山鹿治安裁判所ニ開キタル熊本輕罪裁判所ニ於テ右加藤九平カ毆打創

傷被告事件ニ付キ被告人ハ熊本始審裁判所ノ直轄タル飽田郡改崎村ノ住居ニシテ同村内ノ
 犯罪ナレハ當治安裁判所ノ管轄區畫外ナルニ因リ本件ハ當裁判所ノ管轄ニ非スト言渡シタ
 ル裁判ニ對シ同裁判所檢察官熊本縣警部本田素一ハ上告ヲ爲シタリ其旨趣ハ明治十四年第
 五十四號布告タルヤ輕罪ニシテ檢察官ニ於テ豫審ヲ要セスト見込ムモノニ限リ治安裁判所
 ニ輕罪裁判所ヲ開キ其裁判ヲ爲スヲ得ルノ便宜法ニシテ治安裁判所ニ特ニ輕罪ノ裁判權
 ナ附與シタルニ非ス又輕罪裁判所ノ管轄ノ幾分ヲ分割セシムルノ精神ニ非ス故ニ始審裁判
 所ノ管内ニ係ル輕罪事件ノ豫審ヲ要セサル者ハ之ヲ受理判決セサルヘカラス固ヨリ治安裁
 判所區畫内ノ犯罪ノミニ限ルニ非サルナリ然ルニ原裁判所カ本件ヲ以テ管轄違ナリトシ公
 訴ヲ受理セサリシハ不法ナリト云フニ在リ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履
 行シ判決ヲ爲スノ左ノ如シ

本案被告事件ハ檢察官ニ於テ豫審ヲ要セスト思料シ山鹿治安裁判所ニ開ク熊本輕罪裁判所
 ニ公訴ヲ爲シタルモノナレハ原裁判所ハ明治十四年第五十四号布告ニ從ヒ其裁判ヲ爲スヘ
 キニ却テ治安裁判所ノ區畫外ニ係ルヲ以テ管轄ニ非スト言渡シタルハ法律ニ背キ公訴ヲ受
 理セサルモノト謂ハサルヲ得ス即チ檢察官上告ノ旨趣總テ正當ナリト確認ス
 右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條第四百二十九條ニ從ヒ原裁判言渡ヲ破毀シ更ニ
 原裁判所ニ於テ本案被告事件ヲ審判スヘキ旨ヲ言渡スモノナリ
 第七百四號

○判文(竊盜)明治十五年十二月十六日上告
 明治十六年十一月十五日發付

栃木縣下野國上都賀郡上久我村
 平民

小林 德次郎
 明治十五年十月
 二十六歲

竊盜被告事件ニ付明治十五年十月二十三日栃木輕罪裁判所ニ於テ右小林德次郎ハ人ノ麻苧
 ナ竊取シタル者トシ刑法第三百六十六條刑法第三百七十六條ニ依リ重禁錮三月ニ處シタル
 言渡ニ對シ同裁判所檢察補外島保信ハ上告セリ其要旨ハ被告カ竊取シタル証憑充分ニシテ
 原裁判所ハ刑法第三百六十六條及ヒ刑法第三百七十六條ヲ適用シナカラ單ニ主刑ノミノ言
 渡ヲ爲シ其附加スヘキ監視ノ言渡ヲ爲サルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニアリ
 茲ニ本院檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ原裁判所ニ於テ其竊盜ノ事實ヲ認メ刑法第三百
 六十六條ニ依リ重禁錮三月ニ處シタルハ相當ナリト雖モ刑法第三百七十六條ヲ適用シ其附
 加刑ヲ言渡サルハ刑法第三十八條ニ輕罪ノ刑ニ附加スル監視ハ之ヲ宣告ストアルニ違背
 シタル擬律錯誤ノ裁判ナリトス因テ治罪法第四百三十一條ニ照シ原裁判ノ内上告ニ係ル部
 分ヲ破毀シ直チニ裁判スル左ノ如シ

小林 德次郎

前ニ辨明セシ理由ナルヲ以テ仍ホ刑法第三百七十六條ニ照シ監視六月ヲ附加スルモノ也
 第七百五號

○判文(竊盜)明治十五年十二月廿一日上告
 明治十六年十一月十五日發付

福岡縣豐前國京都郡上瀉島村平民無職業

藤

本善六

明治十五年十月二十九日

明治十五年十月十九日山口輕罪裁判所ニ於テ右藤本善六カ被告事件ヲ審判シ喰逃及竊盜ノ所爲ハ刑法第三百六十六條刑法第三百六十九條刑法第三百七十六條刑法第三百九十四條刑法第三百九十四條刑法第三百九十四條照シ一ノ重キ竊盜ノ罪ヲ以テ重禁錮六月ニ處シ郷貫氏名ヲ詐稱シ客塵ニ止宿シタル所爲ハ山口縣違警罪條目第十四項ニ依リ拘留二日ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ同裁判所檢事補玉置琢ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ違警罪ト警罪ト俱發シタル時ハ刑法第一百條ニ依リ一ノ重キニ從フ可キ者ナルニ之ヲ併科シタルハ不法ノ裁判ナリト謂フニ在リ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告書ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルヲ左ノ如シ
刑法第一百條ニ違警罪二罪以上俱ニ發シタル時ハ各其刑ヲ科ス若シ重罪又ハ輕罪ト俱ニ發シタル時ハ一ノ重キニ從フトアリテ本案ノ如キ違警罪ト輕罪ト俱ニ發シタル場合ハ該條ニ依リ一ノ重キ輕罪ノ刑ニ從フテ處斷シ違警罪ノ刑ハ之ヲ除棄ス可キ者ナリ然ルニ原裁判茲ニ出テスシテ各其刑ヲ科シタルハ擬律ニ錯誤アル不法ノ裁判ニシテ上告ノ旨趣正當ナリトス
右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百三十一條ニ從ヒ原裁判言渡ノ內違警罪ノ刑ヲ科シタル部

分ヲ破毀シ之ヲ取消ス者ナリ

第七百六號

○判文(竊盜)明治十五年十二月十五日上告
明治十六年十一月十五日發付

高知縣土佐國吾川郡御疊瀨村士族直衛二男無職業

深

尾

明治十五年九月二十二日

竊盜被告事件ニ付明治十五年九月十九日高知輕罪裁判所ニ於テ右被告人壽カ所爲ヲ審判シ被告ハ御疊瀨村岡本壽平カ土藏ニ忍入り深尾「ミカ」ノ衣類數十點ヲ竊取シタル者トシ刑法第三百六十八條同第三百六十七條ニ照シ仍ホ同第三百七十六條ニ依リ重禁錮一年ニ處シ監視十ヶ月ヲ附スト言渡セリ

被告壽ハ該裁判ニ服セス上告ヲ爲シタリ其要旨ハ深尾「ミカ」ハ微カニ生活ヲ爲ス者ニテ多分ノ財産ヲ所有スヘキ理由ナク之ヲ所持スルモ自己ノ土藏ヘ収メスシテ岡本壽平ノ土藏ヲ借ルヘキ道理ナシ且原判文ニ其方ノ白狀入質先ニ現在スル贓品ニ依リ云々トアルモ被告ハ土藏ヘ忍ヒ入りタリト申立タルヲナク該入質品ハ自己并ニ父母ノ衣類ニシテ竊取シタル者ニアラス然ルチ原裁判官ハ告訴人カ詐偽ノ申立ヲ誤信シ有罪ノ判定ヲ下シタルハ不服ナリト云フニアリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルヲ左ノ如シ

乘證ヲ採擇シテ犯罪ノ有無ヲ決スルハ法律ニ於テ事實裁判所ニ任從シタルモノナレハ事實
判定上ノ當否ヲ論告スルモ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得サルモノトス本案被告事件ノ
如キハ原裁判所ニ於テ證據徵憑ヲ審察シ以テ被告人ハ土藏ノ締リヲ開キ忍ヒ入り人ノ衣類
數十点ヲ竊取シタル者ナリト事實ヲ判定シ之ヲ法律ニ照シ相當ノ刑ニ處シタルモノナレハ
毫モ不法ト認ムヘキノ点アルニ非ス而シテ上告ノ旨趣ハ事實ノ有無採證ノ當否ヲ論辨スル
ニ過スキシテ治罪法第四百十條ノ各項ニ定メタル上告ヲ爲スヲ得ルノ場合ニ適當セサル
ヲ以テ上告ノ理由ナキモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本件上告ハ之ヲ棄却スルモノナリ
第七百七號

○判文(竊盜) 明治十五年十二月八日上告
同 十六年十一月十六日發付

岐阜縣飛彈國大野郡丹生川村柏
原組平民林喜四郎三女

平 林 ス キ

明治十五年八月
十九歲三月

明治十五年八月十二日高山治安裁判所ニ開キタル岐阜輕罪裁判所ニ於テ右「スキ」ノ竊盜事
件ヲ審判シ刑法第三百六十六條ニ依リ罪ヲ犯ス時二十歲ニ滿タサルヲ以テ同第八十一條ニ
照シ本刑ニ一等ヲ減シ一月十五日以上三年以下ノ重禁錮ト爲シ事未タ發覺セサル前被害者
ニ首服スルニ付同第八十七條第八十五條ニ照シ一等ヲ減シ一月三日以上二年三月以下ト爲

シ其贓物ヲ還償シタルヲ以テ同第八十六條ニ照シ仍ホ二等ヲ減シ十六日以上一年十月十五
日以下ト爲シ其範圍内ニ於テ十六日ノ重禁錮ニ處シ且同第三百七十六條ニ依リ六月ノ監視
ニ付シタリ同裁判所檢察官警部補森綠ハ右裁判ヲ不當ナリトシ上告セリ其旨趣ハ被告人ノ
犯罪タル二十歲ニ滿タス且自首シテ贓物返還シタル者ナルニ付本刑二月以上四年以下ノ重
禁錮ヲ減盡シ刑法第七十一條及ヒ第二十八條ニ依リ一日以上十日以下ノ拘留ニ處スヘキニ
其茲ニ出テサリシハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニ在リ依テ本院檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル
左ノ如シ

凡ソ刑法ノ總則ニ依リ本刑ヲ減輕スル場合ニ於テ其幾等ヲ減スルモ從犯及ヒ未遂犯ノ減等
ヲ除ク外皆之レヲ通減スヘキ者トス原裁判言渡書ニ據リ其認視シタル本件ノ事實ヲ見ルニ
被告人ハ人ノ財物ヲ竊取シタル後事未發ノ前被害者ノ所ニ首服シ悉ク贓品ヲ還償シ而シテ
罪ヲ犯ス時二十歲ニ滿タサル者ナリ然ルニ刑法第八十一條第八十七條第八十六條等總則ノ
減等法ヲ適用シナカラ逐次之レヲ遞減シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリトス依テ之レヲ破毀シ
治罪法第四百二十九條ニ從ヒ本院ニ於テ直チニ裁判ヲ言渡ス左ノ如シ

平 林 ス キ

右ニ辨明スル事實ノ理由ナルヲ以テ被告人カ竊盜ノ罪ハ刑法第三百六十六條ニ依リ二月以
上四年以下ノ重禁錮ヲ以テ本刑ト爲シ同第八十一條ニ照シ一等ヲ減シ同第八十六條及ヒ第
八十五條ニ照シ三等ヲ減シ即チ四等ヲ通減スルヲ以テ禁錮ヲ減盡スルニ因リ同第七十一條
ニ依リ拘留十日ニ處スル者也

第七百八號

○判文(私書偽造) 明治十六年二月七日上告
同 十六年十一月十六日發付

熊本縣肥後國託摩郡健軍村士族

農業

梶 田 文 次 郎

明治十五年十月

三十三年

私印私書偽造被告事件ニ付明治十五年十月二日熊本輕罪裁判所カ治罪法第三百三十五條(三百五十八條ノ誤リカ)ニ依リ無罪ト裁判言渡シ民事原告人西村新一カ金祿公債證書四百九十圓畑反別三反五畝廿步還給ヲ受ケ度トノ請求モ亦從テ相立スト言渡タル裁判ニ對シ新
一ハ之ヲ不當ナリトシ上告セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

明治十四年第七十四號布告ニ治罪法中刑事ノ控訴ニ關スル條件ハ當今ノ内實施セストアル
モ附帶私訴ニ對シテハ何等ノ特令アルニ非レハ治罪法ノ定規ニ從ヒ控訴スヘキモノナルニ
控訴ヲ經ス直ニ爲シタル上告ナレハ成立サルモノトス
右ノ理由ナルニ因リ本案上告ヲ棄却スル者也

第七百九號

○判文(漂流物寄藏) 明治十五年十二月十三日上告
同 十六年十一月十六日發付

福岡縣豐前國上毛郡小祝村平民

本

間 明治十五年八月
三十二歲二ヶ月

明治十五年八月十四日小倉治安裁判所ニ開キタル福岡輕罪裁判所ニ於テ右「コメ」カ漂流物
ヲ拾得シタル情ヲ知テ寄藏セシ被告事件ヲ審判シ刑法第四百一條ニ依リ情狀ヲ原諒シ同第
八十九條第九十條及ヒ第七十條ニ照シ五日ノ拘留ニ處シ一圓ノ罰金ヲ附加シタル處斷ニ對
シ同裁判所檢察官警部田中良平ハ上告セリ其要旨ハ拘留ノ主刑ニ處シナカラ壹圓ノ罰金ヲ
附加シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニ在リ依テ本院檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如
シ

凡ソ罰金ノ刑ハ輕罪ニ適施スヘキ者ニシテ違警罪ニ適施スヘキ者ニアラサルニ因リ其違警
罪ノ刑即拘留ヲ以テ主刑トスル者ニ對シ罰金ヲ附加ス可カラサルハ言ヲ俟タス且罰金ハ二
圓以上ニシテ二圓未満ハ科料ノ範圍ニ屬シ而シテ又科料ハ以テ附加刑ト爲ス可カラサルハ
刑法第十條ニ之ヲ列載セサルヲ以テ明瞭ナリ然ルニ原裁判言渡ハ刑法第四百一條ノ刑ヲ減
輕シ被告人ニ適施スルニ五日ノ拘留ヲ以テシナカラ之ニ一圓ノ罰金ヲ附加シタルハ附加刑
ヲ誤用セシ裁判ナリトス依テ治罪法第四百三十一條ニ從ヒ原裁判言渡ノ内附加刑ノ部分ヲ
破毀シ之レヲ取消スモノナリ

第七百十號

○判文(賭博) 明治十五年十二月廿五日上告
同 十六年十一月十六日發付

山梨縣東山梨郡上萬力村平民安

二百九

右衛門長男農

中

風淺次郎
明治十五年十一月廿五年

同郡八幡村五百二十一番地平民農

土

橋仁三郎
明治十五年十一月三十二年八月

賭博被告事件ニ付明治十五年十一月一日甲府輕罪裁判所ニ於テ刑法第二百六十一條ニ依リ各二月ノ重禁錮ニ處シ十圓ノ罰金ヲ附加スト言渡シタル裁判ニ服セス各上告ヲ爲シ中風淺次郎陳述ノ要領者土橋仁三郎方ヘ行キタルニ同人ハ不在ニテ其妻「トク」ト談話中巡查立入り兒童ノ弄スルメクリ札ヲ取り出シ博奕手合ヲ爲セシ者ト爲シ突然拘引ニ及ハレタルモノニテ所謂麻耳ニ水ヲ差サレシ如キ仕合セニシテ博戲ヲナセシニハアラサルニ遂ニ該裁判ニ及ハレタルハ不當ナリト云ヒ土橋仁三郎ノ陳述ハ明治十五年十月二十日ハ村社祭典ニ付物品買求ノ爲メ甲府魚町ヘ立越シ歸途ニ於テ淺次郎カ拘引セラレシヲ聞キ驚愕ノ折柄巡查ニ出會問答ノ末歸宿致ス後竟ニ該裁判ヲ被ムルト雖決テ博戲ヲ爲シタルモノニ無之博器ハ固ヨリ小兒ノ弄物ナリシヲ之ヲ證據ト爲シ巡查ノ偏言ヲ信シ該裁判ニ及ハレシハ不當ナリト云フニアリ

對手人檢事補重良三ハ上告ノ不理ナルヲ逐一辨護セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ以判決スル左ノ如シ
淺次郎仁三郎カ上告ノ要旨ハ孰レモ博奕ハ爲サ、リシニ小兒ノ弄セル品物ヲ證據ト爲シ且ハ巡查ノ偏言ヲ信シ博戲ヲ爲セシモノト裁判ヲ下サレシハ不當ナリト云フニ在リト雖抑原裁判官カ各証憑ニ據リ判定セシ事實ニ對シ漫リニ非難ヲ容ル、ヲ得サルモノナルニ今其探証ノ適否ヲ論告シテ事實ニ侵入セントスルモ上告ノ原由ト爲スヲ得ス何トナレハ治罪法第百四十六條第二項ニ被告人ノ白狀官吏ノ檢証調書證據物件証人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアレハナリ夫レ斯クノ如クナルカ故ニ上告ノ趣旨ハ相立ストス

右ノ理由ニ付治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ヲ棄却スルモノ也

第千七百十一號

○判文(証券印稅犯則) 明治十五年十二月廿二日上告
同 十六年十一月十六日發付

高知縣土佐國安川郡中島町番地
不詳當地札幌縣石狩國札幌區南
五條西四丁目十番地寄留貸座敷
番頭平民

城岡慶吉郎

明治十五年十月三十一年五月生

証券印稅規則違犯被告事件ニ付明治十五年十月十九日札幌輕罪裁判所カ証券印稅規則第四

則第二條ニ依リ科料金二十錢ヲ言渡スヘキ處明治十五年十月四日發覺既ニ公訴期滿ナルヲ以テ免訴ヲ言渡ストノ判決ニ對シ同所檢察官檢事補近藤昂藏カ上告ノ要領ハ被告ハ明治十五年二月二十六日金十圓ノ借用証書ヲ無印紙ニテ交付シタル者ナレハ証券印稅規則第四則第二條ニ依リ脫稅高ノ二十倍ノ科料ニ處スヘキ當然ナルニ既ニ公訴期滿免除ニ係ルヲ以テ免訴スト言渡シタルハ不當ノ裁判ナリト云フニ在リ

對手人城岡慶吉郎ハ期限内答辨書ヲ差出サス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

本案慶吉郎カ被告事實ハ金二圓以下ノ科料ニ該ルヘキモノナレハ即チ刑法第九條ニ從ヒ違警罪ノ範圍内ナリトス而シテ明治十四年第四十四號布告ニ違警罪ノ審判ニ關スル一切ノ手續ハ云々當分ノ内便宜取計ヲヒ其裁判言渡ニ付テハ總テ上訴ヲ許サストアルニ因リ本件ハ成リ立タサル上告ナリトス因テ棄却スル者也

第七百七十二號

○判文(私書偽造)明治十五年十二月廿三日上告
明治十六年十一月十六日發付

三重縣伊賀國名張郡狹田村平民

中川清次郎

明治十五年八月

三十五年六月

明治十五年八月二十一日上野治安裁判所ニ開キタル安濃津輕罪裁判所ニ於テ右中川清次郎カ詐欺取財私文書偽造被告事件ヲ審判シ所犯新法施行前ニ在ルヲ以テ新舊ノ法ヲ比照シ舊

法ノ輕キニ從ヒ詐欺取財條ニ依リ三月ノ重禁錮ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ同裁判所檢察官三重縣警部堀萬興ハ上告ヲ爲シタル其旨趣ハ被告人カ森永惣市上川甚四郎及ヒ西坂庄兵衛ノ私書ヲ偽造シ金圓ヲ詐取シタル事件ニ付公訴ヲ爲シ裁判所ニ於テ之ヲ受理シタルニ唯庄兵衛ニ對スル事件ノミ裁判ヲ與ヘ惣市甚四郎ノ事件及ヒ私訴ニ對シ何等ノ裁判ヲ與ヘサリシハ不法ノ裁判ナリト云フニ在リ大審院檢事加納久宜ニ於テハ原裁判ハ上告趣意ノ如ク請求ヲ受ケタル事件ニ付判決爲サ、ルモノニシテ即チ治罪法第四百十條第七ニ該ル不法ノ裁判ナリ且舊法實施中ノ詐欺取財ヲ處斷スルニ新法ノ正條ヲ明示セサルノミナラス明治十四年第八十一號布告第二條ニモ依ラサル等不當ノ点頗ル多キヲ以テ原裁判ヲ破毀シ他ノ裁判所ニ移サレノヲ望ムトノ意見ヲ陳述シタリ依テ之ヲ判決スルコト左ノ如シ

本件公判始末書ヲ閱スルニ檢察官公訴ノ要領ハ被告人ハ森永總市上川甚四郎ノ私書ヲ偽造シ及ヒ西坂庄兵衛ヨリ金七十圓借入ルヘキノ承諾ヲ得テ百圓ノ証書ヲ偽造シ其三十圓ヲ詐取シタル者ナリトノ旨趣ナルニ原裁判官ハ庄兵衛ニ對スル廉ノミヲ判決シ其他ノ判決ヲ爲サス又甚四郎カ私訴ニ對シ裁判ヲ與ヘサルハ即チ請求ヲ受ケタル事件ニ判決ヲ爲サ、ルモノナリ其他詐欺取財ノ罪ハ舊法ノ刑期新法主刑ノ刑期内ニ在ルヲ以テ新法ニ從フヘキモノナルニ新法ノ正條ヲ舉示セスシテ單ニ舊法ニ依リ且新法ノ刑名ヲ附シタル如キハ擬律ノ錯誤アリト謂ハサルヲ得ス之ヲ要スルニ原裁判ハ治罪法第四百十條第七項ノ場合ニ適當スル不法ノ裁判ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ノ成規ニ從ヒ原裁判言渡ノ全部ヲ破毀シ被告事件ヲ大坂輕罪裁判所奈良支廳ニ移シ更ニ審判セシムルモノナリ

第七百十三號

○判文(量器偽造) 明治十六年一月廿六日上告
十六年十一月十六日發付

熊本縣肥後國玉名郡木葉村二百

一番地平民指物職

木

村 壽 八

明治十五年十一月

三十八年十月

右壽八カ被告事件ニ付明治十五年十一月二十一日山鹿治安裁判所ニ開キタル熊本輕罪裁判所ニ於テ被告ハ明治十五年十月上旬頃ヨリ數種ノ量器ヲ偽造シ既ニ之ヲ賣却シタル証跡ハ被告人任意ノ自白巡查田原格平ノ告發書及ヒ其犯罪ノ現存物件ニ據テ証憑充分ナリトス依テ之ヲ法律ニ照スニ此行爲ハ刑法第二百二十七條度量衡偽造ノ罪トシ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ十圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス可キ者トス因テ被告人木村壽八ニ對シ重禁錮二年罰金十圓ノ刑ヲ言渡ス者ナリトノ裁判ニ對シ被告上告ノ要點ハ郡役所ニ届ケ置キ枘ニ類似シタル箱ヲ製造シタルヲ以テ量器ヲ偽造シタルモノトシ又右箱ハ實際販賣シタルト之レ無キニ先ニ警察署ノ取調ヲ受ル時官署ノ威勢ニ畏レ其箱ヲ販賣シタル旨事實ナキ供述ヲ爲シタリ因テ其供狀ニ依リ量器偽造販賣ノ證據トシ刑法第二百二十七條ニ依リ處斷セラレタルハ不當ナリト云フニ在リ爰ニ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

本案上告ノ歸着スル所ハ原裁判官カ犯罪ノ事實判定上又ハ採証ノ方法ニ不服ヲ唱へ覆審ヲ

求ムルニ過キスシテ到底治罪法第四百十條ニ規定セル各項ノ場合ニ適當セサルヲ以テ上告ノ理由ナキモノトス因テ該上告ハ同第四百二十七條ニ則リ棄却スルモノナリ

第七百十四號

○判文(竊盜) 明治十五年十二月廿一日上告
十六年十一月十六日發付

東京府京橋區南新堀町二丁目十

二番地平民

長 谷 川

伊 助

年齡不詳

同府日本橋區本材木町二丁目十

一番地大塚勝五郎方寓居千葉縣

平民

後

關

ハ ル

年齡不詳

明治十五年十一月一日東京輕罪裁判所會議局ニ於テ田中金次郎ノ竊盜被告事件ニ係ル豫審終結言渡ニ對シ右長谷川伊助後關「ハル」カ故障申立ヲ判決シ民事原告人ハ私訴ニ付越權ノ處分アルニ因リ豫審ノ言渡シニ故障ヲ爲スヲ得ルモ其他ノ事實ニ就テハ故障ヲ爲スヲ得ルノ限ニ非ラス況ンヤ告訴人ハ未タ民事原告人タルノ資格ヲ有セサルモノナルニ因リ該故障ヲ棄却スト言渡シタリ

長谷川伊助後關「ハル」ハ右判決ヲ不法ナリトシ上告ヲ爲シタリ其旨趣ハ豫審判事カ上告人等ノ所有物ヲ亡石井勘左衛門ノ所有ナリト指定セラレタルハ越權ノ處分ナリ又告訴狀中ニ物品差押方ヲ請願シ物品明細書ヲモ具申シアルニ會議局ニ於テ民事原告人ノ資格ヲ有セサル者ト爲シ且故障ヲ棄却スト言渡タルハ違法ノ言渡シナリト云フニアリ大審院ニ於テ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決ヲ爲スコト左ノ如シ

本件ハ原裁判所豫審判事ニ於テ被告人田中金次郎ニ對シ他人ノ財産ヲ竊取スルノ證據ナク被告事件罪ト爲ラサルコト明瞭ナリトシ免訴ヲ言渡シタルモノニシテ越權不法ノ處分アルニ非ス而シテ上告人等ハ告訴狀中ニ物品差押ヲ請願セリト云フト雖モ別ニ私訴ヲ爲シタルニアラサレハ民事原告人タルノ資格ヲ有セサルモノニシテ一ノ告訴人タルニ過キサルナリ既ニ民事原告人ノ資格ナキ者ナレハ固ヨリ訴訟ニ關係シテ上訴ヲ爲スコト得ルノ權ヲ有セサルモノトス依テ本件上告ヲ棄却スルモノナリ

第七百十五號

○判文(持兇器強盜)明治十五年十二月廿三日上告
十六年十一月十六日發付

秋田縣羽後國平鹿郡睦合村出生
無籍

信 太 貞 藏

明治十五年九月

四十三歲

強盜犯罪被告事件ニ付明治十五年九月二十八日秋田縣罪裁判所會議局ニ於テ右被告人カ豫

審終結ノ言渡ニ對スル故障申立ヲ審理シ豫審掛ニ於テ被告人カ穿テ居シ木綿白緒ノ草履ハ強盜犯罪證據ノ一部ト認定シタルハ其當ヲ得タル者ト判決シタル言渡ニ服セス仍ホ被告貞藏ニ於テ上告ヲ爲シタリ其趣旨ハ被告人カ履キ居タル草履ヲ以テ強盜犯罪ノ證據ナリト判決アレモ該草履ハ長谷川司ヨリ借受ケタル者ニ相違無之是ハ澤田又吉ヲ醉中下駄ヲ以テ毆打シ不得止借用ノ草履ヲ履キ毆打ノ事實出訴ノ際拘留相成リタル始末ニシテ決テ強盜等致シタルコト無之トノ旨ヲ論辨セリ

對手人檢事補小澤宗央ハ被告人ヲ強盜犯ナリト判定セシハ單ニ草履ノミヲ證據ト爲シタルニアラス他ニ証憑著明ナルモノアルヲ以テ被告人ノ上告ハ其罪ヲ免レントスル口頭ノ陳述ニ外ナラサルヲ以テ當然棄却アル可シトノ旨ヲ答辨セリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ規則ニ從ヒ檢事加納久宜ノ意見ヲ聽クニ上告ノ趣旨ヲ約言スレハ被告人カ穿テ居シ草履ハ長谷川司ヨリ借受ケタル者ナルヲ被害者ノ宅ニ在リシ者トシテ被告人カ強盜罪ヲ犯シタル證據トセラレタルハ不服ナリト云フニ在リテ畢竟裁判官ノ職權内ナル採証如何ヲ非難スル者ニシテ上告ノ理由ト爲スヲ得ス况ヤ草履ノ事蹟ニ就テハ會議局ニ於テ審理ノ上其證據ト爲ル可キ理由ヲ明示シタル者ナレハ到底上告ノ趣意不相立旨ヲ辨明セリ依テ判決スルコト左ノ如シ

上告ニ因リ原裁判所豫審終結言渡書及ヒ會議局ノ判決書ヲ參照スルニ本案被告カ強盜ヲ犯シタリト判定爲シタルハ被告人カ履キ居タル草履ノミヲ證據ト爲シタルニアラスシテ巡查ノ陳述書相當官吏ノ作りタル檢証調查書家宅搜索ニ因テ得タル朱鞘ノ刀其他各証人ノ陳述ニ

依リ被告人ヲ重罪犯ト爲シ加之該草履ハ長谷川司ヨリ貸渡シタル物ニアラサル証憑ヲ明瞭ニ記載シアレハ原判決ハ毫モ不法ノ廉アルコト無シ而シテ上告ノ論旨ハ草履ノ一点ニ就キ探証ノ當否ヲ批難スルニ過キスシテ治罪法第四百十條ノ規定ニ適當セサルヲ以テ上告ノ理由ナキ者トス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本件上告ヲ棄却スル者也

第七百十六號

○判文(毆打創傷)明治十五年十二月十五日上告
明治十六年十一月十六日發付

京都府丹波國天田郡小倉村平民
農

古

關定七
明治十五年十月二十九歲

明治十五年十月二日園部輕罪裁判所ニ於テ右關定七カ被告事件ニ對シ被告ハ人ヲ毆打シタルノ証憑ハ充分ナレドモ其成傷ハ被告ノ所爲ナリトノ證據ハ充分ナラスト爲シ單ニ毆打ノ罪ヲ治シ刑法第四百二十五條ヲ適用シ拘留五日ニ所スルモノトノ裁判ヲ言渡シタリ
原裁判所檢察官檢事補堀口順逸ハ之ヲ不法トシ上告ヲ爲シタルノ要旨ハ被告カ被害者ヲ堤上ヨリ突落シ傷ヲ爲サシメタルハ被告カ自由任意ノ白狀被害者ノ陳述醫師ノ診斷書等ニ據テ証憑充分ナルニ之ヲ採用セスシテ單ニ刑法第四百二十五條ヲ適用セシハ事實ノ理由ニ齟齬アルノミナラス擬律ニ錯誤アリト謂フニ在リ玆ニ本院檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左

ノ如シ

凡諸般ノ証憑ヲ取捨スルハ法律上之ヲ事實判官ノ權内ニ一任シタレハ其取捨ノ當否如何ハ他ヨリ之ヲ左右スルヲ得ヘカラサルモノトス今本案論告スル所ヲ看ルニ被告ノ白狀被害者ノ陳述醫師ノ診案等ノ諸証ヲ採用セサルハ事實ノ理由ニ齟齬アルノミナラス擬律ニ錯誤アリト謂フニ在レトモ是止ヲ探証ノ當否ヲ非難スルニ外ナラサルモノニシテ事實理由ノ齟齬擬律ノ錯誤ニ係ル上告ノ理由アリト見做スヲ得ス故ニ本案上告ハ其理由ナキモノトス仍テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却スル者也

第七百十七號

○判文(官廳令違犯)明治十六年一月廿三日上告
明治十六年十一月十六日發付

札幌縣後志國岩内郡御銚内町平民
民髮結職

北川

治郎吉
明治十五年七月

靜岡縣伊豆國加茂郡妻良村平民

土

谷重吉
明治十五年七月

神奈川縣武藏國久良岐郡字八番

宿平民

神

田久藏

札幌縣札幌區雁來村平民平吉長男
明治十五年七月三十四年一月

新田

幸右衛門

函館縣函館區若松町平民富四郎
明治十五年七月三十四年一月

長男

谷

藤治三郎

山形縣羽後國飽海郡廣沖村平民
明治十五年七月二十三年

藤八長男

青

山文三郎

右治郎吉外五名カ舊開拓使布達違犯ノ被告事件ニ付明治十五年七月十五日岩内治安裁判所
ニ於テ刑法第二條ニ依リ無罪ト言渡シタル裁判ニ對シ札幌縣岩内警察署長警部朝田定昌ハ
明治十五年七月二十日付ヲ以テ上告趣意書ヲ差出シ同年十一月二十七日付ニテ上告申立書
ヲ差出シタリ因テ之ヲ按スルニ治罪法第四百十四條ニ上告ノ期限ハ三日ナリトス同法第二
十條ニ此法律ニ於テ訴訟ヲ爲スニ付定メタル期限ヲ經過シタル時ハ特別ノ場合ヲ除クノ外

其權ヲ失フヘシトアリ本件上告ハ已ニ其期限ヲ經過シ別ニ特別ノ場合アルニアラサルヲ以
テ上告ノ權ヲ失フタル者ナリ仍テ治罪法第四百二十七條ニ遵ヒ該上告ハ之ヲ棄却スル者也
第千七百十八號

第千七百十八號

○判文(集會條例違犯)明治十六年十月廿五日上告
全 年十一月十六日發付

兵庫縣丹波國水上郡和田村平民

植

木致一

右植木致一ハ集會條例違犯被告事件ニ付神戸輕罪裁判所姫路支廳ニ於テ公判中明治十六年
九月十三日裁判管轄ヲ移スノ訴ヲ爲シ趣意書ヲ差出シタリ其要旨タルヤ裁判廳地方廳ト相
連合シ強テ言論ヲ禁シ且無罪ノ身ヲ捕縛シ又巡查ニ於テ密ニ證人ノ家ニ就キ恐嚇詐言ヲ以
テ口供ヲ要シ又法廷ニ於テ無効ノ證言ヲ採用セラレタル等種々抑制ノ所置アルハ嫌疑ノ甚
シキ者ト云フニ在リ本院檢事長渡邊驥ハ明治十六年十月二十四日意見書ヲ差出シタリ其主
点ハ過當ノ猜察ニ出テタル者ニシテ更ニ管轄ヲ移スニ足ルノ理由ナシト云フニ在リ茲ニ本
院會議局ニ於テ專任判事ノ報告書及ヒ檢事長ノ意見書ニ依リ之ヲ判決スルニ本案ノ訴タル
ヤ強テ言論ヲ禁セラレ無罪ノ身ヲ捕縛セラレタル等種々揭擧スト雖モ全ク一己ノ猜疑ニ止
マル者ニテ治罪法第四百五十四條ノ原由ナキモノニテ到底裁判管轄ヲ移スヘキノ原由ナキ
モノトス因テ該訴ハ棄却スルモノ也

第千七百十九號

○判文(賭博)明治十五年十二月廿五日上告
同 十六年十一月十六日發付

静岡縣遠江國城東郡高橋村平民

山田善右衛門
明治十五年九月
三十四年

同縣同國同郡同村平民

山田安兵衛
明治十五年九月
四十年

同縣同國同郡同村平民

浦野熊平
明治十五年九月
二十七年十月

同縣同國同郡同村平民

松本權平
明治十五年九月
三十六年

同縣同國同郡赤土村平民

赤堀庄藏
明治十五年九月
六十二年十月

同縣同國同郡同村平民

袴田太郎助
明治十五年九月
四十六年八月

同縣同國同郡同村平民

赤堀作中
明治十五年九月
二十八年二月

同縣同國同郡同村平民

増田萬五郎
明治十五年九月
五十二年

同縣同國同郡同村平民

樽林直平
明治十五年九月
三十一年八月

同縣同國同郡古谷村平民

成瀬小平
明治十五年九月
三十四年十一月

同縣同國同郡川上村平民

山下甚平
明治十五年九月
三十四年

同縣同國同郡同村平民

白岩市太郎
明治十五年九月
四十一年四月
二百二十三

同縣同國同郡上土方村平民

鷺山儀作
明治十五年九月

同縣同國同郡高橋村平民

赤堀周五郎
明治十五年九月

同縣同國同郡同村平民

赤堀喜作
明治十五年九月

同縣同國同郡同村平民

赤堀林藏
明治十五年九月

同縣同國同郡同村平民

赤堀林藏
明治十五年九月

同縣同國同郡同村平民

白岩彌八
明治十五年九月

同縣同國同郡同村平民

堀武重
明治十五年九月

同縣同國同郡同村平民

堀武重
明治十五年九月

同縣同國同郡同村平民

赤堀正作
明治十五年九月

同縣同國同郡新野村平民

河原崎五郎一
明治十五年九月

同縣同國同郡同村平民

河原崎五郎一
明治十五年九月

同縣同國同郡同村平民

戸塚市郎平
明治十五年九月

同縣同國同郡比木村平民

栗山玄吉
明治十五年九月

同縣同國同郡成行村平民

出野幸吉
明治十五年九月

同縣同國同郡成行村平民

出野幸吉
明治十五年九月

右山田善右衛門外二十二名カ賭博犯被告事件ニ對シ明治十五年九月十九日掛川治安裁判所
ニ於テ開キタル濱松輕罪裁判所於テ被告山田善右衛門以下三名ハ賭場ヲ開張シ利ヲ圖リ又
ハ博徒ヲ招結シ及ヒ財物ヲ賭ケ現ニ博奕ヲ爲セシ等ノ證據充分ナラサルヲ以テ問フヘキノ

罪ナキモ警察規則ニ違ヒ無届ニテ大弓射的ヲ開キタルヲ以テ刑法第四百三十條ニ依リ定メタル静岡縣違警罪第三條左ノ諸件ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ストアリ其第一項ニ警察規則ニ違背シタル者トアリ其取締規則ニ大弓射的其他警察ノ取締ヲ要スルモノナルニ依リ明治十三年同縣甲第六十七號布達ニ準シ終審ノ裁判トシテ各壹圓ノ科料ニ處スト言渡シ又被告赤堀庄藏以下十八名ハ善右衛門等ノ招キニ應シ大弓射的ヲナシタルモ財物ヲ賍シ輸贏ヲ爭ヒタル證憑充分ナラサルヲ以テ無罪ト言渡シタリ檢事代理警部補野元盛幹ハ右ノ言渡ニ對シ上告ヲ爲シタリ其要旨タルヤ第一號ヨリ第十號ノ證憑及ヒ赤堀周五郎山田善右衛門ノ供狀ニテ被告赤堀周五郎外二十二名ノ犯狀明白ナルヲ以テ被告山田善右衛門山田安兵衛浦野熊平松本權平ハ刑法第二百六十條及ヒ静岡縣違警罪第三條第一項ヲ適用スヘキヲ山田善右衛門外三名ヲ違警罪ニ問ヒ餘ハ無罪ノ言渡ヲナシタルハ不當ノ裁判ナリト云フニ過キス爰ニ本院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

本案上告旨趣ノ歸着スル所原裁判官カ探證及ヒ犯罪ノ事實認定上ニ對シ不當ヲ論告スルニ過キス然ルニ證憑ノ取捨鑑別犯罪事實ノ判定ハ治罪法第四百十六條第二項ノ規定ヲ以テ特ニ承審官ニ與フル所ノ職權ニシテ他ヨリ輒ク干涉非難スルコト得ス且ツ原書類ヲ點檢スルニ原裁判上敢テ不當ト認ムヘキ廉チク到底治罪法第四百十條ノ各項ニ該當シタル上告ノ原由ナキモノナルヲ以テ同法第四百二十七條ニ從ヒ該上告ハ之ヲ棄却スルモノ也

第七百廿號

○判文〔詐欺取財〕明治十五年十二月七日上告
十六年十一月十九日發付

石川縣加賀國金澤區木町一番町

士族忠勝弟緒商

平野助三郎

明治十五年七月

二十五年七月

同縣同國同區春日町五丁目平民

雜穀商

坂戸次郎左衛門

明治十五年七月

五十一年

明治十五年七月二十九日金澤輕罪裁判所ニ於テ右被告人二名ノ犯罪ヲ審判シ助三郎カ詐欺取財証書偽造ノ二罪ハ所犯新法施行前ニ在ルヲ以テ新舊ノ法ヲ比照シ新法ノ輕キニ從ヒ一ノ重キ詐欺取財ノ罪ヲ論シ刑法第三百九十條ニ依リ重禁錮三年ニ處シ仍ホ證券印稅規則違犯ノ罪アルヲ以テ同規則ニ照シ罰金十五圓九十錢ヲ言渡シ次郎左衛門ハ證券印稅規則違犯ノ罪ニ依リ同規則ニ照シ科料金一圓八十錢ヲ言渡シタリ被告人二名ハ其裁判ニ服セス各自ニ上告ヲ爲シ助三郎カ上告ノ旨趣ハ證券印稅犯則ノ處斷ニ對シテハ異議ナキモ本件偽造ト認メラレタル預ケ金通帳ノ文字ヲ増減變換セシハ田村善太郎ノ所爲ニシテ被告人ニ於テ詐偽ノ手段ヲ爲シタルニ非ス而シテ其他ノ犯罪ハ豫審中被告人ヨリ自白シタルモノナレハ自首ト同ク減免ノ處分アルヘキニ原裁判ノ玆ニ出サルハ不法ナリト云フニ在リ次郎左衛門カ

上告ノ旨趣ハ平野助三郎ト連署ノ八十圓預リ証書ニ印紙ヲ貼用セカリシハ相違ナキモ其二
 百圓ノ証書ニ受人トシテ調印アルハ助三郎カ印影盜用ニ出タルモノニシテ檢察官ニ於テモ
 被告人ノ所爲ニ非スト認メラレタル所ナルニ裁判官ハ二通ノ無印紙証書ニ受人ト爲リタリ
 ト判定セラレシハ不當ナリト云フニ在リ大審院檢事池上三郎ノ意見ヲ聽クニ上告ノ趣意ハ
 要スルニ治罪法第四百十條ノ項目外ニ涉ルヲ以テ相立サルモノトス然レモ原裁判ヲ檢スル
 ニ被告助三郎ハ証券印稅規則ニ違犯シタリトシ罰金十五圓九十錢ヲ言渡シタルハ擬律ノ錯
 誤ニ係ル不當ノ處斷ナリトス何トナレハ被告カ數次ノ犯則ハ証書一通毎ニ一罪ヲ組成スヘ
 キニ付其各通ノ犯則タル數罪ニ對シ一々相當ノ刑ヲ適施スヘキモノナルニ原裁判ハ數次犯
 則ノ脫稅減稅高ヲ合算シ科料ノ罪ヲ罰金ノ刑ニ入レシノミナラス其計算上ニ錯誤アルヲ以
 テナリ故ニ附帶上告ヲ爲シ原裁判ノ破毀ヲ請求ストノ旨趣ヲ陳述シタリ依テ之ヲ審按スル
 ニ被告人ノ上告ハ共ニ事實証憑ノ有無ヲ陳辯シ原裁判官ノ判定上ニ對シ不服ノ旨ヲ訴フル
 ニ過キス抑諸般ノ証憑ヲ採擇シテ犯罪ノ事實ヲ判定スルハ法律ニ於テ裁判官ニ任從スル所
 ナレハ其職權内ニ侵入シ判定ノ當否ヲ論難スルモノヲ以テ上告ノ原由ト爲スコト得ザルモ
 ノトス而シテ本院檢事ノ附帶上告ニ係ル被告人カ數次ノ犯則ニ對シ原裁判ノ罰金ト科料ト
 ナ混同シ脫稅ト減稅トヲ區分セズ從テ金額ノ計算ニ差異ヲ生シタルハ不當ノ裁判ト謂ハサ
 ルヲ得ズ故ニ原裁判官ノ被告助三郎カ詐欺取財ノ犯罪ニ對スル處斷ハ相當ナルモ其証券印
 稅規則違犯ノ所斷ハ擬律ノ錯誤アルモノト判定ス
 右ノ理由ナルヲ以テ被告人ノ上告ハ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却シ其附帶ノ上告

ニ付キ同第四百三十一條ニ依リ平野助三郎ニ對スル原裁判言渡中証券印稅規則違犯ノ處斷
 ニ係ル一部ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判言渡ヲ爲スコト左ノ如シ

平野助三郎

原裁判言渡書ニ明示シタル事實ニ依ルニ被告人カ犯則ノ所爲ハ第一金二百圓ノ借用証書
 ニ印紙ヲ貼用セズ第二金高記載ナキ延期約定証書ニ界紙ヲ用ヒス第三金百七十圓連借証
 書ニ壹錢印紙ヲ貼用セズ第四金八十圓ノ使用ヲ爲サ、ル明文ナキ預リ証書ニ印紙ヲ貼用
 セズ第五金百三十圓借用証書ニ印紙ヲ貼用セズ第六金二百圓借用証書ニ印紙ヲ貼用セズ
 第七金百四十圓ノ荷爲替借用証書ニ印紙ヲ貼用セサル者ト確認ス其所爲証券印稅規則第
 四則第一條第二條及ヒ同改正第七條ニ依リ仍ホ明治十四年第七十二号布告第三條第五條
 ニ照シ第一ハ脫稅高二十錢ノ二十倍罰金四圓第二ハ脫稅高五厘ノ二十倍科料金十錢第三
 ハ脫稅高十六錢ノ十倍科料金一圓六十錢第四ハ脫稅高八錢ノ二十倍科料金一圓六十錢第
 五ハ脫稅高十三錢ノ二十倍罰金二圓六十錢第六ハ脫稅高二十錢ノ二十倍罰金四圓第七ハ
 脫稅高十四錢ノ二十倍罰金二圓八十錢ニ處スヘキモノナルニ因リ以上罰金四件ノ總計十
 三圓四十錢科料三件ノ總計三圓三十錢ヲ併科スルモノナリ

第一千七百廿一號

○判文(地券犯則)明治十五年十二月廿六日上告
 同十六年十一月十九日發付

福岡縣豐前國企救郡長濱浦平民
 中村光順後見人同浦平民高鶴久

四郎代人同浦平民漁業

中 村 八ツ

明治十五年八月
三十八年

地券犯則代首被告事件ニ付明治十五年八月三十一日小倉治安裁判所ニ開キタル福岡輕罪裁判所ニ於テ舊法ノ犯罪自首條ニ依リ其罪ヲ全免スト言渡シタル裁判ニ對シ檢察官田中良平上告ノ要領ハ本件被告ノ所爲タル中村光順ノ後見中光順ニ於テ亡父由五郎ノ家督相續ニ依リ讓リ受タル地券証滿六月内即チ同年十一月二十二日迄名面書換願出ヘキヲ等閑リ置キタルヲ以テ其翌二十三日初メテ犯則ノ罪ヲ成立シ爾後明治十五年八月二十五日迄引續キ死者ノ記名アル地券證ヲ所持シタルモノニシテ繼續犯罪ト云ハサルヲ得ス因テ其所爲ニ對シテハ明治十三年第五十二號布告及ヒ明治十四年第三十號布告ニ照シ罰スヘキ罪ナルモ未發自首ナルヲ以テ刑法第五條第二項ニ依リ第八十五條ニ照シ第七十條ニ從ヒ本刑ニ一等ヲ輕減スヘキモノナルニ單行ノ犯罪ノ如ク刑法第三條第二項ニ依リ新舊法ヲ比照シ新律綱領名例律犯罪自首條ニ依リ其罪ヲ全免シタルハ擬律ノ錯誤ト信認シ破毀ヲ求ムト云フニアリ

對手人被告代人中村「ハツ」ハ期限内答辨書ヲ差出サス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告及ヒ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

本案上告ノ旨趣ハ其當ヲ得タルモノナリトスルモ本件被告ニ適施スヘキ本刑ハ地券面金高拾圓未滿證印稅三錢ノ五倍科料金十五錢ニ該リ即チ違警罪ノ範圍内ニ在ルヲ以テ明治十四年第四十四號公布ニ依リ之ヲ上訴スルヲ許サ、ルモノナルニ付治罪法第四百二十七條ニ則

リ之ヲ棄却スルモノ也

第一千七百廿二號

○判文(強盜殺人) 明治十六年四月十六日上告
年十一月十九日發付

佐賀縣肥前國小城郡板屋村平民
農業

本 村 末 吉

明治十六年二月
二十九年三月

強盜人ヲ死ニ致シタル被告事件ニ付佐賀輕罪裁判所豫審掛ニ於テ刑法第三百八十條ヲ適用スヘキモノトシ長崎重罪裁判所ニ移ストノ豫審終結言渡ニ對シ故障ヲ爲シ長崎輕罪裁判所佐賀支廳會議局カ該言渡ヲ認可ストノ判決ニ服セス上判ノ要領ハ會議局判文ニ黒岩作太郎カ自白血及毛ノ粘着シタル脇差蒲原「タカ」森「ハル」ノ証言云々ニヨリ森彌兵衛夫婦ヲ殺害シ金錢ヲ強奪シタルコト明瞭ナリトアレト作太郎ハ上告人ニ對シ負債アルヲ以テ督責ノ末嚴敷耻シメシヨリ其宿怨ヲ晴サント冤罪ヲ申掛タルモノナラン且上告人ト作太郎ト不和中ナレハ右等ヲ共謀スルノ理アラシヤ加之血及ヒ毛ノ粘着シタル脇差ハ其以前紛失セシモノナレハ之ヲ所持スルノ理由ナシ又森「ハル」ノ証言ニ上告人カ毛髮中ニ血痕アリテ爲メニ毛髮凝結セシヲ見受ケタリト云フモ重罪ヲ犯シナカラ其毛髮ヲ其儘ニシテ置クノ理アラシヤ且筒袖襦袢ニ血液付着シアリタル旨蒲原「タカ」ノ申立アルモ該夜ハ之ヲ着用セシコトナケレハ旁以テ承服シ難シト云フニ在リ

對手人檢事補水澤正也ハ上告趣旨ニ對シ逐一其不當ヲ辨駁シ會議局ノ判決ハ最其當ヲ得タルモノナリト答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告及ヒ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
按スルニ上告ノ論旨タル被告ハ犯罪者ニ非ス裁判官カ証憑トセシ黒岩作太郎トハ宿怨アリ脇差ハ向キニ紛失シタルモノナリ血液ノ付着シタルト云フ襦袢ハ該夜着用セシコトナシト辨疏スト雖モ要スルニ承審官カ探証ノ當否ヲ非難シ之カ覆審ヲ求ムルニ過キサルハ治罪法第四百十條ノ項目外ニ涉ルヲ以テ上告ノ理由トナスヲ得サルモノナリトス
右ノ理由ナルニ依リ治罪法第四百二十七條ニ遵ヒ上告ヲ棄却スルモノナリ

第一千七百廿三號

○判文(賭博) 明治十五年十一月廿九日上告
同 十六年十一月十九日發付

兵庫縣攝津國菟原郡新在家村平民万助妻

岡野 三子
明治十五年六月四十七年
同縣同國同郡八幡村平民當時新
在家村住

石井 ツル
明治十五年六月三十二年

同縣同國同郡石屋村平民庄兵衛妻

長谷 三子
明治十五年六月四十二年

賭博被告事件ニ付明治十五年六月二十日神戸輕罪裁判所カ刑法第二百六十一條ニ依リ各重禁錮一月ニ處シ罰金五圓ヲ附加スト言渡タル裁判ニ服セス各上告セリ其要領ハ公判ノ際博奕致シタルコトナキ旨ヲ申立置タルニ之ヲ採用セラレスシテ却テ精神錯亂中ニ爲シタル神戸警察署新在家交番所ノ口供ニ依據シ處斷セラレタルハ不服ナリ又證人瀧見極ハ上告者ヲ拘引セシ巡查ナレハ事實ヲ申供スル者ニアラサルヲ該申供ヲ證言ト認メラレタルハ不服ナリ又博具トハ何ヲ認メラレタルヤ上告者ハ其由ヲ解スル能ハス且金錢ヲ懷中シタルトテ直チニ場錢ト云フヲ得サルニ是等ノ者ヲ以テ賭博犯罪者ト看認メラレタルハ不服ナルヲ以テ原裁判破毀ノ上更ニ無罪ノ言渡アラント願フト云フニアリ

對手人檢事補三俣秀彦ハ該上告ノ不理ナルヲ辨駁シ原裁判適當ナリト答辨セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
上告ノ理由トスル所被告人等ハ無罪ノ者ナルニ精神錯亂ノ際爲シタル供述又ハ被告等ヲ拘引シタル巡查ノ證言其他所持金等ヲ以テ賭博罪ヲ犯シタル者ト判定サレタルハ不服ナリト云フト雖モ原裁判所カ各證憑ニ依リ認定シタル事實ニ對シ不服ヲ訴フルニ過キサレハ破毀ヲ求ムルノ原因ト爲スヲ得ス何ントナレハ治罪法第四百十六條ニ被告ノ白狀官吏ノ檢證調書證據物件證人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアリテ事實

裁判所ニ任從セシ部内ナレハナリ因テ上告ノ趣旨相立タス
右ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スル者也

第七百廿四號

○判文(官林盜伐) 明治十五年十二月廿八日上告
明治十六年十一月十九日發付

島根縣出雲國島根郡美保關平民

竹細工業千太郎妻

上

坂ツ子

明治十五年十一月
二十五年生月不詳

同縣同國同郡同所平民竹細工業

廣二郎妻

黒

田ハツノ

明治十五年十一月
四十三年生月不詳

同縣同國同郡同所平民竹細工業

平吉妹

橋

本ツル

明治十五年十一月
二十五年生月不詳

同縣同國同郡同所平民竹細工業

忠兵衛長女

森

明治十五年十一月
十七年一月

官林盜伐被告事件ニ付明治十五年十一月十三日松江輕罪裁判所會議局ニ於テ豫審終結ノ故
障ニ對シ言渡シタル判決ニ服セス各上告セリ其要領ハ被告等ニ於テ官林ニ立入枝木ヲ竊取
シタルコト之レ無キニ松江輕罪裁判所豫審官ハ被告等カ毫モ關係ナキ山口健次郎ノ陳述ヲ
證據トシ上告人等ヲ有罪者トナシ公判ヘ移スト言渡タルハ不當ナルニヨリ故障ヲ爲シタル
處會議局ニ於テモ亦故障ノ申立ハ權利ナキモノト裁決セラレシハ不法ニシテ所謂擬律ノ錯
誤ナリト云フニ在リ

對手人檢事補岸本重整ハ該上告ノ趣旨ハ其當ヲ得サルモノナリト答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ

治罪法第四百十七條ニ上告申立人ハ其申立ヲ爲シタルヨリ五日内ニ趣意書ヲ原裁判所ノ書
記局ヘ差出ス可シトアリ按スルニ本件申立ヲ爲シタルハ十一月二十日ニ在レハ同月二十五
日迄ニ其趣意書差出スヘキニ同月二十八日附ヲ以テ差出セシハ規定ノ期限ヲ失シタルモノ
ニ付治罪法第四百二十七條ニ依リ之ヲ棄却スルモノ也

第七百廿五號

○判文(富籤) 明治十五年十二月廿七日上告
十六年十一月十九日發付

栃木縣下野國河内郡田野村平民

戸長

小野口保吉

明治十五年十月三十八年

栃木縣下野國河内郡寶木村平民

戸長

荒井正一郎

明治十五年十月三十八年五月

栃木縣下野國河内郡福岡村平民

戸長

枝村勘一郎

明治十五年十月五十六年

栃木縣下野國河内郡新里村平民

農業

半田一郎

明治十五年十月四十年十月

栃木縣下野國河内郡古賀志村平民

農業

邊六郎

明治十五年十月三十四年

栃木縣下野國河内郡田野村平民

農業

小野口五郎作

明治十五年十月三十六年

財物ヲ醜集シ富籤ヲ以テ利益ヲ僥倖シタル被告事件ニ付明治十五年十月卅日宇都宮輕罪裁判所カ富籤ニ類似スルモ眞ノ富籤ニアラスト認メ無罪ト言渡タル裁判ニ對シ檢事補須古織之助ハ上告セリ其要領ハ第一本案被告事件ハ富籤ニ類似スルモ其實眞ノ富籤ニアラサルモノト認定ストノミアリテ何ヲ以テ眞ノ富籤ニアラサルヤチ明示セサルハ治罪法第三百四條同第三百五條ニ違背シタル裁判ナリトノ第二糶蘭十二會目落札人新應社ハ拾六圓ノ當リ金ナルヲ判然タルニ裁判言渡ニ三拾圓以上五拾圓以下ヲ得ルトアルハ事實ノ理由ニ齟齬アルモノナリトノ第三公判言渡ノ節檢事補吉野信三出席シタルハ本官ノ代理ニアラス檢察官ノ本分ニ因リ出席シタルモノナレハ治罪法第三百十四條第三項ニ從ヒ數人ノ氏名ヲ列記スヘキモノナルニ代理ノ名目ヲ冠ラセタルハ越權ノ處分ナリトノ第四被告事件タル富籤ヲ以テ利益ヲ僥倖シタルモノタル其方法ヲ以テ明瞭ナレハ刑法第二百六十二條ヲ以テ罰スヘキモノナルニ之ヲ無罪ナリト判定セシハ擬律錯誤ナリトノ以上ノ理由ニ依リ破毀ヲ求ムト云フニアリ

對手人小野口保吉以下五名ハ上告趣旨ノ不當ナルヲ辨駁シ原裁判允當ナリト答辨セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽クニ原檢察官ノ上告趣意ハ到底其
二百三十七

効力ナキモノト思考スルモ他ニ不當ト認ムル点アルヲ以テ爰ニ附帶上告スト其要ニ曰原裁判言渡ヲ按スルニ其事實ノ部ニ株金ヲ醜集シ抽籤ヲ行ヒ其利益ヲ僥倖シタルモノタルノ理由ヲ掲ケテ其富籤ニ類似ノ者ナリト云フハ前後矛盾ノ理由ナリト然レモ彼ノ理由ヲ以テ齟齬セサルモノトセンカ然ラハ事實ノ理由ニ不備ナルモノト云ハサルヲ得ス何ントナレハ富籤ニ類似スルモ其實眞ノ富籤ニ非スト單獨ノ理由ヲ付シ原裁判官カ謂フ眞ノ富籤ノ理由ヲ辨明セサルヲ以テ本案被告事件ハ果シテ眞箇ノ者ニアラスシテ類似ノ者ナルヤ否ヤ知ルニ由シナク因テ治罪法第四百十條第九項ノ場合ニ因リ破毀ヲ求ムトノ一玆ニ之ヲ審案スルニ

上告第一ノ理由トスル處富籤ニ類似スルモ眞ノ富籤ニアラスト云フモ其理由ヲ付セス治罪法第三百四條第三百五條ニ違背セシモノナリト云フニアリト雖モ其第三百四條ハ裁判所ニ於テ刑ノ言渡ヲ爲スニハ云々トアリテ本案被告事實ノ如キ無罪ノ言渡ニハ適切ナラサルナリ其第三百五條ニ無罪ノ言渡ヲ爲スニハ其理由トシテ被告人ニ對シ犯罪ノ證據ナキヲ明シス可シトアリテ被告人ノ所爲罪トナラサルトノ理由ヲ付シタレハ特ニ其論決セシ点ニ就キ一々之ヲ説明スヘキヲ示シタル法文ニアラサルナリ上告第二裁判言渡ニ掲ケタル金高ハ事實ニ齟齬シタルモノナリト云フモ其方法ノ概畧ヲ示シタルマテニテ被告事件ニ對シ必要ト認ムヘキモノニアラサレハ敢テ其更正ヲ要スヘキ限ニアラサルナリ上告第三治罪法第三百十四條末項ニ裁判言渡書ニハ其言渡ヲ爲シタル裁判所年月日其事件ニ干預シタル檢察官ノ氏名ヲ記載ス可シトアリテ其干預セシ檢察官數名ヲ列記スヘキヲ示シタルニアラサレハ

仮令代理ノ名ヲ冠ラセタルモ違法ナリト云フヲ得ス何ントナレハ檢察官ハ一個同籍タルノ原則アレハナリ上告第四ノ理由ハ原裁判所カ認メタル事實ニ對スル抗擊ニテ上告ノ理由ト爲スニ足ラス因テ上告ノ趣旨總テ効ナキモノトス

附帶上告ノ理由トスル事實理由ノ前後矛盾セシヨリ終ニ其不備ニ至リタルモノナリト云ヒ歸スル處富籤類似ト認メ眞箇ノ富籤ニアラスト判定スルモ其眞箇ノ富籤ノ何ナルヲ辨明セサレハ果シテ其當否ヲ見ルニ由シナシト云フニアリト雖モ原裁判言渡ハ其富籤ナリト云フ方法ノ概畧ヲ掲ケ此方法ハ富籤ニ類似スルモ眞箇ノ富籤ニアラスト認メタルハ即チ事實認定ニテ裁判官ノ心証ニ屬スル部内ナレハ之カ理由ヲ付セントセハ其心証ノ如何ヲ説明スルニ至リ却テ法理ニ反スルノ嫌ヒアルヲ免レス故ニ上告ノ趣旨是亦効ナキモノトス
右ノ理由ニ基キ治罪法第四百二十七條ニ遵ヒ本案上告附帶上告トモ之ヲ棄却スル者也

第一千七百廿六號

○判文(詐欺取財)明治十六年二月七日上告
十六年十一月十九日申渡

秋田縣羽後國南秋田郡手形新町
下町士族當時同縣同國平鹿郡大
森村戸長

渡 邊 友 善
明治十五年十一月
四十五年

右友善カ被告事件ニ付明治十五年十一月二十七日秋田輕罪裁判所ニ於テ被告ハ榊孫左衛門

チ欺罔シ金五十五圓ヲ騙取シタル者ト判定シ犯時新法實施前ニ在ルヲ以テ舊法賊盜律詐欺取財條新法ニ於テハ刑法第三百九十條ニ依據ス仍ホ刑法第三條及明治十四年第八十一號布告ニ從ヒ新舊法ヲ比照シ輕キ新法ニ依リ重禁錮二年ノ刑ヲ言渡シタル裁判ニ對シ被告友善上告ヲ爲スノ要旨ハ詐欺取財ノ罪ハ被害者ニ首服シ其詐取ノ金員ハ利子ヲ加ヘ返金スヘキノ示談ヲ爲シ貸借金ノ性質ニ變シ且被害者ニ於テ告訴ノ願下ヲ爲シタレハ被告カ所爲ハ免訴ノ言渡アルヘキニ之ニ重キ刑ヲ言渡サレシハ不當ナリ若シ又罪ノ成立スヘキ者トスルモ改定律例第六十二條ニ依リ本刑ニ二等ヲ減シ尙ホ私和スルヲ以テ酌量減輕アルハ當然ナルト云フニ在リ原裁判所檢事補上倉繁藏ハ上告不當ナル旨趣ヲ一々辨駁シ原裁判至當ナリト答辨ヲ爲セリ茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告及ヒ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

上告ニ因リ原書類ヲ審按スルニ被告カ被害者ヘ首服シタルノ証憑ハ一ノ見ルヘキモノナキノミナラス公判始末書及ヒ訊問調書ニ徴スルモ首服シタル等ノ陳述毫モアルコトナシ假令首服シテ告訴ノ願下ヲ爲シタルモ犯罪發覺ノ后ニ係レハ自首減免ノ法律ヲ適用スヘキモノニアラス又贓金ノ示談ニ依リ貸借ノ約定ト變更シ或ハ私和シテ告訴願下ヲ爲スモ之ヲ以テ公訴ノ消滅ニ歸スヘキニアラス而テ酌量減輕スルハ其事實ノ情狀ニ依リ之カ減等ヲ爲ストナサ、ルハ事實判官ノ職權ニシテ他ヨリ之ヲ非難シ得ヘカラサルモノトス因テ上告ノ旨趣ハ惣テ相立タサルモノナリ

右理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ該上告ハ之レヲ棄却スルモノナリ

第七百廿七號

○判文(詐欺取財)明治十五年十二月十四日上告
明治十六年十一月十九日發付

山形縣羽前國東村山郡高木村平民農業

野川勝 右衛門

明治十五年九月

五十五年一月

同縣同國南村山郡小倉村平民農業

加藤 又七

明治十五年九月

三十六年一月

同縣同國同郡永野村平民農業

山川甚 右衛門

明治十五年九月

三十二年四月

同縣同國同郡同村平民農業

山川庄 七

明治十五年九月

四十年一月

右四名カ被告事件ニ對シ明治十五年九月二十一日山形輕罪裁判所ニ於テ官有地開墾入費ニ係ル金圓詐取事件及ヒ山形縣出張官員ヘノ請書詐爲ノ二事件ハ犯罪ノ證據充分ナラサル者

トシ治罪法第三百五十八條ニ從ヒ無罪ヲ言渡スモ尙被告人等ハ官有山林ヲ冒認販賣シ且加藤又七ハ小前ノ實印ヲ預リタルモノト認定シ其所爲ハ刑法第三條第二項ニ依リ新舊法ヲ比照シ新法ニ於テハ同法第三百九十三條同第三百九十條同第三百九十四條ニ適シ實印ヲ預リタルハ明治五年第九十七号布告ニ依リ明治十四年第七十二号布告第四條ニ照スヘク舊法ニ於テ賊盜律詐欺取財條ニ依ルヘク實印ヲ預リタルハ雜犯律違令輕キニ問ヒ二罪俱發ニ係ルヲ以テ仍ホ名例律二罪俱發以重論條ニ照シ一ノ重キニ從ヒ野川勝右衛門等ト俱ニ詐欺取財條ニ依リ勝右衛門ハ首ヲ以テ論シ贓金二十圓以上懲役八十日又七甚右衛門庄七ハ從ト爲シテ一等ヲ減シ懲役七十日ニ處スヘキモノトス因テ明治十四年第八十一号布告ニ從ヒ刑法第三百九十三條ニ依リ同第三百九十條ニ照シ被告四名ヲ重禁錮各二月ニ處スト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ被告等カ上告爲シタル要領ハ其歸スル處事實及ヒ採証ノ不當ヲ唱ヘ之ヲ三ヶ條ニ分ケテ辨疏スルニ過キス其第二條第五項ニ証人土田卓郎外七名ハ本件ニ對シ抑モ証人ノ資格ヲ有セス何トナレハ同人等ハ民事原告人ノ位置ニアツテ其目的ハ賠償返還ヲ求ムルニアレハ公廷上証人ノ資格ヲ許スヘキモノニアラスト又其第四項ニ被告人加藤又七ハ村民ノ實印ヲ預リタルコトハ毫モ與リ知ラサル所ナリト云フニアリ又同裁判所檢事補大内幹カ上告爲シタル要領ハ畢竟被告等ハ永野村人民ノ無識ヲ侮リ抑壓ヲ極メ開墾一切ノ權ヲ握リ事細大トナク之ニ關涉シ村用掛等ハ唯命維從ト被告ノ指圖ニ因テ單ニ開墾入費トシテ其金數ヲ村民ニ賦課シ之ヲ徵收シ被告等ニ交付セシ實跡ハ野川勝右衛門ノ用係等ニ送ル數度ノ書翰等ニ於テ該金ヲ詐取シタルコト明白ナリ又加藤又七山川甚右衛門山川庄七等カ官有

地見分濟ノ受書ヲ偽造シタル罪蹟ハ則チ永野村人民ノ承諾ヲ經ス其受書ヲ作り各人民ノ名下ニ捺印シ之ヲ縣官ニ交付シタルモノニシテ受書ニ記載アル如ク加藤又七ニ於テ各人ノ氏名ヲ記入シ山川甚右衛門山川庄七等カ捺印シタルコトハ其證據物件及ヒ加藤七三郎等ノ陳述ニ於テ明瞭ナリ然ルニ單ニ官有地ノ樹木ヲ冒認販賣セシ事件ヲ罪シ他ノ兩件則チ詐欺取財ハ開墾入費ニ混同シテ收受シ其費ニ充テ私文書偽造ハ爲メニ損害ヲ生スルナシト判定シ共ニ証憑充分ナラサルモノトシテ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ不當ナリト云ヒ又曩キニ差出シタル答辨書ニ佐藤權十郎外七名ハ本件ノ民事原告人ニアラサルヲ以テ証人トスルモ不法ニアラスト述ヘタリ素ヨリ右証人ノ内佐藤權八外二名ハ當然証人トナルノ資格ヲ有スト雖ヒ佐藤次郎兵衛外四名ハ本件則樹木冒認事件ニ付豫審於テ證憑充分ナラサルニ因リ免訴ノ言渡ヲ受ケタル者ナルヲ以テ治罪法第八十二條第六ノ規定ニ背キタル不法ノ証人ナリトシ追テ該趣意ヲ擴張シタリ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審接スルニ本案被告等カ上告ノ旨趣ハ官有山林ヲ冒認シタルコトナシトテ事實及ヒ採証ノ不當ヲ論難スルニアレトシ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スト得ス何トナレハ犯罪ノ證據ヲ採擇スルハ原裁判官ニ任スル所ノ特權ニシテ則治罪法第四百十六條ニ明示アル所ナリトス又檢察官於テハ被告等カ開墾入費ト稱スル金圓詐取及ヒ請書詐爲ハ證憑充分ナルニ拘ラス之ヲ無罪トナシタルハ不當ナリトテ俱ニ採証ノ當否ヲ非難スル者ニ止リ是亦上告ノ理由ト爲スト得ス又被告人等於テハ原裁判所カ証人ノ資格ナキモノ、証言ヲ採用シタリト云フニアレトテ檢察官カ辨明セシ如ク土田卓郎外七名ハ被告等カ無罪ノ言渡ヲ受ケタル開墾入費ニ係ル金圓

詐取事件ノ民事原告人ニシテ官有地冒認事件ノ原告人ニアラサレハ之ヲ不當ノ証人ト云フ
 一ヲ得テ將タ檢察官ハ山川孫七外四名ハ官有地冒認事件ニ付免訴ノ言渡ヲ受ケタル者ナレ
 ハ証人ノ資格ナシト云フニアリテ則原裁判上之ヲ証人ト爲シタルハ欠クル所アルカ如シト
 雖モ原書類ヲ檢スルニ該裁判ハ此他衆証ニ據テ判定シタルニアレハ之ヲ以テ破毀スルノ限
 リニ非ス因テ該上告ハ總テ相立タサルニ付治罪法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却シ玆ニ被
 告人ノ内加藤又七於テ實印ヲ預リタル所爲ハ原裁判所カ二罪俱發ト爲シテ論スヘキモノ
 アラストス何ニトナレハ明治五年第九十七號ノ布告ハ明治十四年第七十二號第四條ノ明
 文外ニ涉ルヲ以テ不問ニ措クヘキモノナレハナリ然ルニ原裁判玆ニ出テサリシハ擬律錯誤
 ノ判定ナルヲ以テ治罪法第四百三十一條ニ則リ此一部ヲ破毀シ大審院ニ於テ直チニ判決ス
 ル左ノ如シ

加藤 又七

右ノ理由ナルヲ以テ原裁判言渡書中實印ヲ預リタルノ處斷ハ之ヲ取消スモノ也
 第七百廿八號

○判文(詐欺取財)明治十五年十二月十八日上告
 明治十六年十一月十九日發付

千葉縣下總國印旛郡上岩橋村五
 十一番地平民

木村 定兵衛
 明治十五年九月
 三十七年

詐欺取財被告事件ニ付明治十五年八月三十日千葉縣裁判所ニ於テ所犯新法實施前ニ在ル
 ナ以テ舊法ニ於テハ不應爲ノ輕キ懲彼三十日ニ該ル新法ニ於テハ刑法第三百九十三條第二
 項ニ當ルヲ以テ刑法第三條第二項及ヒ明治十四年第八十一號公布ニ照シ新舊法ヲ比較舊法
 ノ輕キニ從ヒ懲役三十日ニ處スヘキ處情狀憫諒スヘキニヨリ三等ヲ減シ改定律例第六條ニ
 依リ之ヲ呵責シ拘留ヲ放免スト言渡シタル裁判ニ對シ檢事補磯好道ハ之ヲ不當ナリトシ上
 告セル要領ハ被告ノ所爲ハ新法頒布以前ニ在ルヲ以テ刑法第三條第二項ニ因リ新舊法ヲ比
 照シ舊法ニ於テハ重典賣田宅律ニ據リ已ニ得ル處ノ價錢ヲ贓ニ計ヘ竊盜ニ準シテ論シ贓金
 二十圓以上懲役八十日ニ當ル又刑法ニ於テハ第三百九十三條第二項自己ノ不動產ト雖モ已
 ニ抵當典賣ト爲シタルヲ欺隱シ他人ニ賣與シ又ハ重テ抵當典物ト爲シタル者モ亦同シトア
 ルニ依リ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ストアルニ比
 較スレハ舊法ノ刑期新法主刑ノ刑期範圍内ニアルヲ以テ明治十四年第八十一號公布第二條
 ニ照シ刑法第三百九十三條第二項ニ依リ處斷スヘキニ原裁判ハ舊法不應爲律ヲ適用シタル
 ハ擬律錯誤ト云ヘシ又明治七年第三百三十四號公布ヲ以テ五等迄酌減スルヲ聽サレタルモ猥
 リニ減盡ヲ聽スノ法意ニ非スト信ス然ルニ原裁判ハ之ヲ減盡セルノミナラス仍ホ改定律例
 第六條ヲ濫用シテ呵責ニ處シタルハ一罪ニ二刑ヲ適用セシ不當ノ裁判ニ付破毀ヲ求ムト去
 ニアリ

對手人木村定兵衛ハ原裁判ハ至當ト思考スト答辨セリ
 大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ以テ之レヲ審案スルニ

新律綱領重典賣田宅條ニ凡已ニ典賣シテ人ニ與ル田宅ヲ將テ重子テ典賣スル者ハ得ル所ノ價錢ヲ贓ニ計ヘ竊盜ニ準シテ論シ云々トアリ而被告所犯ハ新法實施以前ニアルヲ以テ舊法ニ於テハ本條ニ該當シ刑法ニ於テハ第三百九十三條第二項ニ當ルヲ以テ明治十四年第八十一號公布第二項ニ照シ處斷スヘキニ原裁判ノ爰ニ出テサリシハ擬律錯誤ニ係ル不當ノ裁判ニ付治罪法第四百二十九條ニ從ヒ之ヲ破毀シ直チニ大審院ニ於テ裁判スル左ノ如シ

木村 定兵衛

被告犯罪ノ事實ニ依リ其所犯新法實施以前ニ係ルヲ以テ舊法ニ於テハ新律綱領重典賣田宅條ニ依リ竊盜ニ準シテ論シ贓金二十圓以上懲役八十日新法ニ於テハ刑法第三百九十三條第三百九十條ニ依リ二月以上四年以下ノ重禁錮四圓以上四十圓以下ノ罰金ニ該ルヲ以テ刑法第三條第二項及ヒ明治十四年第八十一號公布ニ照シ舊法ノ刑期新法ノ刑期内ニアルヲ以テ新法ニ從ヒ刑法第三百九十條ノ範圍内ニ於テ重禁錮二月ニ處スヘキ處原諒スヘキ情狀アルヲ以テ刑法第八十九條第九十條ニ依リ本刑ニ二等ヲ減シ一月ノ重禁錮ニ處スル者也

第七百廿九號

○判文(竊盜)明治十五年十二月廿六日上告
明治十六年十一月十九日發付

東京府武藏國荏原郡不入斗村
平民教忠二男

森

田太郎
明治十五年十月
二十年九月

竊盜被告事件ニ付明治十五年十月二十一日千葉輕罪裁判所ニ於テ刑法第三百六十六條第三百七十六條ニ依リ重禁錮一年三月ニ處シ一年六ヶ月ノ監視ニ付ス但身代限財產公賣金竊取ヲ自首スト雖モ寺田利右衛門ノ罰金二圓竊取シタルヲ自首セシテ發覺シタルヲ以テ減等ヲ與ヘス云々罰金竊取ノ二圓ヲ賠償スヘシト言渡シタル裁判ニ服セス上告セル要領ハ罰金二圓ヲ竊取セシトハ証據無シ果シテ實ナラハ公賣金竊取ヲ自首シ獨リ一罪ヲ掩ヒ自首セサルノ理アルヘカラサルニ原裁判所ハ罰金ヲ被告カ竊取シタルトシ爲メニ他ノ自首ニ付減等ヲ與ヘス剩ヘ罰金賠償ノ事ヲモ負擔スヘシト裁判セラレタルハ不法ナルヲ以テ之ヲ破毀シ更ニ公明ノ判決ヲ仰クト云フニ在リ

對手人檢事補磯好道ハ該上告ノ不理ナルヲ辨駁シ原裁判相當ナル旨答辨セリ「民事原告人宮本昌榮ハ自分ハ公賣金ノ賠償ヲ求ムル者ニシテ罰金ノ原告者ニ非サレハ該上告ノ趣意ニ關係スルコト無キ旨申立タリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽クニ加納久宜ハ附帶上告ヲ爲セリ其趣意ハ被告森田太郎ハ元司法省等外二等出仕ニシテ書記ノ事務ヲ取り身代限リ公賣金ヲモ取扱フ其擔任ノ實アルコト原書類ニヨリ明白ナリ畢竟スルニ被告ハ人民ヨリ金圓ヲ受領シテ之ヲ會計官ニ付シ又該官ヨリ返戻セシメ人民ニ交付スル其間ニ立テ之カ處分ヲ爲ス者ナレハ其管掌ノ責ニ任スルモノニシテ本案ハ刑法第二百八十九條ノ重罪ニ係リ管轄違ノ裁判ナルモノ、如シ然ルヲ原裁判言渡書中官吏ニシテ官金ヲ竊取シタル事件且其犯罪ハ如何ナル場所ナリシヤ總テ一言ノ以テ明示無キハ是豈事實理由ノ不備ナル裁判ニ非スヤ依テ原

裁判ヲ破毀シ他ニ移スノ言渡シアラソト望ムト云ニ在ルヲ以テ之ヲ審案スルニ被告上告ノ要領ハ原裁判官ノ事實認定上ニ非難ヲ容ル、モノニシテ治罪法第四百十條ノ項目外ニ涉ルモノナレハ其趣旨相立タストス而シテ檢事附帶上告ニ付原裁判官言渡書ヲ查スルニ千葉治安裁判所長山中正義ノ証言司法省十六等出仕宮本昌榮ノ陳述相當官吏ノ調書被告カ任意ノ自供罰金上納書等云々トアリテ總テ引用シタル証憑ニ據テ見ルキハ被告ノ所爲ハ司法省等外二等出仕ヲ以テ千葉治安裁判所ニ在勤シ書記ノ事務ヲ取り身代限公賣金且罰金取立等ヲ管掌シ其取扱中或ハ人民ヘ交付ノ殘余金又ハ罰金ヲ收受シ以テ帳簿ニ附記セシ儘會計ニ送致セス直ニ之ヲ竊取シタル等則チ其擔任中ニ關スル行爲ナルヲ以テ檢事附帶上告ノ如ク刑法第二百八十九條ニ問フヘキ重罪ナルニ拘ハラヌ尋常ノ竊盜犯ト爲シテ處斷シ加フルニ該處犯ハ官吏中ニ係リ且何レノ場合ニ於テ爲セル等事實ノ理由ヲ判文ニ明示セサルハ治罪法等三百四條ノ明文ニ抵觸セルノ非難無キニ非サルモ既ニ前述ノ如ク本案ハ重罪ニ係ルヲ以テ管轄違ニ屬セル越權ノ裁判ナルニ付治罪法第四百二十八條ニ從ヒ之ヲ破毀シ東京重罪裁判所ニ移スモノ也

第七百三十號

○判文(竊盜)明治十六年五月九日上告
同 年十一月廿日發付

神奈川縣橫濱區松影町二十六番
地平民製罐職

志村 岡 次 郎

明治十六年四月

竊盜被告事件ニ付明治十六年四月十七日橫濱輕罪裁判所ニ於テ被告ハ竊盜ノ罪ヲ犯シタルモノト判定シ刑法第三百六十六條ニ擬シ同法第八十一條及第八十九條第九十條ニ依リ通シテ本刑ニ三等ヲ減シ重禁錮十五日ニ處シ監視六月ニ付スト言渡シタル裁判ニ對シ原檢察官ハ上告ヲ爲シタリ其要領ハ刑法第九十九條ニ明文ノ掲ケアル如ク宥恕自首酌量等減輕スヘキ數箇ノ原由アル時ハ通減セスシテ一箇毎ニ減等スルヲ以テ至當ナリトス然ルニ原裁判所ニ於テ被告カ罪ヲ宥恕シ且ツ酌減シタルハ適當ナリト雖モ通シテ本刑ニ三等ヲ減シタルハ乃チ減等法ヲ誤リタルモノニテ擬律ノ錯誤ニ係ルノミナラス附加刑ノ言渡ニ於ケルモ亦瑕瑾アルヲ免カラレ得サル不法ノ裁判ナルニ付其全部ノ破毀ヲ求ムト云フニ在リ仍テ本院檢事ノ意見ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ

從犯未遂犯其他特別ノ減輕ハ刑法第九十九條ノ法文ニ依リ各其減等シタルモノヲ以テ本刑ト爲スト雖モ宥酌量ノ如キ一般ノ減輕ハ各本條ノ刑期ヨリ通減スヘキモノナルハ論ヲ俟タサルナリ然ハ則チ原裁判所カ宥恕ト酌量ト二箇ノ原由アルモノトシ本刑ヨリ三等ヲ通減シタルハ至當ニシテ其減等法ヲ誤リタルニ非サルナリ附加刑ノ言渡ニ至テ聊カ穩當ナラサルモ破毀ノ原由ト爲スニ足ラサルヲ以テ上告趣旨ハ渾テ相立サルモノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ基キ本件上告ハ之ヲ棄却スルモノ也

第七百三十號

○判文(財産藏匿)明治十五年十二月廿五日上告
同 十六年十一月廿日發付

静岡縣遠江國敷地郡坪井村百十

四番地平民漁業

江 間 善 四 郎

明治十五年七月

六十六歲三ヶ月

同縣同國同郡同村百十三番地

平民小賣商

河 合 コ ト

明治十五年七月

三十九歲六ヶ月

財産藏匿被告事件ニ付明治十五年七月十二日濱松輕罪裁判所ニ於テ右被告人江間善四郎ハ
 民事訴訟ニ付身代限ヲ以テ濟方爲スヘキ決定ノ後右被告「コト」ヘ米代ノ抵償トシテ右身代
 限リ處分ニ關係スル干鯛ヲ相預ケ「コト」ニ於テハ其分散ニ係ル物件ナルヲ知テ一時預リ債
 主中ノ一人ニ負債ヲ私償スルモノ、如シト雖モ現品全ク存在シテ他ノ債主ニ未ダ害ノ及ハ
 サルモノト認定シ治罪法第三百五十八條ニ照シ拘留ヲ釋放シ無罪ノ言渡ヲ爲シタリ
 原裁判所檢事補吉富基太郎ハ之ヲ不當トシ上告ヲ爲シタル趣意ハ被告人ノ身代限決定ノ日
 ト所有ノ財産私償ノ爲メ預ケタル日ト同日ナルヲ以テ被告人江間善四郎河合「コト」ハ家
 資分散ノ際虚偽ノ負債ヲ詐爲シ財産ヲ脱漏シ或ハ其情ヲ知テ受クルモノナルヲ以テ刑法第
 三百八十八條ニ該ルヘキ者ナリ然ルニ原裁判官ハ右ノ要點ニ付テハ何等ノ理由ヲモ付セス
 輒ク告訴人林利兵衛ニ未ダ害ノ及ハサルヲ以テ無罪ナリト判決シタルハ不法ノ裁判ナリト

謂フニ在リ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ規則ヲ履行シ檢事加納久宜ノ意見ヲ聽ク
 ニ本案被告人ノ身代限ハ其分配以前ニシテ債主中ノ一人ニ其負債ヲ私償シタルニ止マリ未
 タ他ノ債主ヲ害セサルモノナルヲ以テ刑法第三百八十九條ノ罪ハ未ダ全ク成立シタルモノ
 ト云フ可ラサレハ原裁判所カ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ至當ナル旨ヲ辨明セリ依テ判決スル
 一左ノ如シ上告ノ要領ハ本案被告事件ハ刑法第三百八十八條ノ罪ヲ犯シタル者ナルヲ裁判
 官ハ事實ニ背馳シ法律ノ理由ヲ明示セシテ止タ告訴人ニ未ダ害ノ及ハサルヲ以テ無罪ナ
 リト言渡シタルハ不法ナリト云フノ論旨ニ在レモ裁判官カ無罪ト爲シタルハ被告江間善四
 郎ノ所爲ハ刑法第三百八十九條ヲ適用スヘキ犯罪ノ性質ナレモ其債主中ノ一人ナル河合「
 コト」ニ負債ヲ私償シテ未ダ他ノ債主ヲ害シタルニアラサルヲ以テ罪ノ成立サル者トノ意
 ナリテ判定ナシタル「コト」ハ該言渡書ニ依テ之ヲ推察スルニ足ル果シテ然レハ裁判官ニ於テ
 「コト」ハ債主ノ一人ト看認メタル以上刑法第三百八十八條ニ照準セサルヲ以テ敢テ不法ノ
 裁判ト云フヲ得ス依テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スル者也

第一千七百卅二号

○判文(竊盜)全 明治十六年九月廿八日上告
年十一月廿日發付

鳥取縣伯耆國會見郡兩三ツ柳村
二百二十七番地平民

宮 内 定 次 郎

明治十五年四月

十五年五月

二百五十一

竊盜被告事件ニ付明治十五年四月十八日米子輕罪裁判所ニ於テ刑法第三百六十六條第一百
 二條及第八十條第二項ニ依リ通シテ三等ヲ減シ所犯三犯ニ係ルヲ以テ刑法第九十二條ニ依
 リ一等ヲ加ヘ重禁錮五月ニ處シ監視七月ニ付スト言渡シタル裁判ニ對シ本院檢事長渡邊驥
 カ非常上告ヲ爲スノ要旨ハ抑モ被告ハ竊盜ヲ犯スノ目的ヲ以テ被害者ノ留守宅ニ忍入り物
 品搜索中其場ニ於テ取押ヘラレタルモノナリ其所爲ハ刑法第三百六十六條ニ擬シ同法第百
 十二條ニ依リ減輕シタルモノヲ以テ本刑ト爲シ犯時十六歲未滿ナルヲ以テ同法第八十條第
 二項ニ依リ其本刑ヨリ二等ヲ減シ二十二日以上一年六月以下ノ範圍内ニ於テ處斷スヘキモ
 ノトス然ルニ原裁判所カ刑法第三百六十六條ノ刑ヨリ三等ヲ通減シ且ツ舊法中ノ犯罪ト通
 算シ再犯ヲ以テ論シタルハ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡タル不法ノ裁判ナルニ付破毀ヲ求ム
 ト云フニ在リ仍テ本院檢事林三介ノ意見ヲ聞キ判決スル左ノ如シ
 再犯新法ノ輕罪ニ該ルモ初犯舊法中ノ犯罪ニ係ル時ハ刑法第九十二條ノ再犯加重例ヲ適用
 スルヲ得ス何トナレハ舊法ニ在テハ重罪輕罪ノ區別ナキヲ以テナリ本案被告事件ハ三犯
 ニ係ルト雖モ前二回ノ犯罪ハ舊法中ノ犯罪ナレハ之ヲ犯數ニ算入シ再犯ヲ以テ論スルヲ
 得ス然ルニ原裁判所カ被告事件ヲ新法實施以前ニ係ル犯罪ト通算シ再犯ト爲シ刑ヲ加重シ
 タルハ非常上告論旨ノ如ク相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタルモノトス因テ原裁判ヲ破毀シ
 本院ニ於テ直ニ左ノ裁判言渡ヲ爲スモノ也

宮内 定次郎

被告カ竊盜ノ罪ヲ犯サントシテ其目的ヲ遂ケサル事實ハ原裁判所ノ認定ト各証憑トニ因

リ明確ナリ因テ刑法第三百六十六條ニ擬シ未遂犯ニ係ルヲ以テ同法第一百十二條ニ依リ一
 等ヲ減シ犯時十六歲未滿ナルヲ以テ同法第八十條第二項ニ依リ二等ヲ減シ二十二日以上
 一年六月以下ノ範圍内ニ於テ重禁錮四月十五日ニ處シ仍ホ同法第三百七十六條ニ依リ監
 視七月ニ處ス
 第七百卅二號

○判文(私印私書偽造)明治十五年十二月廿八日上告
 明治十六年十一月二十日發付

廣島縣備後國三谿郡大田幸村平
 民農業

和田 爲吉

明治十五年十月
四十七年生月不知

私印及ヒ證書ヲ偽造シ行使シテ未ダ遂ケサル被告事件ニ付明治十五年十月十四日廣島輕罪
 裁判所ニ於テ刑法第二百八條第二十一條第二百十二條第一百四條第二百十條第
 百條第八十九條第九十條ニ依リ重禁錮三月ニ處シ罰金五圓ヲ附加シ六月ノ監視ニ付スト言
 渡シタル裁判ニ服セス上告セル要領ハ原裁判ハ審理ヲ盡サス而苛酷ニ出テタリト云フニ在
 リ

對手人檢事楠正位ハ上告ノ不理ナルヲ辨駁シ原裁判ハ正當ナリト答辨セリ
 大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
 上告書類ヲ閱スルニ本犯和田爲吉カ上告申立ヲ爲シタルハ明治十五年十月十六日ニシテ其

趣意書ヲ差出セシハ明治十五年十月廿三日ナレハ既ニ右申立ヲ爲シタルヨリ七日ヲ經過セ
ルモノニテ治罪法第四百十七條ノ定規ニ反違シ而治罪法第二十條ニ掲クル訴訟權ヲ失シタ
ルモノニ付治罪法第四百廿七條ニ從ヒ本案上告ハ棄却スルモノ也

第千七百卅四號

○判文(毆打創傷)明治十五年十二月廿六日上告
明治十六年十一月二十日發付

茨城縣常陸國河內郡椎塚村平民農

宮本吉右衛門

明治十五年九月

四十二年

毆打創傷被告事件ニ付明治十五年九月十一日土浦輕罪裁判所ニ於テ刑法第三百一條第八十
九條第九十條ニ依リ六月ノ重禁錮ニ處スト言渡シタル裁判ニ服セス上告セル要領ハ被害者
ノ負傷ハ被告ノ所爲ニ非スシテ自傷ニ係ルモノナリ又該負傷ノ爲メ休業二十日以上ニ及ヒ
シト云フモ相違セルモノニテ既ニ二十日以内ニ豫審廷ニ出頭セシハ其確証ナリ然ルチ此事
實ニ反シタル裁判ヲ與ヘラレタルハ不當ニ付破毀ヲ求ムト云ニアリ

對手人檢事補山口重理ハ上告ノ不理ナルチ辨駁シ棄却アラシクテ望ムト答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ以判決スル左ノ如シ

上告ノ要點ハ被害者ノ負傷ハ被告ノ所爲ニ非スシテ自傷ニ係ルモノナリ又其負傷ノ爲メ休
業セシモ二十日以外ニ至ラサルハ既ニ其以内ニ豫審廷ニ出頭セシチ以テ確証トスト云フト

雖モ果シテ被害者カ負傷後二十日以内ニ豫審廷ニ出頭セシニ相違非ラスト假定スルモ其出

頭セシカ爲メ休業ヲモ爲サ、リシトハ推定スルチ得サルノミナラス事實裁判官カ各証憑ニ
據リ判定シタル事實ニ對シ其有無ヲ論難スルモ上告ノ原由ト爲ヌチ得サルハ治罪法第四百
十六條ニ明確ニシテ結局上告ノ趣旨ハ治罪法第四百十條ノ項目外ニ涉ルモノタルチ以相立
サルモノトス

右ノ如シナルチ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ヲ棄却スルモノ也

第千七百卅五號

○判文(詐欺取財)明治十五年十二月廿五日上告
明治十六年十一月二十日發付

鹿兒島縣薩摩國日置郡永吉村士族

山崎喜太郎

明治十五年十月

三十三年七月

同縣同國同郡飯牟禮村士族

永井廣太

明治十五年十月

四十年

明治十五年十月十三日鹿兒島輕罪裁判所ニ於テ右被告人二名ニ對シ官職詐稱及ヒ詐欺取財
ノ罪アリトシ一ノ重キ詐欺取財ノ罪ヲ論シ刑法第三百九十九條同第三百七十六條ヲ適用シ各
重禁錮五月罰金八圓監視六月ニ處スト言渡シタル裁判ニ服セス被告人二名ハ上告ヲ爲シタ
リ其旨趣ハ本件被害者タル赤井田三四郎ニ於テ一旦告訴ヲ爲シタルモ仲裁人チ以テ私和願
下ケテ請求シ本件ハ全ク無根ノ事ナリトノ証書ヲ被告人ニ差入レタリ且本件ニ付褻キニ市

二百五十五

來分署ニ拘留セラレタルモ被告人等ノ所爲ニ無之旨証明シタルニ因リ直チニ放免セラレタリ是等ノ事實ニ依レハ無罪ナルコト明瞭ナリ而シテ原裁判官ノ採用セラレタル証憑ハ真正ノ証ト爲スニ足ラサルモノナルニ輒ク詐欺取財ノ罪アリト認定セラレシハ不當ナリト云フニ在リ大審院檢事林三介ノ意見ヲ聽クニ本件上告ハ治罪法ニ規定セル上告ヲ爲スヲ得ヘキ原由アルナキヲ以テ當然棄却ノ言渡アルヘキモノナリ但原裁判官言渡ニ引用セシ刑法ノ正條中ニ錯誤ニ係ルモノアルモ事ニ害ナキニ因リ敢テ之ヲ論セストノ旨趣ヲ陳述セリ依テ判決ヲ爲スコト左ノ如シ

被告事件ニ付証據徴憑ヲ採擇取捨シテ犯罪ノ事實ヲ判定スルハ法律ニ於テ特ニ裁判官ニ任從スル所ナレハ其職權内ニ侵入シ判定ノ當否ヲ論難スルモ之ヲ以テ上告ノ原由ト爲スコトヲ得ス本件上告ノ如キハ事實証憑ノ有無ヲ陳辨シ徒ニ裁判官ノ判定上ニ對シ不服ノ旨ヲ訴告スルニ過キスシテ治罪法第四百十條ノ各項ニ定メタル場合ニ適當セサルニ因リ上告ノ理由ナキモノトス然レトモ被告人カ官職ヲ詐稱スルノ所爲ニ對シテハ刑法第二百三十二條ヲ適用スヘキモノナルニ原裁判官ハ第二百三十一條ニ該ルト言渡シ又詐欺取財ノ罪ニ監視ヲ附加スルニハ刑法第三百九十四條ニ照依スヘキヲ原裁判官ハ竊盜罪ニ監視ヲ附加スヘキ第三百七十六條ヲ適用シタルハ共ニ錯誤タルヲ免カレスト雖モ刑ノ適施上ニ於テ毫モ差異ヲ生セサルヲ以テ破毀ノ限ニ在ラス

右ノ理由ナルニ因リ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ本件上告ヲ棄却スルモノナリ

○判文(賭博)明治十五年十二月十九日上告
全 十六年十一月二十日發付

千葉縣下總國香取郡東今泉村平

民政右衛門弟

伊

藤 要 助

明治十五年九月
三十二年八月

賭博被告事件ニ付明治十五年九月十四日八日市場治安裁判所ニ開キタル千葉縣輕罪裁判所ニ於テ刑法第二百六十一條ニ依リ重禁錮二月罰金五圓ニ處スト言渡スタル裁判コト服セス被告入伊藤要助ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ賭博ニ在ルモ博奕ヲ爲サス單ニ其場ニ寢臥シ居タルヲ賭博ヲ爲シタリトテ刑法第二百六十一條ニ照サレ重禁錮二月罰金五圓ニ處セラレシハ不法ノ裁判ナリト言フニ在リ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決ヲ爲ス左ノ如シ

被告人ハ賭場ニ寢臥シ居タルモ博奕ヲ爲サ、ルニ刑法第二百六十一條ニ依リ處斷セラレタルハ不法ノ裁判ナリト論告スト雖モ一ノ証憑ヲ掲ケス徒ラコト原裁判官ノ判定シタル事實ヲ非難シ不服ヲ訴フルニ外ナラス治罪法第四百十條各項ニ定メタル上告ヲ爲スコトヲ得ル場合ニ適當セサルヲ以テ上告ノ旨趣採用スルニ由ナキモノトス依テ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ之ヲ棄却スルモノナリ

千葉縣下總國匝瑳郡八日市場村
平民

二百五十八

土屋金右衛門

明治十五年九月
五十七年生月不詳

賭博房屋給與被告事件ニ付明治十五年九月十四日八日市場治安裁判所ニ於テ開キタル千葉
輕罪裁判所ニ於テ刑法第二百六十一條ニ依リ重禁錮二月罰金五圓ニ處スト言渡シタル裁判
ニ服セス被告人士屋金右衛門ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ賭博用ニ家宅ヲ貸與シタルコトナク
且博奕ヲ爲シ居リシヤ否ハ素ヨリ知ラサリシカ下婢ノ告知アリタルヲ以テ制止セントスル
際巡查ニ取押ヘラレタルモノナルニ刑法第二百六十一條ニ依リ處斷セラレタルハ不法ノ裁
判ナリト云ニアリ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決ヲ爲ス
左ノ如シ

被告人ハ賭博ニ供スル爲メ家屋ヲ貸與シタルコトナク且博奕ヲ催シ居タルコトハ知ラサル旨論
告スト雖モ畜ニ口頭ノ中立ニテ一ノ証憑ヲ掲ケス徒ラニ原裁判官ノ判定シタル事實ヲ非難
シ不服ヲ訴フルニ外ナラス治罪法第四百十條各項ニ定メタル上告ヲ爲スコト得ルノ場合ニ
適當セサルヲ以テ上告ノ理由ナキモノトス依テ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ之ヲ棄
却スル者也

第七百卅七號

○判文(毆傷)明治十五年十二月廿二日上告
明治十六年十一月二十日發付

高知縣土佐國長岡郡大埴村平民
農業

平

尾富吾
明治十五年十月
二十二歲

毆打創傷被告事件ニ付明治十五年十月十日高知輕罪裁判所ニ於テ右被告人平尾富吾カ所爲
ハ同村北村寅之助ヲ毆傷シ二十日ニ至ラサル時間疾病休業セシメタル者ト判定シ刑法第三
百一條第二項ヲ適用シ重禁錮二月ニ處スト言渡セリ

被告平尾富吾ハ該裁判ニ服セス上告ヲ爲シタリ其要旨ハ北村寅之助ヨリ爭論ヲ醸シ被告人
ヲ毆打ス可キ勢ナルニ付之ヲ防カン爲メ組伏セタル處腕ニ咬ミ付タルヲ以テ痛惱ニ堪ヘス
不得止有合石ヲ以テ毆打シタル者ニシテ正當防衛ニ出タル所爲ナルヲ裁判官ハ其原因ヲ審
糾セサルノミナラス告訴狀等ノ片證ニ依リ有罪ノ判定ヲ下シ且自首ヲ採用セサルハ不當ノ
裁判ナリト云フニ在リ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ檢事池上三郎ノ意見ヲ聽キ判決スルコト左ノ如シ
本件被告人カ上告ノ理由トスル處ハ自己ノ身体ヲ正當ニ防衛スル爲メ被害者ヲ毆打シ且其
所爲ハ自首シタル旨陳辨スト雖モ原裁判所ニ於テハ其言渡書ニ舉示シタル如ク諸般ノ証憑
ニ依リ被告人ヲ毆傷ノ罪アル者ト認定シ之ニ相當ノ刑ヲ科シタル者ナレハ毫モ不當ト言フ
可ラス又訴訟書類ヲ参照監査スルニ被告人ノ自首ハ事發覺後ニ係ルコト明瞭ナレハ到底本件
上告ノ趣旨ハ總テ相立タサル者トス
右ノ理由ナルニ依リ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却スル者也

第七百卅八號

二百五十九

○判文(詐欺取財) 明治十五年十一月十九日上告
同 十六年十一月二十日發付

岐阜縣美濃國惠那郡岩村十四番

地平民

青島十九太郎

明治十五年十月
十三年七月

明治十五年十月二十八日名古屋輕罪裁判所ニ於テ右青島十九太郎カ被告事件ヲ審理シ青島十九太郎ハ自己ノ衣類ヲ仕立ソカ爲メ擅ニ雇主橋本京右衛門ノ通帳ヲ持出シ鈴木正六福岡市左衛門方ニ於テ暗ニ主家ノ使ノ如クシ木綿切レ外三品ヲ購求シタル後其事發覺シ橋本京右衛門ノ誣責ヲ受タルヨリ竟ニ該物品ヲ携ヘ逃走シタルモノニシテ其狀恰モ鈴木正六外一名ヲ欺罔シタル如クナルモ鈴木正六等ノ調書ニ據ルニ孰レモ主家ノ買物帳ヲ目的トシテ物品ヲ渡シタルハ其代價ハ雇主橋本京右衛門ヨリ償却ス可キモノニシテ鈴木庄六外一名ハ之ヲ被害者ト云フ可カラス且橋本京右衛門ノ申立書ニ據ルモ實際已ニ其價ハ同人ヨリ償却濟ナレハ本案被告ノ所爲ハ雇主ニ對シ民事上ノ責任ニ止リ犯罪ノ證據充分ナラサレハ治罪法第三百五十八條ニ依リ無罪ト判決シ放免スルトノ言渡ヲ爲シタリ

名古屋輕罪裁判所檢事補青木素ハ該裁判ニ對シ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告人カ所爲ハ人ヲ欺罔シ物品ヲ騙取シタルモノナレハ刑法第三百九十條ニ依リ處斷スヘキ者ナルニ原裁判所カ此所爲ヲ以テ雇主ニ對シ民事上ノ責任ニ止ル者ト爲シ且既ニ民事上ニ止マル者トセハ無罪タルヘキニ犯罪ノ證據充分ナラスト云フハ前後撞着シタル擬律錯誤ノ裁判ナリト謂フニ在リ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告書ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ
被告人青島十九太郎カ擅ニ雇主京右衛門ノ通帳ヲ持出シ暗ニ其使ノ如クシ鈴木正六外一名ヲシテ該通帳ヲ目的トシ木綿切レ外三品ヲ渡サシメタル所爲ハ即チ人ヲ欺罔シ物品ヲ騙取シタル者ニシテ詐欺取財ノ罪ヲ犯シタルヲ論テ竝タス然ハ則チ雇主ニ於テ其代價ヲ償却スルト否トニ拘ハラズ刑法第三百九十條ニ依リ處斷ス可キ者トス然ルニ原裁判所カ雇主ニ對シ民事上ノ責任ニ止ル者ト爲シ又既ニ民事上ニ止ル者ト爲シナカラ犯罪ノ證據充分ナラスト言渡シタルハ擬律ニ錯誤アル不法ノ裁判ニシテ上告ノ旨趣正當ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ原裁判言渡ヲ破毀シ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ本院ニ於テ直チニ裁判言渡ヲ爲スノ左ノ如シ

青島十九太郎

前ニ辨明スル如クナルニ因リ刑法第三百九十條ニ依リ二月以上四年以下ノ重禁錮ニ處シ四圓以上四十圓以下ノ罰金ヲ附加ス可キ處十二歲以上十六歲ニ滿タサル者ニシテ辨別アリテ犯シタルモノナルニ付刑法第八十條ニ依リ二等ヲ減シ一月以上二年以下ノ重禁錮二圓以上二十圓以下ノ罰金ト爲シ其範圍ニ於テ一月ノ重禁錮二圓ノ罰金ニ處シ尙ホ刑法第三百九十四條ニ依リ六月ノ監視ニ付スル者也

第七百卅九號

○判文(毆傷) 明治十五年十二月二日上告
同 十六年十一月廿日發付

長野縣信濃國南安曇郡高家村平

民農

山田房太郎

明治十五年九月

三十歲

明治十五年九月二十二日松本輕罪裁判所ニ於テ右房太郎ノ毆打創傷被告事件ヲ審判シ刑法第三百一條第一項第三百九條第三百十三條及ヒ第八十九條第九十條ニ依リ重禁錮一月十五日ニ處斷セリ房太郎ハ右裁判ニ服セス上告ヲ爲シタリ其要旨ハ上告人ノ所爲ハ自己ノ身軀ヲ正當ニ防衛スルノ止ヲ得サルニ出タル者ナレハ刑法第三百十四條ヲ適用セサルヲ得ス依令醫師ノ診斷書ニ打撲傷或ハ截傷トアルモ是何人ノ負セタル傷ナリヤニ至テハ醫師ト雖知ル能ハサルヘク又上告人カ丸山要次郎ノ暴行ニ逢ヒタル際要次郎ノ負傷ハ微々タル爪頭ノ搔傷ニ止マルニ上告人ノ爲メ二十日以上疾病ニ罹リタル負傷セシ者ト認定シタルハ不當ナリト云フニ在リ依テ本院檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

凡ソ諸般ノ証憑ヲ採擇シ以テ犯罪事實ヲ判定スルハ法律ニ於テ裁判官ニ任從シタル者ナレハ其處分上越權等不法ノ点アルニアラサレハ其判定ヲ動かス可カラサル者トス今原裁判言渡書ニ依リ其認定シタル事實ヲ見ルニ上告人ハ丸山要次郎ノ暴行ニ遭ヒ鬪毆ノ末頭部其他數箇所ニ搔キ傷又ハ打撲傷ヲ負ハセ二十日以上疾病ニ罹ラシメタルト是ナリ而シテ其正當防衛ノ事實アリトハ認メサル者ナリ因テ此事實ヲ法律ニ照セハ刑法第三百一條第一項及ヒ第三百九條第三百十三條ニ該當スヘキ犯罪ノ性質アル者ナルヲ以テ原裁判所ハ同上ノ條項ヲ

適用シ仍ホ情狀ヲ原諒シ第八十九條第九十條ニ照シ更ニ二等ヲ減シ處斷シタル者ニシテ其事實ノ判定刑ノ適用共ニ不法ノ点アルコトナシ依テ上告ノ旨趣總テ相立タス治罪法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却スル者也

第七百四十號

○判文(祖父母父母ニ對スル件) 明治十五年十二月廿三日上告
 明治十六年十一月二十日發付

宮崎縣日向國兒湯郡下三財村百
 四十一番戶平民農業

小

濱 眞 明

明治十五年八月

五十九年十二月生

明治十五年八月二日宮崎輕罪裁判所ニ於テ右小濱眞明カ養母ニ對シ衣食ヲ供給セサル等ノ被告事件ヲ審判シ其所爲ハ新法實施前ト新法實施後ニ在ルヲ以テ新法ニ從ヒ刑法第三百六十四條ニ依リ重禁錮三月ニ處シ罰金五圓ヲ附加シ裁判費用ハ擔當スヘキ旨宣告セリ眞明ハ右裁判ニ服セス上告ヲ爲シタリ其要領ハ養母ニ對シ衣食等ヲ供給セス又必用ナル奉養ヲ缺キタルコトナシ然ルニ其事實アリトシ刑ヲ言渡サレタルハ不服ナリト云フニアリ依テ治罪法第四百二十五條ノ規則ニ從ヒ檢事池上三郎ノ意見ヲ聽キ之レヲ判決スル左ノ如シ

上告ノ旨趣ハ原裁判上事實ノ判定ニ對シ不服ヲ唱フルニ過キス抑諸般ノ証憑ヲ採擇シ犯罪事實ノ有無ヲ判決スルハ專ラ事實裁判官ノ職權ニシテ他ヨリ之ニ侵入シ得ヘカラサル者トス而シテ原裁判所ノ裁判言渡書ヲ監査スルニ其認視シタル各証憑ヲ舉示シ被告人眞明カ刑法

第二百六十四條第一項ニ該ル犯罪ノ事實アルコト判決シタル者ナレハ毫モ不法ノ點アルコトナシ故ニ上告趣旨ハ總テ相立サル者トス因テ治罪法第四百廿七條ニ從ヒ之ヲ棄却スル者也

第七百四十壹號

○判文(道路損壞) 明治十五年十二月廿一日上告
明治十六年十一月二十日發付

福井縣越前國坂井郡藤澤村平民

篠崎吉 右衛門

明治十五年十月三十日

右吉右衛門カ道路損壞被告事件ニ對シ明治十五年十月三十日福井縣輕罪裁判所ニ於テ刑法第百六十二條道路橋梁河溝港埠ヲ損壞シテ往來ヲ妨害シタル者ハ二月以上二年以下ノ重禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ストアルニ依リ右範圍内ヲ以テ刑法第九十條ノ規則ニ從ヒ本刑ニ二等ヲ減スレハ重禁錮一月科料金一圓ヲ附加スヘキ者トス然ルニ刑法第七十四條ニ附加ノ罰金ハ主刑ニ從テ加減シ其金額ノ四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲ス若シ減盡シタル時ハ止タ主刑ヲ科ストアルニ依リ附加刑ヲ除去シ重禁錮一月ニ處スト言渡タル裁判ヲ不法トシ同裁判所檢事補吉岡信徳ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ罰金ヲ附加セザリシハ減等其法ヲ誤リタル不當ノ裁判ナリト云フニ在リ被告答辨ノ要領ハ原裁判可トスルニ非ス亦檢事補ノ上告ヲ否トスルニ非ス結局本院ニ於テ至當ノ裁判アランコト待ツト云フニ外ナラス茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審案スルニ本件被告カ所爲ハ刑法第百六十二條ニ依リ二月以上二年以下ノ重禁錮二圓以上二十圓以下ノ範

圍内ニ於テ處スヘキ所酌量スヘキ情狀アルヲ以テ同法第九十條ニ從ヒ本刑ニ二等ヲ減シ一月以上一年以下二圓以上十圓以下ノ範圍内トシ主刑附加刑共ニ罰スヘキモノトス何トナレハ同法第七十四條ニ附加罰金云々若シ減盡シタル時ハ止タ主刑ヲ科ストアルハ罰金ノ寡數多數共ニ減シ盡シタルト限ルノ法章ニシテ本件ノ如キ減シ尽サハルトキハ最寡數違警罪ノ範圍トナルモ尙ホ二圓以上十圓以下ノ罰金ノ範圍存スレハナリ然ルニ原裁判玆ニ出テ主刑ノミ科セシハ擬律錯誤ノ裁判ナルヲ以テ治罪法第四百二十九條ニ則リ原裁判ヲ破毀シ大審院ニ於テ直チニ裁判スル左ノ如シ

篠崎吉 右衛門

右ノ理由ナルヲ以テ被告カ道路損壞ノ所爲ハ刑法第百六十二條及ヒ第九十條第七十四條ニ照依シ重禁錮一月罰金二圓ヲ附加スルモノナリ

第七百四十二號

○判文(竊盜) 明治十六年二月二日上告
年十一月廿一日發付

東京府神田區江川町平民助太郎

弟職業不詳

金澤芳次郎

明治十五年十一月

東京府麴町區三番町平民清三郎

次男職業不詳

添畑莊次郎

明治十五年十一月

十二年

竊盜被告事件ニ付明治十五年十一月七日東京輕罪裁判所豫審終結言渡ニ對シ檢事補磯邊是網ハ故障ヲ爲シタリ同會議局ニ於テ豫審終結言渡ヲ允當ナリトシ之ヲ認可セシテ不當ナリトシ尙又上告セリ其要領ハ被告芳次郎莊次郎カ竊盜罪ヲ犯シタル其犯時十二歳以下ナルヲ以テ其罪ヲ問ハサルモ懲治場ニ留置スヘキ情狀アルモノトス原會議局モ亦敢テ其情狀ナキモノト爲シタルニアラサレトモ公判ニ移スノ言渡ヲ爲サス却テ豫審ニ於テ免訴放免ストノ豫審終結言渡ヲ認可シタル不當ノ判決ナリト云フニアリ

對手人金澤芳次郎添畑莊次郎ハ之ニ答辨セス
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
上告ノ理由トスル處懲治場ニ留置スヘキ情狀アルモノト認メタレハ公判ニ移スノ言渡ヲ爲スヘキモノナリト云フト雖モ豫審ニ於テ本案被告事實ハ罪トナラサルモノト認メ免訴放免スト言渡タルモ檢察官ニ於テ之ヲ懲治場ニ留置スヘキモノナリトノ意見アルモ直ニ公判ヲ請求スルニ別ニ障礙アルノ理アラサレハ原會議局ノ判決ヲシテ不當ナリトノ趣旨ハ効ナキモノトス
右ノ如ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ上告ヲ棄却スル者也

第一千七百四十三號

○判文(詐欺取財)明治十五年十二月廿三日上告
同 十六年十一月廿一日發付

沖繩縣琉球國那霸東村八十六番
地第五號士族

宮

城 善 成

明治十五年九月
三十三年二月

右普成カ被告事件ニ付刑法第二百十條第二百十二條ニ該ル輕罪ヲ犯シタルモノトシ此事件ヲ沖繩縣裁判掛ニ移ストノ豫審終結言渡ニ對シ同裁判掛檢事補西常央カ爲シタル故障ニ付明治十五年九月六日同裁判掛會議局ニ於テ被告ハ安里成徳ヲ甘言以テ誘導シ己レノ惡事ニ加擔セシメ安里成徳カ家屋所有ノ權利ヲ証明スヘキ証券ヲ偽造シ之ヲ比嘉平任城間仁王ニ交付シ而シテ右兩人ヲ欺罔シ自己カ曾テ差入置キタル自己所有ノ真正ナル貸家差出ヲ騙取シタルモノニシテ即チ刑法第二百十條第二百十二條ニ該ル犯罪ノ外ニ詐欺取財ノ罪ヲ犯シタル者ナレハ同法第三百九十條第三百九十四條ハ勿論同法第百條第三項同第四十三條モ亦本件ニ適用セサル可ラス然ルニ豫審判官於テハ單ニ同法第二百十條第二百十二條ノミヲ適施シ同法第三百九十條第三百九十四條及ヒ第四十三條ノ法章ヲ明示セサルハ不當ナルニ付此三條モ亦之ヲ適用スヘキヲ豫審判官ノ言渡中ニ附加スル旨判決セシ處被告普成ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告於テ証書ヲ偽造シタル覺更ニ之ナク安里成徳等ノ陳供ハ皆不實ナリ其証據ハ明治十五年九月十五日付ニテ當問龜ヨリ被告ヘ宛タル証書ヲ初メ証人湖城惠仲金城樽高安高盛等ヨリ差出シタル午ノ舊八月付ノ証書等ニ依テ明白ナリ然ルニ原裁判掛會議局ハ右成徳等ノ偽言ヲ偏信シ遂ニ二罪ヲ犯シタルモノト認定セラレシハ不當ナリト云フ

ニ在リ原裁判掛檢事補西常央ハ右會議局ノ判決至當ニシテ上告ノ理由ナシトノ旨趣ヲ答辨セリ茲ニ專任判事ノ報告ニ據リ臨席檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルヲ左ノ如シ
 上告ノ旨趣ハ採証法ヲ違ヘ事實ヲ誤認セシモノナルカ故ニ原判定ヲ破毀アリタシト云フニ外ナラス然レモ採証及ヒ事實ノ判定ハ治罪法第四百十六條第二項ノ原則ニ於テ承審官ニ特任スル所ノ職權ナレハ此点ニ付テハ妄ニ他ノ論難ヲ許サス將タ其無罪ヲ証明スル爲メノ証據ナリトシテ新タニ提供スル所ノ當間龜名前ノ証書ノ寫タルヤ未タ原裁判所ノ審査ヲ經カルモノニシテ追テ公判ノ際差出スハ格別ナレモ本院ニ於テハ到底採用スヘキ筋ニ非サルヲ以テ上告ノ旨趣ハ總テ相立サルモノトス依テ治罪法第四百二十七條ノ規則ニ遵ヒ本案上告ハ之ヲ棄却スルモノ也

第七百四十四號

○判文(劇藥販賣)明治十五年十二月十八日上告
 同 十六年十一月廿一日發付

愛媛縣伊豫國温泉郡湊町三丁目

平民賣藥營業

向 井 禎 次 郎

明治十五年九月十七年九月

劇藥販賣事件ニ付明治十五年九月十五日松山輕罪裁判所ニ於テ治罪法第三百五十八條ニ依リ無罪ト言渡シタル裁判ニ對シ檢事補藤本重威上告ノ要領ハ被告向井禎次郎カ藥品取扱規則ニ背キ劇藥ノ一ナル結晶石炭酸ヲ販賣シタルヲ以テ刑法第二百五十四條ニ該ル者トシ起

訴セシ處該劇藥ヲ販賣セシハ雇人ノ所爲ニシテ被告ニ於テ毫モ關係セサル旨ヲ辨明セシニヨリ本職モ一旦公訴ヲ拋棄シ裁判官モ被告ニ對シ無罪ノ宣告ヲ爲シタリ然リ而シテ退テ熟思スルニ諸規則違犯ノモノヲ科スル所ノ刑ハ其營業若クハ物品上ノ取締ノ爲メ設ケシモノニシテ普通ノ犯罪ニ適用スヘキ刑ト異ナルニヨリ仮令雇人ニ於テ犯シタルモノモ雇主ヲ罰スルヲ以テ至當トスルニ付原裁判所カ無罪ト斷セシハ誤謬ノ裁判ナリト云フニアリ

對手人向井禎次郎ハ上告ノ不理ナルヲ辨駁シ原裁判ハ至當ナリト答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

凡ソ商家ノ雇人ヲ要スル所以ノモノハ其雇主ノ繁テ省キ務メニ代ラシムルヲ以テ目的トスル者ニシテ其雇人ノ自爲ニ於ル固ヨリ雇主ト同一ノ資格ヲ有スル者ナルヲ以テ其營業上反則ノ所爲アル時ハ其責ノ雇主ニ歸スヘキハ當然ナリトス本案被告事件ノ如キ雇人ノ行爲ニ出タルモノト雖モ其責ハ雇主ニ於テ負擔スヘキハ固ヨリ論ヲ俟タサルナリ然ルニ原裁判所ニ於テ本件ハ雇人ノ擅爲ニ係ルヲ以テ被告ハ犯罪之ナキモノトシ治罪法第三百五十八條ニ依リ無罪ト言渡タルハ擬律錯誤ノ裁判ナリトス依テ治罪法第四百二十九條ニ基キ原裁判ヲ破毀シ本院ニ於テ直ニ裁判スル左ノ如シ

向 井 禎 次 郎

右ノ如クナルニ依リ被告ハ藥品取扱規則ニ背キ劇藥ヲ販賣セシモノタル明了ナリ因テ之ヲ法律ニ照スニ刑法第二百五十四條規則ニ違背シテ毒藥劇藥ヲ販賣シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ストアルニ該ル而シテ被告ハ罪ヲ犯ストキ二十歳ニ滿サル者ナルヲ以テ刑

法第八十一條ニ照シ本刑ニ一等ヲ減シ七圓五十錢以上七十五圓以下ノ範圍内ニ於テ被告ヲ
罰金七圓五十錢ニ處スルモノナリ

第七百四十五號

○判文(毆傷)全 明治十六年一月十三日上告
年十一月廿一日發付

栃木縣下野國下都賀郡藤田村
平民

別

井 幸 藏
明治十五年十二月
四十年

右幸藏カ毆打創傷被告事件ニ對シ明治十五年十二月四日栃木縣罪裁判所ニ於テ被告ハ中島
富藏ヲ毆傷シ二十日以上疾病ニ至ラシメタル者トシ刑法第三百一條第一項ニ該ルモ其手ヲ
下シタルハ孰レカ先ナルヲ認得ヘキ徵憑ナキヲ以テ同第三百十條同第三百十三條ニ因リ本
刑ニ二等ヲ減シ重禁錮六月ニ處スト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ被告人カ上告爲シタル
要領ハ當時被告ハ中島富藏ノ暴勢ニ逢ヒ之ヲ防クニ計ナク止ムヲ得スシテ其携ヘタル處ノ
枝木ヲ以テ打テ遂ニ其危嶮ヲ免レタルモノナレハ富藏ヲシテ毆傷ニ至ラシムルモ止ムヲ得
サルニ出ルモノ也又假ニ被告カ毆打セシモノトスルモ富藏ノ負傷ハ二十日以上ノ時間休業
ニ至ラシメタルモノニアラス之ヲ要スル處其趣旨ハ三個ナリ其一ハ被告カ所爲ハ正當防衛
ニ出テタルヲ以テ不論罪ノ宣告ヲ受クヘキヲ其二ハ富藏カ負傷ハ被告ノ所爲ニアラサルヲ
其三ハ富藏カ負傷ハ被告ノ所爲ト假定スルモ刑法第三百一條ノ末項ヲ適施セラルヘキニア

リト云ヒ又公判ニ於テハ証人ヲ喚問セラレシテ請求スルモ其喚問ヲ許サレズ直ニ裁判ヲ
下サレタルハ審理不盡ナリト云フニアリ玆ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事
ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ
本案上告ノ旨趣ハ中島富藏ニ傷ヲ負ハセシハ正當防衛ニ出タルモノナレハ無罪ナリ又假リ
ニ被告カ毆傷セシモノトスルモ富藏ハ休業二十日以上ニ至ラサルモノナレハ刑法第三百一
條ノ末項ニ依リ處斷セラルヘキモノナリト又公判上証人ノ喚問ヲ許容セサルハ不盡ノ裁判
ナリト云フニアレト該事實ヲ判定シ及ヒ証人ノ請求ヲ許否スル等ハ素ヨリ承審官ニ任從ス
ル所ノ職權ニシテ輒ク之ヲ非難シ得ヘキ所ニアラサルナリ故ニ上告ノ趣旨ハ共ニ治罪法第
四百十條ノ各項以外ニ涉リ上告ノ原由ト爲スヲ得サルモノトス因テ同第四百二十七條ニ
從ヒ該上告ハ之ヲ棄却スルモノ也

第七百四十六號

○判文(詐欺取財)全 明治十六年一月廿六日上告
年十一月廿一日發付

鳥取縣因幡國邑美郡瓦町六百四
十六番地平民穀物商

福 山 甚 五 郎

明治十五年十二月
四十九年一ヶ月

同縣同國高草郡有富村平民農業

山 根 久 米 造

二百七十二
明治十五年十二月
二十四年六月
同縣同國邑美郡行徳村八百三十
七番地平民菓子賣商

北 村 勘 四 郎

明治十五年十二月
四十二年十月月

右二名カ被告事件ニ付明治十五年十二月一日鳥取輕罪裁判所ニ於テ被告甚五郎久米造兩名ハ共謀シテ明治十五年九月中中川鉄次郎ヲ欺キ同人所持ノ金子百二十四圓ヲ騙取シ被告勘四郎ハ誘導指示シテ其犯罪ヲ幫助シタル者ト判定シ被告甚五郎久米造ハ刑法第三百九十四條第三百九十四條ニ照シ重禁錮四年ニ處シ罰金四圓ヲ附加シ六月ノ監視ニ付ス被告勘四郎ハ同條及ヒ同法第九條ニ依リ正犯ノ刑ニ一等ヲ減シ其範圍内ニ於テ重禁錮三年ニ處シ罰金三圓ヲ附加シ六月ノ監視ニ付スト言渡シタル裁判ニ對シ被告甚五郎久米造カ上告ヲ爲スノ主要ハ兩人共一旦詐欺取財ノ豫備ヲ爲セシヨハ之アルモ半途ニシテ事ノ成ラサルヲ覺リ中止絶念セリ又中川鉄次郎ト三名ニテ賭博ヲ爲スト雖モ是等ノ手段ニ因リ財物ヲ詐取シタルニアラサレハ賭博ノ條ヲ適施サル、ハ寧ロ至當ナラント雖モ詐欺取財犯ニ適スル刑ヲ受クルノ理由更ニ之ナシ然ルニ原裁判ノ之ニ反セシハ不當ナリト云フニアリ又被告勘四郎カ上告爲シタル要旨ハ被告ハ甚五郎久米造カ詐謀ヲ爲スノ情ヲ知ラサルハ勿論田村清三郎ヲ誘導シタル覺ヘ更ニナク惟會テ一回證書ヲ差入レ右久米造ヨリ金借セシヨアルモ是レ尋常貸借上ノ事ナレハ此廉ヲ以テ罰セラル、ノ理由ナク且他ニ犯罪ノ證據アルニアラサレハ畢

竟無罪ニ歸スヘキモノナリ然ルニ其情ヲ知テ誘導シタルトノ斷定ヲ與ヘラレシハ不服ナリト云フニ外ナラス原裁判所檢事補安藤眞一ハ原裁判至當ナル旨答辨セリ茲ニ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

本件ヲ審案スルニ被告甚五郎久米造兩名カ上告申立ヲ爲シタルハ明治十五年十二月二日ニシテ而シテ其趣意書ヲ差出シタルハ同月八日ナレハ治罪法第四百十七條上告申立人ハ其申立ヲ爲シタルヨリ五日内ニ趣意書ヲ原裁判所ノ書記局差ニ出スヘシトアル其五日ノ期限ヲ經過シ同法第二十條ノ規則ニ依リ其訴權ヲ失フタルヤ明カナレハ右兩名ノ上告ハ直ニ之ヲ棄却ス將又勘三郎カ不當トスル處ハ治罪上承審官ノ職權ナル探證及ヒ事實ノ判定上ニ涉リ治罪法第四百十條各項以外ノ事柄ニ係ルヲ以テ是亦上告ノ原由ナキモノトス仍テ同法第四百二十七條ニ遵ヒ本案上告ハ總テ棄却スルモノナリ

第千七百四十七號

○判文(毆傷)明治十五年十二月廿六日上告
明治十六年十一月廿一日發付

山梨縣甲斐國北巨摩郡穗足村第
百九十五番地平民酒類受賣并煮
賣業

藤 卷 源 右 衛 門

明治十五年十月
四十七歲三月

明治十五年十月二十六日甲府輕罪裁判所ニ於テ右被告藤卷源右衛門カ所爲ハ暴行ヲ以テ巡

二百七十三

查ニ抗拒シ且之ヲ毆傷シタルノ罪アリトシ刑法第三百二十九條同第四百十條同第三百一一條同第七十條ヲ適用シ一ノ重キ同第三百二十九條ニ依リ重禁錮二年ニ處シ罰金三十圓ヲ附加ストノ裁判ヲ言渡シタリ

被告藤卷源右衛門ハ右ノ言渡ヲ不法トシ上告ヲ爲シタルノ趣意ハ第一被告ハ劇場ニ立入タルコトナシ故ニ巡查ニ抗拒シ又ハ毆傷シタルト云フハ人違ヒナルヘシ第二菲崎警察署ノ檢証調書ハ戸長ヲ籠絡シ虚飾シタル者ナレハ正當ノモノニ非ス且証人呼出ノ請求ヲ採用セサルハ治罪法第四百十條第四項ニ背ク裁判ナリ第三斷罪ノ証憑トセラレタル証人ハ復讐ノ意ヲ含ム者ナレハ佗ニ特別ノ証據アルノ外ハ信憑スヘカラス然ルニ片言以テ罪ヲ斷シタルハ違法ナリト謂フニアリ

對手人檢事補澁谷孝世カ答辨ノ要旨ハ本件ノ如キ現行犯ノ場合ニ方リテハ臨檢巡查ノ証告ハ最モ確認スルニ足ルノミナラス巡查管村久之カ防禦ノ際被告ノ面部ヲ毆傷シ其疵痕アル事蹟ニ於テモ被告人カ犯罪ノ証據明著ニシテ原裁判至當ナル旨ヲ陳述セリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ規則ニ從ヒ之ヲ判決スルコト左ノ如シ

原裁判宣告書ニ因リ訴訟書類ヲ閱スルニ被告人カ劇場ニ立入り暴行ヲ爲シ巡查ヲ毆傷シタルノ所爲ハ相當官吏ノ檢証調書及ヒ醫師ノ鑑定書ニ依テ明瞭ニシテ原裁判官ハ此事實ノ理由ヲ明示シ之レニ相當ノ刑ヲ適用シ又証人呼出ノ請求ヲ諾否スルハ其職權ニ在レハ原裁判官ハ不法ノ點アルコト無シ而テ上告ノ趣旨ハ徒ニ原裁判官カ認定シタル事實及ヒ採証ノ當否ヲ論難シテ不服ヲ唱フルニ過キスシテ治罪法第四百十條ニ定メタル上告ノ原由ナキモノトス

仍テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却スルモノ也

第七百四十八號

○判文(有夫姦)全 明治十六年四月十八日上告 年十一月廿一日發付

和歌山縣紀伊國名草郡中島村平民農業

川村熊之助

明治十六年二月

同縣同郡同村平民農兼商西

野信之助妻

西野コト

明治十六年二月

三十八年

犯姦被告事件ニ付明治十六年二月二日和歌山縣裁判所カ刑法第三百五十三條ニ依リ各重禁錮一年ニ處スト言渡タル裁判ニ服セス各上告セリ川村熊之助上告ノ要領ハ上告人ハ西野信之助ト同村ニシテ平素懇親ニセシ處信之助ハ其妻「コト」ト不和ヲ生シタル趣ニ付忠告セシ爲メ同人方ヘ至リタルニ適マ「コト」ニ逢ヒタルニヨリ其事實ヲ尋問ノ末立歸リタル迄ニテ通姦セシ覺ヘナシ又有地楠松ニ於テ上告人カ毛見勝右衛門方ニテ「コト」ト同衾セシヲ看認メタル旨申供シ其他參考人等ノ陳述アルモ皆悉ク據ルナキノ空言ナルニ原裁判所カ刑法第三百五十三條ヲ適用シ重禁錮一年ニ處セラレタルハ擬律ヲ錯誤セシモノナルニヨリ原裁

判ヲ破毀セラレシコトヲ冀フト云フニ在リ

西野「コト」上告ノ要領ハ上告人ハ西野信之助ニ配偶以來二子ヲ擧ケ家業ニ拮据シ居タルモ信之助ハ兎角妬心深ク屢々打擲等ノ振舞アリテ實ニ堪ヘ難キノミナラス行末ノ見込ナキニヨリ實家ニ歸リ相談セント思惟スル折柄川村熊之助來リ尋問セラレタルニヨリ右事情ヲ談話ノ末立別レタル迄ニテ通姦シタル覺ヘナキニ原裁判所ハ告訴人等ノ妄誕附會ノ陳述ヲ偏信シ罪ナキ者ニ刑ノ言渡ヲナシタルハ擬律ヲ錯誤シタルモノニ付原裁判ヲ破毀セラレシコトヲ願フト云フニ在リ

對手人檢事補片山良藏ハ該上告ハ不當ナルヲ以テ棄却アラシメテ望ムト答辨セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽クコト上告旨趣ノ如何ハ姑ク聞キ先ツ訴訟書類ヲ調査スルニ本案被害者西野信之助ヨリ告訴棄權届ヲ差出タルニ依リ治罪法第九條第二項ノ明文ニ基キ本訴ハ自然消滅ニ屬スヘキ者ニ付原裁判言渡ヲ取消サレンコトヲ希望スト

爰ニ判決スル左ノ如シ

上告ノ理由トスル處ハ原裁判所カ正當ノ法規ヲ踐行シ認メタル事實ニ對スル論難ニテ治罪法第四百十條ニ定メタル上告ヲ爲スヲ得ヘキ項目外ニ涉リタルモノナレハ破毀ヲ求ムルノ原因ト爲スヲ得ス然ルニ本案ハ本夫信之助ニ於テ前々ノ告訴ヲ棄權セシ旨原裁判所檢事宛願出ダレハ則立會檢事意見ノ如ク治罪法第九條第二項ニ依リ本訴ハ自然消滅ニ歸シタルモノトス

右ノ如クナルニヨリ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却シ治罪法第四百二十九條ニ依リ原裁判ヲ破毀シ取消ス者也

第一千七百四十九號

○判文(証券印稅違犯) 明治十六年一月廿五日上告 年十一月廿一日發付

福井縣越前國敦賀郡葉原村平民

竹 內 武 吉

明治十五年十一月十九年一月

右武吉カ河内吉松ナル者ヨリ金十圓ノ借用証書ニ証券印紙ヲ貼用セスシテ相渡スヲ受取置キ而シテ印紙ヲ自貼シ勸解願ニ提出セル被告事件ニ對シ明治十五年十一月廿二日敦賀治安裁判所ニ開キタル福井輕罪裁判所於テ刑法第五條及ヒ同第八十一條且証券印稅規則第四則第二條ニ照シ其脫稅高一錢ナルヲ以テ其十倍ノ科料金十錢ニ處スヘキ所年二十ニ滿サルモノニ付本刑ニ一等ヲ減シ科料金七錢五厘ニ處スト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ同裁判所檢察官カ上告爲シタル要領ハ該科料金額ハ違警罪ノ範圍ニアレハ被告ハ年滿十六歲以上二十歲未滿ナリト雖モ刑法第八十一條ヲ適用シ本刑ニ一等ヲ減スルヲ能ハサルハ同第八十三條ニ依テ明ナルニ付前裁判ノ破毀ヲ求ムト云フニアリ玆ニ大審院於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ
本案上告ノ旨趣相當ナリト假定スルモ明治十四年第七十二號布告第三條ニ凡罰金及ヒ科料ハ二圓以上ヲ罰金ニ處シ二圓未滿ヲ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ストアルニ依リ

本件被告カ刑ハ科料金一圓九十五錢以下ニ該ルモノニシテ刑法第九條ニ照シ違警罪タルヲ明ラカナリ然レハ則明治十四年第四十四號布告ノアルアリテ當分ノ内違警罪ノ裁判ニ對シテハ總テ上訴ヲ許サ、ルモノナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ則リ之ヲ棄却スルモノ也
第七百五十號

○判文(抗法違犯)明治十五年十二月十九日上告
明治十六年十一月廿一日發付

新潟縣越後國中頸城郡玄藤寺村
新田平民農

池田清平

抗法違犯被告事件ニ付明治十五年五月三日高田輕罪裁判所ニ於テ刑法第三百七十三條第三百七十二條第八十九條第九十條第三百七十六條ニ依リ重禁錮十五日ニ處シ監視六月ヲ附加シ仍ホ刑法第四十三條第三項ニ依リ汲取リタル石油三石壹斗三升九合五勺沒収シ日本抗法第二十五項第二項ニ照シ掘リタル穴ハ元ノ如ク埋ムヘキモノナリト言渡シタル裁判ニ服セス上告セル要領ハ明治十五年三月十五日試堀ノ全件ヲ自首シタリ而爾後池田玉作ハ如何ナル告發ヲ爲シ巡查金澤金尾カ如何ナル檢証ヲ爲シタルヤ之ヲ知ラス其石油ヲ汲取リシモ雇人ノ所爲ニシテ該地所ハ被告ノ所有ナレハ之ヲ竊取ノ名ヲ負フヘキモノニ非ス然ルナ原裁判ノ爰ニ出テサリシハ審理不盡且ツ擬律錯誤ノ裁判ニ付情狀憐察ノ上覆審ヲ願フト云フニ在リ

對手ハ檢事福鎌芳隆ハ上告ノ不理ナルヲ辨駁シ原裁判ハ不當ニ非スト答辨セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ
被告上告ノ主要タル本案ハ審理不盡ノ裁判ナルヲ以其覆審ヲ請願スト云ニアリト雖モ本院ニ於テ事實ノ覆審ヲ爲スヘキ限リニ非サルハ言ヲ疎ササルニ付素ヨリ其趣旨ハ効無キモノトス然而其採掘ニ際シ借區ニ非サル箇所ヘ穿入シタルノ所爲果テ故意ニ係リ之ヲ刑法ニ問フヘキヤ否ハ其主管ノ取調ヘテ要スルニ非サレハ論定スヘキモノニ非ス然ルニ原裁判所ハ容易ク之ヲ刑法第三百七十二條第三百七十六條第四十三條及ヒ日本抗法第二十五項第二項等ニ問擬シ裁判ニ及ヒタルハ擬律錯誤ニ係ル不當ノ處斷ニ付治罪法第四百二十九條ニ從ヒ之ヲ破毀シ直ニ大審院ニ於テ裁判スル左ノ如シ

池田清平

前辨明ノ如クナルヲ以テ免訴放免ス
第七百五十一號

○判文(詐欺取財)明治十五年十二月十四日上告
明治十六年十一月廿一日發付

埼玉縣武藏國南埼玉郡谷中村
平民

關根靜一郎

詐欺取財被告事件ニ付浦和輕罪裁判所カ刑法第二百十條第二項同第三百九十條ニ據リ重禁
明治十五年九月
二十二年十一月
二百七十九

錮四年罰金四十圓監視一年ニ處スト言渡シタル闕席裁判ニ對シ同所檢事補高田輝光ハ之ヲ不當ナリトシ上告セリ其要領ハ被告カ所爲タル監視規則違犯私書偽造詐欺取財三個ノ犯罪ニ付刑ノ適用ヲ請求シタルニ原裁判所カ監視規則違犯ノ一罪ヲ脫シ處斷シタルハ治罪法第四百十條第七項ニ違背シタル不法ノ裁判ナリト云フニアリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ以テ判決スル左ノ如シ
原裁判言渡書ヲ閱スルニ〔前〕初五郎方へ遺失シタル監視票旅券等ニ依リ〔中〕長野茂七ノ使長谷川豐吉ト詐稱シ右茂七ノ手簡ヲ偽造シ使賃金六拾錢ヲ詐取シ〔中〕右初五郎留主宅へ至リ初五郎ノ依頼ト言做シ羽織蝙蝠傘ヲ詐取シタルモノ云々トアリテ被告カ所爲ハ私書偽造詐欺取財監視規則違犯ノ三罪ヲ犯シタルハ原裁判所ニ於テ其事實ヲ確認セシハ判文ニ就テ明瞭ナル而已ナラス公判始末書ヲ視ルニ私書偽造詐欺取財監視規則違犯ノ三罪ハ原檢察官カ刑ノ適用ヲ陳述セシテ臆錄シアルニ原裁判所ハ之ヲ判決スルニ方リ監視規則違犯ノ一罪ヲ脫シタルハ請求ヲ受ケタル事件ニ付判決ヲ爲サ、ル者ニシテ治罪法第四百十條第七項ニ適當スル者トス此一罪ニ就テ判決ヲ爲サ、リシハ即チ治罪法第四百十條第十一項ニ適合スル不當ノ裁判ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ニ基キ之ヲ破毀シ更ニ適法ノ裁判ヲ受ケシメン爲東京輕罪裁判所へ移スモノ也

第七百五十二號

○判文〔受寄財物費消〕明治十五年十二月廿日上告
明治十六年十一月廿一日發付

大分縣豐後國直入郡竹田村平民

魚商

若

杉三平

明治十五年七月三十四年五月生

受寄財物費消事件ニ付明治十五年七月三日大分輕罪裁判所ニ於テ犯罪ノ證據充分ナラサルニ因リ刑法第二條及ヒ治罪法第三百五十八條ニ照依シ無罪放免スト言渡タル裁判ニ對シ檢事補村上良親ハ上告セリ其要領ハ被告カ所爲タル島田駒ナル者ヨリ依類質入ノ依頼ヲ受ケ其質代金ノ内壹圓拾五錢ハ曾テ右駒へ貸金アル連差押ヘタル處告訴セラレ警察署ヨリ巡査ノ拘引ニ來ルヲ以テ其場逃走ノ末自首シ豫審掛ノ訊問ヲ受ケ駒ニ貸金ナキハ判然シ該自首ハ不實ノ自首ニ歸シ委托ヲ受ケタル典物代金ヲ費消セシテ明瞭セシモノナリ然ルニ原裁判所ハ刑法第三百九十五條ヲ適用セス被告人ノ所爲ハ民事上ノ取引ニ止マリ法律上罪ヲ構成セサルモノトシ無罪放免ヲ言渡タルハ不當ナレハ破毀ヲ求ムト云フニ在リ
對手人若杉三平ハ島田駒并ニ古屋善四郎ニ貸金口々アリ且逃走シタルハ老親ノ痛心并ニ親族等ニ對シ赤面ノ至ナレハナリト答辨セリ

大審院檢事長渡邊驥附帶上告ノ要旨ハ原裁判言渡書ハ前後矛盾スル所アレハ治罪法第四百二十八條ニ從ヒ原裁判ヲ破毀シ他ノ裁判所ニ移スノ言渡ヲ希望スト
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ
原檢察官ハ被告若杉三平ノ行爲ハ島田駒ニ貸金アル連其質代金ノ内壹圓拾五錢ヲ差押ヘタ

ルモ豫審掛ニ於テ訊問ノ末其貸金ナキヲ判然タレハ受寄財物費消ヲ以テ罰スヘキモノナリト論告スト雖モ治罪法第四百十六條ニ諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアリテ事實裁判所ニ於テ認定シタル事實ノ点ニ侵入シ輒ク之ヲ左右セント試ムル者ニシテ治罪法第四百十條項目外ニ涉ルヲ以テ到底破毀ヲ求ムルノ原由ト爲スヲ得サレハ上告ノ趣旨相立サルモノトス檢事長附帶上告ニ付原判文ヲ檢閱スルニ(被告人若杉三平ニ於テハ)島田駒ナル者ノ依頼ヲ受ケ衣類四点ヲ質入致シ其代金壹圓拾五錢ヲ費消シ該質札壹枚ヲ取押ヘ居ル事ハ明白ナリト前段ニ揭示シナカラ後段ニ至リ犯罪ノ證據充分ナラサル時云々無罪ノ上直チニ放免スト言渡シタルハ即チ前後矛盾ヲ免カレサルモノニシテ治罪法第四百十條第九項ノ場合ニ適當スル不法ノ裁判ナリトス

右ノ理由ニ基キ原檢察官ノ上告ハ治罪法第四百二十七條ニ依リ之ヲ棄却シ檢事長附帶上告ノ趣旨ニ從ヒ治罪法第四百二十八條ニ照シ原裁判ノ全部ヲ破毀シ適法ノ處分ヲ受クシムル爲メ本案被告事件ヲ熊本輕罪裁判所ニ移スモノナリ

第七百五十三號

○判文(棄毀器物)明治十五年十二月十八日上告
明治十六年十一月廿一日發付

茨城縣常陸國東茨城郡小幡村

平民

齋藤熊之助

明治十五年十月二十七年十月

右熊之助カ被告事件ニ付明治十五年十月二十日水戸輕罪裁判所ニ於テ被告ハ明治十五年八月二十九日居村法圓寺門前ニ於テ倉本庄介等カ敲キ居タル所ノ太鼓ヲ取上ケ刃ヲ以テ之ヲ切り裂キタル者ト判定シ刑法第四百二十一條ニ照シ罰金十圓ニ處シ拘留ヲ放免ス但民事原告人小林新太郎等ヨリ右犯罪ノ爲メ生シタル損害賠償ノ請求アルニ依リ太鼓ノ代トシテ金九圓新太郎等カ長岡分署ヘ出頭シタル入費トシテ金五圓合セテ金拾四圓ヲ新太郎等ニ賠償スヘシト言渡シタル裁判ニ對シ被告熊之助カ上告ヲ爲スノ主要ハ第一中根七藏初メ外數名ノ証人ハ被告ニ舊怨アルヨリ無實ノ事柄ヲ構ヘテ被告ヲ陷害セントスルニ外ナラサレハ其陳述ハ決シテ採用ス可カラス然ルニ原裁判所ハ彼等ノ造言ヲ輕信シ充分ナル審理ヲ盡サスシテ無罪ノ被告ニ有罪ノ判定ヲ與ヘラレシハ不法ナリ第二本件ノ私訴ハ相當ノ手續ナキ民事原告代人カ供出セルモノナレハ無効ノモノナルニ原裁判所ハ畜ニ之ヲ受理シタルノミナラス小林新太郎等カ水戸警察署長岡分署ヘ出頭シタル入費トシテ要求シタル金高ハ三圓ナルニ請求以外ノ金高即チ此入費トシテ金五圓外ニ太鼓代トシテ金九圓ヲ賠償スヘシトハ何レモ越權ノ處分ナリ仍テ原裁判ノ破毀ヲ求ムト云フニアリ原裁判所檢事補立花敏ハ原裁判至當ナル旨答辨セリ

本院檢事池上三郎ニ於テハ本案ニ對スル意見ヲ述ヘ且ツ附帶上告ヲ爲シタリ其要旨ハ原判文中本件被害者ノ誰タルヲ示サス該太鼓ハ果シテ何人ノ所有ナルカヲ記セサルハ是レ事實ノ理由ヲ欠キタル者ナレハ該裁判ノ破毀アリタシト云フニ在リ茲ニ之ヲ判決スル左ノ如シ

被告カ第一ノ上告理由トスル所ハ只管採證ノ當否ヲ論シ事實ノ覆審ヲ求ムルニ過キスシテ

到底治罪法第四百十條各項以外ニ涉ルヲ以テ上告ノ理由トナスヲ得ヌ又原裁判所ノ訴訟書類ヲ案スルニ民事原告代人ヨリ提起シタル本件私訴ノ手續上ニ付キ別段違法ノ廉アルヲ見サレハ私訴ハ無効ナリトノ申立モ亦相立タサ、モノトス然レモ犯罪ニ因リ生シタル損害トハ本件ノ場合ニ於テハ棄毀ニ係ル太鼓ノ如キヲ云フモノニシテ之カ告訴ヲナス爲メニ警察署へ出頭シタル入費ノ如キモノ迄ニ及ホズヘキニアラス然ルチ原裁判官カ太鼓代ノ外ニ長岡分署等へ出頭シタル入費トシテ金五圓ヲ併セテ賠償スヘシト被告ニ言渡セシハ越權ノ處分ナリトス將タ又檢察官カ附帶上告旨趣ノ如ク凡ソ刑ノ言渡ヲ爲スニハ必ラス被害者ノ誰タルヲ明示セサル可カラス何トナレハ被害者ナキノ所爲ハ得テ罰スヘキニアラサレハナリ今原判文ヲ審閱スルニ(法圓寺門前ニ於テ倉本庄介等カ敲キ居タル所ノ太鼓ヲ取上ケ云々)トノミアリテ其棄毀ニ係ル器物ハ果シテ誰ノ所有ナルヤヲ明記セサルカ故ニ本件被害者ハ果シテ誰ナルヤ之ヲ鑑別スルニ路ナク隨テ原裁判ノ當否ヲ監査スルニ由ナシ是レ即チ治罪法第三百四條ニ背キタル不法ノ裁判ナリトス以上辨明スル如ク二箇ノ理由アルニ付治罪法第四百二十八條ニ遵ヒ原裁判言渡ノ全部ヲ破毀シ朽木輕罪裁判所ニ移シ更ニ審判セシムルモノ也

第七百五十四號

○判文(官印偽造) 明治十五年十二月十三日上告
同 十六年十一月廿一日發付

長野縣信濃國小縣郡中之條村
平民農業

西澤小平太

明治十五年九月
三十二年九月

官印偽造被告事件ニ付明治十五年九月十二日上田輕罪裁判所會議局ニ於テ刑法第九十五條同第一百十二條ニ從ヒ重懲役ニ二等ヲ減シ輕禁錮ニ處シ尙ホ明治十五年司法省丙第二十一號送及治罪法第二百五十二條第二項ニ照シ長野重罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ取消シ更ニ上田輕罪裁判所へ移ストノ言渡ヲ不法トシ檢事補阿川源藏上告ノ要領ハ被告カ故障スル處ノ要點タルヤ舊戸長桑原春治外二名ト對質云々及ヒ從來戸長役場ノ印章ニハ之ノ字アリシモ今回彫刻セシ印章ニハ之ノ字ヲ除キタレハ偽印ニ非ストノ旨趣ナリ然ルニ會議局ニ於テハ該故障ニ對シ何等ノ判文ヲ下サス却テ犯罪ノ性質ヲ論シ該印ハ彫刻已ニ成リタルモ未ダ領収セサルヲ以テ未遂犯罪ナリトシ刑法第九十五條第一百十二條ニ依リ本刑重懲役ヨリ二等ヲ減シ輕禁錮ニ處分シテ至當ナルモノニ付輕罪裁判所ニ移スト判決セシハ明治十五年司法省丙第二十一號達ヲ誤解セシモノニシテ擬律錯誤ノ甚シキモノナリトス然レモ被告カ故障外ナルヲ以テ敢テ之ヲ論辯セサルモ豫審ノ調書等ニ就テ之ヲ見ルモ已遂犯罪ナルコト明瞭ナリ要スルニ會議局ハ無告不理ノ治罪ノ原則ニ背キ訴外ノ事件ニ判及シ却テ故障ノ要點ニ判決ヲ與ヘス加之其犯罪ニ減等スルハ公判判事ニ非サレハ爲シ能ハサルモノナルニ會議局ニ於テ之ヲ爲シタルハ所謂被告事件ニ豫斷ヲ爲シタルモノナリト云フニ在リ
對手人西澤小平太ハ會議局ノ言渡シハ至當ナリト答辨セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ノ旨趣ニ依リ訴訟書類ヲ審査スルニ被告カ故障ノ要點ハ舊戸長桑原春治外二名ト對質云々及從來戸長役場ノ印章トハ之ノ字ノ有無ニ於テ異ナル所アルヲ以テ被告カ彫刻セシメタル印章ハ偽印ニ非ストノ旨趣ナルニ會議局ハ之ニ對シテ何等ノ判決ヲ與ヘスシテ却テ請求ヲ受ケサル犯罪ノ未已ニ論及シ判決ヲ下セシハ即テ治罪法第四百十條第七項ニ該當スル破毀ノ原由アル者トス又會議局言渡書ヲ閱スルニ中畧被告カ所爲ハ則テ未遂犯ナリトス因テ之ヲ法律ニ照スニ刑法第九十五條ト第百十二條トヲ以テ論シ重懲役ニ二等ヲ減シ輕禁錮ニ處分シテ至當ナルモノニ付云々トアリ按スルニ刑法第百十二條ノ如キハ情狀ニ依リ一等又ハ二等ヲ減スルモノニシテ法律上已定ノ減等ヲ以テ重罪ヨリ輕罪ニ入ルモノト異リ本件減等ノ如キハ公判ニ於テ其情狀ニ依ルヘキモノナルニ會議局ニ於テ本刑ニ二等ヲ減シ輕罪裁判所ヘ移スノ言渡ヲナシタルハ明治十五年司法省丙第二十一号達ヲ誤解セシモノナリトス姑ヲシ原言渡ノ如ク二等ヲ減シ得ルモノトスルモ重懲役ヨリ二等ヲ減シ輕禁錮ニ該ルモノトセシハ法律ノ適用ヲ誤リタルモノニシテ是亦破毀ノ原由アルモノトス依テ治罪法第四百二十八條ニ則リ原言渡ヲ破毀シ適應ノ裁判ヲ受シメン爲メ甲府輕罪裁判所會議局ヘ移スモノナリ

第七百五十五號

○判文(道路損壞) 明治十五年十二月十二日上告
同 十六年十一月廿一日發付

静岡縣遠江國豐田郡藤上原村
平民農業

水野喜平次

明治十五年六月
三十四歲

明治十五年六月十九日濱松輕罪裁判所ニ於テ右喜平次カ公道ヲ妨害シタルトノ被告事件ヲ審理シ所犯過誤ニ出テ故意ヲ以テ道路ヲ損壞シタルト認ム可キ證據充分ナラス新法ニ正條ナキヲ以テ刑法第二條ニ照シ無罪ナリト判定シ且治罪法第三百五十八條第三項ニ照シ放免セリ同裁判所檢事補吉富基太郎ハ右ノ裁判ヲ不當ナリトシ上告ヲ爲シタリ其旨趣ハ被告人カ故意ヲ以テ公道ヲ妨害シタル證據充分ナルニ因リ原判文ノ前段ニ公道ヲ妨害シタル者ト判定ストアリ然ルニ後段ニ至リ故意ヲ以テ道路ヲ損壞シタル證據充分ナラスト云ハ前後矛盾ノ判文ナリ又刑法第六十二條ノ正條アルアリ然ルニ法律ニ正條ナシトシ無罪放免ノ處分ヲ爲シタルハ不法ノ裁判ナリト云ニ在リ依テ本院檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ

原裁判言渡書ヲ閱スルニ其前段ニ被告ハ水野喜平次ハ公道ヲ妨害シタル者ト判定ストアリ別ニ錯誤ニ出テタル事實ヲ舉示シアラサレハ即テ故意ニ公道ヲ妨害シタルトノ犯狀ヲ認視セシ者ノ如シ然ルニ其後段ニ於テ所犯過誤ニ出テ故意ヲ以テ道路ヲ損壞シタルト認ム可キ證據充分ナラスト云ヘルハ是前後ニ舉示スル理由ニ齟齬アルモノナリ且ツ果シテ其所爲故意ニ出テス過誤ニ係ル事實ナリト認定セシナレハ宜シク其理由ヲ明示スヘキニ之ヲ缺キ而テ直チニ無罪ノ處斷ヲ爲シタルハ不適法ノ裁判ニシテ治罪法第四百十條第九ニ該ル上告ノ原由アル者ト判定ス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ニ依リ原裁判言渡ヲ破毀シ更ニ適法ノ審判ヲ受ケシムル爲メ被告事件ヲ静岡輕罪裁判所ニ移ス者也

第一千七百五十六號

○判文(他人物品冒認販賣)明治十五年十二月廿七日上告
同 十六年十一月廿一日發付

大坂府北區大工町平民
車曳業

長谷川 庄次郎

明治十五年十月
三十六年

他人ノ物品ヲ冒認シテ販賣シタル被告事件ニ付明治十五年十月十三日大坂輕罪裁判所カ刑法第三條ニ從ヒ新舊法ヲ比照シ刑法第三百九十三條ニ依リ同第三百九十條ニ照シ二月十日ノ重禁錮ニ處シ罰金監視ヲ附加セスト言渡タル裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ前ニ東京景色ヲ寫シタル人力車消防組ヲ描キタル人方ト二輛ヲ所有セリ而シテ消防組ノ車ハ他ニ賣却シ東京景色ヲ寫シタル車ハ高岡「ヒサ」ニ賣渡シ人力車借用證書ト金員借用證ノ二通ヲ入レ羽代七錢ニテ借用高金額ヲ支消セハ被告カ所有ニ歸スルヲ約諾シタリ其際「ヒサ」カ活版摺ノ證書按チ出シ車ノ繪樣等ハ追テ「ヒサ」カ記入スル旨申聞ルニ任セ調印シ置タルニ豈計「ヒサ」ニ於テ該證書ニ被告カ借用ノ車ハ他ニ賣却シタル消防組ノ繪樣ト記入シ他人ノ所有物ヲ冒認賣却シタリト誣告ニ及ヒタリ依テ審問ノ際是等ノ事實ヲ辨明スルモ原裁判所ニ於テ採用セラレス遂ニ冤枉ニ陥リタルヲ以テ公明ノ裁判ヲ仰クト云フニ在リ

對手人檢事補宮崎多喜衛ハ原裁判至當ニテ上告ノ不理ナル旨答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ノ理由トスル處純テ他人ノ所有ニ係ル人力車ニアラサレハ公判ノ際之ヲ陳述スルモ之ヲ採用セス刑ヲ言渡サレシハ不服ナリト云フニアリト雖モ各種ノ證據ニ據リ認メタル事實ニ對シ徒ニ當否ヲ訴フルニ過キサレハ上告ノ原因ト爲ヌ得ス何ントナレハ治罪法第四百十條ニ檢察官及ヒ被告人ハ豫審又ハ公判ノ言渡ニ對シ左ノ場合ニ於テ上告ヲ爲スト得トアリテ其第一ヨリ第十一ニ至ル各項目ニ適當セサレハナリ因テ上告ノ趣旨相立、ス右ノ理由ニ基キ治罪法第四百二十七條ニ因リ本案上告ヲ棄却スル者也

第一千七百五十七號

○判文(私印偽造)明治十五年十二月廿一日上告
同 十六年十一月廿一日發付

岡山縣備中國賀陽郡大井村士族
農業

乘 金 託 太郎

明治十五年九月
四十三年十月生

明治十五年九月十九日岡山輕罪裁判所ニ於テ右乘金託太郎カ被告事件ヲ審判シ他人ノ私印ヲ偽造シテ使用シ印影ヲ盜用シ權利義務ニ關スル證書ヲ偽造シテ行使シ及ヒ人ヲ欺罔シテ金圓ヲ騙取セントシテ未タ遂ケサルノ數罪ヲ犯シタル者ト爲シ刑法第百條ニ照シ一ノ重キ私印偽造ノ罪ヲ論シ同第二百八條ニ依リ六月ノ重禁錮ニ處シ五圓ノ罰金ヲ附加シ仍ホ同第

百十二條ニ依リ六月ノ監視ニ付スト言渡シタル裁判ニ對シ被告人乘金託太郎及ヒ原裁判所
 檢察官檢事補樺島鎮八ハ各自ニ上告ヲ爲シタリ
 被告人上告ノ要旨ハ原裁判所ニ於テ河野元助ヲ以テ鑑定人ト爲シ印影ノ眞偽ヲ鑑定セシメ
 タルモ元助ハ詐欺取財ノ罪ニ因リ本年六月中重禁錮ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其犯罪ノ
 日ハ本年二月中ニ在リ而シテ本件ノ鑑定ヲ命セラレシハ三月二十五日ナレハ已ニ詐欺ノ罪
 ナ犯シタルノ後ニ係リ即チ治罪法第百八十二條第五項ニ適當シ鑑定人タルコトヲ得サル者ナ
 リ然ルニ其鑑定書ヲ採用シテ被告人カ犯罪ノ証左ニ供セラレタルハ治罪法第百九十五條ニ
 背戻シタル越權ノ處分ナリト云フニ在リ檢察官上告ノ要旨ハ被告人カ私印私書ヲ偽造シタ
 ルハ金圓ヲ騙取セントスルノ目的ニ在リテ其偽証書ヲ以テ裁判所ニ訴出シタルモ被害者ニ
 告訴セラレ其目的ヲ遂ケ得サリシハ所謂意外ノ障礙ニ因リ未タ遂ケサルモノニシテ未遂犯
 罪ヲ以テ論セサルヘカラス然ルニ原裁判所カ詐欺取財ノ罪ノミチ未遂犯トシ其餘ハ悉ク既
 遂犯トシ處斷シタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在リ大審院ニ於テ治罪法第百二十五條ノ
 定式ヲ履行シ判決ヲ爲ス左ノ如シ

治罪法第百八十二條第五項ニ重禁錮ノ刑ニ該ル可キ輕罪事件ニ付公判ニ付セラレタル者ト
 アレハ現ニ公判審理中ニ在ルチ指稱シタルモノニシテ其後日公判ニ付セラレシチ以テ前日
 ノ證言ヲ消滅スヘキモノニ非ス本件鑑定人河野元助ノ如キハ其鑑定ヲ爲シタル當時ニ在テ
 公判ニ付セラレタルニ非サレハ固ヨリ鑑定人タルノ資格ヲ失ヒタル者ニ非ス原裁判所カ其
 鑑定書ヲ採用シテ犯罪ノ証左ニ供シタルハ相當ノ處分ニシテ被告人カ越權ナリトノ上告旨
 趣ハ相立サルモノトス又檢察官ハ私印私書偽造ノ罪ヲ未遂犯ナリト論告スト雖モ被告人ハ
 私印ヲ偽造シ印影ヲ盜用シテ証書ヲ作爲シ之ヲ裁判所ニ提供シ以テ金圓ヲ騙取セント試ミ
 タル者ナレハ其目的タル詐欺取財ノ罪ハ未タ遂ケサルモ私印私書偽造行使及ヒ印影盜用ノ
 罪ハ既ニ遂ケタルモノナル論チ俟タス故ニ原裁判所ニ於テ數罪中詐欺取財ノ罪ノミチ未遂
 犯トシ其餘罪ハ總テ既遂犯ト爲シ一ノ重キニ從テ處斷シタルハ相當ノ裁判ニシテ毫モ錯誤
 ノ點アルニ非ス依テ上告ノ旨趣ハ採用スルニ由ナキモノトス
 右ノ理由ナルチ以テ治罪法第百二十七條ノ成規ニ從ヒ本件被告人ノ上告及ヒ檢察官ノ上
 告ハ共ニ之ヲ棄却スルモノナリ

第千七百五十八號

○判文(証書偽造)明治十六年一月廿九日上告
 同 年十一月廿二日發付

京都府上京區第十六組藤五郎町
 平民雜業

大 敷 治 郎 兵 衛

明治十五年十一月

三十九年三月

右治郎兵衛カ被告事件ニ付明治十五年十二月二十四日京都輕罪裁判所ニ於テ被告ハ岡本重
 賢ナル者ヨリ民事ノ詞訟ヲ受クルニ當リ其「子」字ノ首部ヲ殊更ニ破毀シ「卯」字ニ變造シ是
 ナ以テ其要求ヲ拒ミ克訴ノ裁判ヲ得タル者ト確認シ刑法第二百十條同第二百十二條ニ依リ
 重禁錮五月ニ處シ罰金二十圓ヲ附加シ監視六月ニ付ス其犯罪ノ用ニ供シタル乙第二號證ハ

同第四十三條ニ依リ之ヲ沒収ス其他三十圓ノ入金証及ヒ民事裁決書ニ通ハ用濟ニ付下渡ストノ裁判言渡ヲ不當ナリトシ被告人カ上告爲シタル要旨ハ該証ノ破レタルハ嘗テ狀刺ニ挿入アリシヲ誤テ毀損セシモノニテ聊故意變造ノ覺ナキニ輕忽ニモ之ヲ有罪ナリトシ該刑ニ處セラレタルハ擬律ノ錯誤ナルニ依リ之カ破毀ヲ請願スト云フニアリ茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルコト左ノ如シ
本案上告ハ事實判定上ノ不當ヲ唱ヘ論疏スル所アリト雖モ之ヲ以テ上告ノ原由ト爲スコトヲ得ス何トナレハ該事實ノ判定証憑ヲ取捨監別スル等ハ專ラ原裁判官ノ職權内ニ屬シ他ノ得テ非難シ得ヘキ所ニアラサレハナリ而其判定セル事實ニ於テハ刑ノ適用至當ニシテ錯誤ノ廉アルコトナシ因テ該上告ハ相立タサルニ付治罪法第四百二十七條ニ則リ之ヲ棄却スルモノ也

第七百五十九號

○判文(犯人藏匿) 明治十六年一月三十一日上告
年十一月廿二日發付

廣島縣備後國深津郡福山本町平
民宿屋商

小倉谷五郎

明治十五年十一月

罪人藏匿被告事件ニ付明治十五年十一月十六日尾道輕罪裁判所カ刑法第五百一一條ニ依リ二月十五日ノ輕禁錮ニ處シ五圓ノ罰金ヲ附加スト言渡タル裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ

妻「タカ」ニ於テ河村藤吉ヲ居宅裏ニ階ニテ暫時養生爲致タル由ナルモ決シテ上告人谷五郎ニ於テハ之ヲ知り得タルコトニアラス然ルニ原裁判所ハ確乎タル徵憑モナキニ犯罪人タルヲ知テ藤吉ヲ隱匿シタルモノトシ刑ヲ言渡サレタルハ越權ノ處分ナリト云フニアリ
對手人檢事補村田繼述ハ上告趣旨ノ不當ナルヲ辨駁シ原裁判毫モ不當ニ非スト答辨セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
上告ノ理由トスル處犯罪人河村藤吉ヲ隱匿セシハ妻「タカ」ノ所爲ニテ上告人谷五郎ノ知ル處ニアラサリシト云フニアリト雖モ原裁判所カ正當ナル法式ヲ踐行シ認メタル事實ニテ他ヨリ之ヲ左右スルヲ得ス何ントナレハ治罪法第四百十條ニ檢察官及ヒ被告人ハ豫審又ハ公判ノ言渡ニ對シ左ノ場合ニ於テ上告ヲ爲スコトヲ得トアリテ第一項ヨリ第十一項ニ定メタル項目外ニ涉ルヲ以テ破毀ヲ求ムルノ原因ト爲スニ足ラス因テ上告趣旨相立ス
右ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スル者也

第七百六十號

○判文(物品ヲ拐帶) 明治十六年一月廿三日上告
年十一月廿二日發付

秋田縣羽後國山本郡鶉川村平民
農業

佐々木龜太郎

明治十五年十月

他人ノ物件ヲ拐帶セシ被告事件ニ付明治十五年十月十一日能代治安裁判所ニ於テ秋田輕罪

裁判所カ罪トナラサル所爲ナリトシ無罪ト言渡タル裁判ニ對シ檢察官警部福原三造ハ上告セリ其要領ハ縱令自己ノ計算ニ係ル書類タリトモ恣ニ取り歸リタルハ拐帶ノ所爲タル明瞭ナルニ原裁判所ハ之ヲ無罪ナリト判斷セシハ不當ナリト云フニアリ

對手人佐々木龜太郎ハ原裁判允當ナリトノ趣旨ヲ答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ノ理由トスル處自己ノ計算ニ係ル書類タリトモ恣ニ取歸リタルハ拐帶ノ所爲ナリト云フニアリト雖モ原裁判所カ各種ノ證據ニ依リ認メタル事實ニ對シ其當否ヲ論難スルニ過キサレハ破毀ヲ請求スル原因ト爲スヲ得ス何ントナレハ治罪法第四百四十六條ニ被告人ノ白狀官吏ノ檢證調書證據物件證人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアレハナリ因テ上告趣旨相立タス

右ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スル者也

第千七百六十一號

○判文(詐欺取財)明治十六年十月三十一日上告
年十一月廿二日發付

岡山縣美作國西北條郡船頭町平民

倉吉光藏方同平民古手商

坂田庄平

年齡不詳

岡山縣美作國西北條郡材木町平

民古手商

太田宇太郎

年齡不詳

岡山縣美作國東南條郡林田町平

民古手商

木村常助

年齡不詳

詐欺取財被告事件ニ付明治十六年二月二十八日岡山輕罪裁判所津山支廳カ刑法第三百九十九條同第三百九十四條同第四百條ニ依リ各一年半ノ重禁錮ニ處シ十五圓ノ罰金ヲ附加シ十月ノ監視ニ付スト言渡シタル裁判確定ノ後再審ノ訴ヲ爲シタリ其要領ハ犯罪ノ當時奥野由助奥野五兵衛ヨリ岩瀧編百一反買取リタル由ヨリ受領セル賣買仕切證アルヲ遺忘シ竟ニ豫審及ヒ公判廷ニ提出セサリシ爲メ未タ所有權ノ轉移セサル物件ヲ他へ金圓借用ノ爲メ抵當ニ充テタルハ即チ之ヲ詐取シタルモノト爲シ刑ノ言渡ヲ受ケタレトモ今ヤ發見シタル仕切證ヲ以テ賣買全ク成リタルヲ證スルニ足レハ假令代金交付ノ期ヲ愆ルモ其責メ民事ニ止リ刑事ニ及ハサルモノナリト云ヒ又宇太郎常助ハ庄平ノ依頼ヲ受ケ岩瀧編ヲ抵償ニ預リ金圓ヲ貸與シタルヨリ共謀者ナリト認定セラレタルモ既ニ庄平カ爲シタル賣買ハ眞成ノモノナレハ各其冤枉ニ係リタルモノタル明瞭ナリ因テ治罪法第四百二十九條第五ニヨリ再審ヲ仰クト云フニアリ

大審院檢事長渡邊驥ニ於テハ其冤枉ヲ証スル爲メ差出シタル奥野由助ヨリ受取置シト云フ
證書ハ人民相互ノ證書ニテ公正ニ成立タルモノニアラサレハ治罪法第四百三十九條第五項
ニ適當セス故ニ棄却ノ言渡アラソクテ望ムトノ意見ヲ送致セリ

茲ニ專任判事ノ報告ニ因リ全員會議ノ上判決スル左ノ如シ
再審ヲ訴フル理由トスト被害者由助ヨリ受領シ置キタリト云ヒ差出シタル証據書ヲ見ルニ
木綿糸入綿百一反代金貳百貳十壹圓三拾貳錢內金拾圓相渡シ貳百拾壹圓三拾貳錢ノ借用金
證書ニテ訴訟人庄平ヨリ被害者奥野由助ヘ宛テタルモノナレハ其賣買ハ既ニ成立タルモノ
ニテ之ヲ抵償トシ金借シタルモ罪トナルヘキモノニアラスト云フニアリト雖モ其証據トス
ル證書ハ人民相互ノ間成立テタルモノニテ公正ヲ經タルモノニアラサレハ治罪法第四百三
十九條第五ノ場合ハ勿論第一ヨリ第四ニ至ル場合ニモ適當セサルニヨリ再審ノ原因ナキモ
ノトス

右ノ如クナル以テ本案訴訟ヲ棄却スル者也

第七百六十二號

○判文(詐欺取財)明治十五年十一月廿二日上告
同十六年十一月廿二日發付

愛媛縣讚岐國香川郡四番町五拾

八番地士族

窪谷作平

年齡不詳

同縣同國同郡二番町拾三番地士

族

西尾勳樂

年齡不詳

右被告兩名カ犯罪事件ニ付明治十五年九月四日高松輕罪裁判所會議局ニ於テ豫審終結ノ言
渡ヲ認可シタルヲ不當ト爲シ民事原告人河合辰五郎ハ上告セリ其要領ハ被告等カ共謀シテ
明治四年十一月附ノ賣渡證書ヲ偽造シ民事原告人所有ノ鹽田ヲ詐取シタル証跡明確ナルコ
豫審判官ニ於テ其証憑不充分ナリト爲シタルノミナラス被告等ノ答辨ヲ原告人ニ示サス且
ツ其指名シタル証人ヲ訊問セスシテ輒ク免訴ノ言渡ヲ爲シタルハ越權ナルヲ以テ故障ヲ申
立テタリ然ルニ原裁判所會議局ニ於テ豫審終結ノ言渡ヲ認可シタルハ不法ノ判決ナルニ付
之カ破毀ヲ求ムト云フニ在リ

被告兩名ハ上告趣旨ノ不理ナルヲ論シ會議局ノ判決至當ナリト答辨セリ仍テ本院檢事ノ意
見ヲ聞キ判決スル左ノ如シ

上告人ニ於テ被告等カ犯罪ノ証跡明確ナルニ其証憑不充分ナリトシ免訴シタルハ不當ナル
カ如ク論告スト雖凡ソ諸般ノ証憑ヲ採擇シ事實ヲ判定スルハ原裁判官ノ特有スル權内ニシ
テ輒ク其當否如何ニ論及スルヲ得サルモノトス又豫審判官カ被告等ノ答辨ヲ民事原告人ニ
示サ、ルモ之ヲ以テ不法ト爲スヲ得フ何トナレハ其答辨ヲ示スヘシトノ明文ナキヲ以テナ
リ又民事原告人カ指名シタル証人ヲ召喚セサルニ非ス其証人ニ對シ呼出狀ヲ發シタルモ原

籍ニ在ラサルヲ以テ之ヲ訊問セサルナリ然ハ則チ原裁判所會議局カ豫審終結ノ言渡ヲ認可シタルハ至當ニシテ毫モ破毀ノ原由ナキモノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本件上告ヲ棄却スルモノ也

第千七百六十三號

○判文(偽証) 明治十六年一月十日上告
年十一月廿二日發付

島根縣出雲國意宇郡雜賀町士族
當今鳥取縣伯耆國會見郡米子西
倉吉町寄留活版職

原

義 鄉

明治十五年七月
四十年四月

明治十五年七月五日松江輕罪裁判所會議局ニ於テ被告原義郷カ偽証事件ニ於ケル豫審終結言渡ノ故障ニ對シ爲シタル判決ニ付被告原義郷ハ明治十五年七月十四日上告申立ヲ爲シ明治十五年七月二十日上告趣意書ヲ差出シタリ因テ治罪法第四百十四條上告ノ期限ハ三日ナリトス但豫審ニ付テハ言渡書ノ送達アリタルヨリ起算シ云々トアルニ準據シ尙ホ一件書類ヲ點檢スルニ該書類中全ク送達証ノ添付ナケレハ其送達ノ日ヲ証明スルニ由ナク而シテ義郷ノ上告上願書トアル(即チ上告申立書)文中「云々故障申立ノ趣意書ヲ奉呈ナシタル事件ニ付本年七月十四日午後第六時同裁判所會議局ヨリ御送達相成リシ判決書中云々」トアリ又上告趣意書中「明治十五年七月十四日午後第六時右故障ノ趣意書ニ對シ松江輕罪裁判所

會議局ヨリ左ニ謄寫スル所ノ判決書御送達相成リタリトアルニ據レハ該判決書ノ送達ハ十五年七月十四日ニ在ルモノ、如シ然レモ其送達ノ確實如何ニ至テハ差向キ之ヲ証明スルニ由ナキヲ以テ姑ク之ヲ閣キ抑其上告申立ヲ爲シタルハ明治十五年七月十四日ニシテ其上告趣意書ヲ差出シタルハ明治十五年七月二十日ヲ以テシタルト明確ナレハ則チ治罪法第四百十七條上告申立人ハ其申立ヲ爲シタルヨリ五日内ニ趣意書ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出スヘシトアルニ照シテ被告カ上告申立ヲ爲シタルヨリ起算スレハ既ニ一日ヲ經過セリト然ラハ則チ同法第二十條此法律ニ於テ訴訟ヲ爲スニ付キ定メタル期限ヲ經過シタル時ハ特別ノ場合ヲ除クノ外其權ヲ失フヘシトアルニ依リ本案上告ハ特別ノ場合アルニ非サレハ到底成立タサルモノトス因テ該上告ハ治罪法第四百二十七條ニ依リ之ヲ棄却スルモノ也

第千七百六十四號

○判文(偽造証書) 明治十五年十二月廿五日上告
同 十六年十一月廿二日發付

山形縣羽前國南村山郡金瓶村
平民農業

守 谷

傳 右衛門

明治十五年八月
四十六年八月

私書偽造詐欺取財被告事件ニ付明治十五年八月廿四日山形輕罪裁判所豫審終結言渡ニ對シ故障ヲ爲シ同會議局ニ於テモ豫審終結言渡ヲ允當ナリトシ之ヲ認可セシニ服セス上告セリ其要領ハ告訴人金澤利右衛門ヨリ明治十五年二月ヲ以テ地所ヲ買受ケ證書ヲ受領シ其年九月

ニ至リ同人親屬數輩ヨリ懇談ニ因リ向十ヶ年間其一部分ノ買戻ヲ許シ登時更ニ其一部分ノ賣約証書ト買戻期限ヲ許セル証書ト交換シタルヲ前キノ本証トナシテ偽造ナリト認メラレタルヲ以テ故障申立タルニ會議局ニ於テハ輕罪裁判所へ移スノ言渡ニ對シテハ豫審判事ノ管轄違ヒ越權ノ處分ニ非サレハ故障ヲ爲スヘキ限ニアラストシ棄却サレタルモ故障趣旨書中豫審判事ノ越權ナリト云フ文字ヲ掲ケ出サ、ルヲ以テ之ヲ斥ケラレタリ其他証人ヲ各自ニ訊問アラントナ願ヒ又陳述書ノ謄本ヲ求メタレト之ヲ與ヘラレサル等共ニ不法ノ判決ナリト云フニ在リ對手人檢事納富利邦ハ上告趣旨ノ不當ナルヲ辨駁シ原裁判ハ允當ナリト答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
 上告ノ理由トスル處越權ノ文字ハ掲載セサレトモ豫審終結言渡ハ自ラ越權ノ處分アルニモ係ハラス會議局ニ於テハ被告カ故障ハ制限外ニ涉ルヲ以テ棄却スト言渡サレタルハ不服ナリト云フニアリト雖各種ノ証憑ヲ取捨シ事實ヲ認定スルハ承審官ノ權内ニテ他ヨリ之ヲ左右スルヲ得ス何ントナレハ治罪法第四百十六條ニ被告人ノ自狀官吏ノ檢証調書證據物件証人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアレハナリ又証人ヲ各自ニ訊問アラントナ願ヒ陳述書ノ謄本ノ下付アラントナ求メタルモ之ヲ採用セラレサリシト云フモ會議局へ爲シタル故障外ノ論點ニテ是亦破毀ヲ求ムルノ原因ト爲スニ足ラス因テ上告ノ趣旨總テ相立タス
 右ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スル者也

第七百六十五號

○判文(寄託品費消)明治十六年一月廿六日上告
 全 年十一月廿二日發付

東京府日本橋區元柳町三十二番地

平民

石川 猪之助

明治十五年十一月

二十三年四月

右猪之助カ被告事件ニ付明治十五年十一月十七日東京輕罪裁判所ニ於テ被告ハ齋藤新之助ノ委託金五十圓ヲ費消シタル者ト判定シ刑法第三百九十五條ニ照シ重禁錮二月ノ刑ヲ言渡シタル裁判ニ對シ被告猪之助上告ヲ爲シタル其要旨ハ被告カ齋藤新之助ノ許諾ヲ得テ委託金ヲ費消シタルトニシテ該金五十圓ハ已ニ借用證書ヲ調製シ小宮己之助ヲ以テ新之助カ商店ナル萬金店へ送付シタリ其始末ハ已之助カ豫審廷ノ陳述及ヒ新之助カ該證書ヲ受取タルハ武田仁太郎カ證言等ニテ明カナレハ該金員ヲ費消スルモ刑法ノ制裁ヲ受クヘキモノニアラス然ルチ原裁判官ハ刑法第三百九十五條ヲ適用セラレシハ擬律ニ錯誤アル不當ノ裁判ナリト云フニ在リ原裁判所檢察官ハ上告ノ旨趣不當ナルヲ以テ該上告ハ速ニ棄却アラントノ答辨ヲ爲セリ茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見及ヒ上告代言人佐久間長四郎ノ陳述ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ
 豫審又ハ公判ノ言渡ニ對シ上告ヲ爲シ得ル事項ハ治罪法第四百十條第一項乃至第十一項ニ規定シアリテ該項ニ適合セサルモノハ上告ノ原由ト爲スヲ得サルモノナリ本案上告ハ擬律

ニ錯誤アリト云フモ其論告スル所到底探證及ヒ事實判定ノ當否ヲ訴フルニ過キスシテ上告ノ原由ト爲スヲ得ス今原判文ヲ檢審スルニ第一齋藤新之助カ陳述第二被告カ新之助へ宛タル書翰第三被告カ平田房五郎ヨリ受取タル約定證書等ノ證據ヲ舉示シ受託金五十圓ヲ擅ニ費消シタルモノト其事實ヲ判定シテ而シテ刑法第三百九十五條ヲ適用シタルモノナレハ適當ノ擬律ニシテ聊錯誤ノ廉アルナシ故ニ上告ノ旨趣ハ總テ相立サルモノトス
右之理由ナルニ依リ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本案上告ハ之レヲ棄却スルモノ也

第七百六十六號

○判文(賭博) 明治十五年十二月廿二日上告
明治十六年十一月廿二日發付

茨城縣下総國北相馬郡管生村
平民農業

寺

田清 作
明治十五年八月二十八歲二ヶ月

賭博犯罪被告事件ニ付明治十五年八月四日土浦輕罪裁判所ニ於テ右寺田清作カ所爲ヲ審理シ被告人ニ於テハ明治十五年六月二十一日同村鈴木清右衛門宅ニ於テ鈴木藤七外數名ト錢賭博奕ヲ爲シタル者ト確認シ刑法第二百六十一條ヲ適用シ重禁錮二月ニ處シ罰金拾圓ヲ附加スト言渡タリ

被告寺田清作ハ之レヲ不當ナリトシ上告ヲ爲シタル趣旨ハ明治十五年六月廿一日ハ舊曆節旬ニシテ他ノ招請ニ應ジ不圖モ翌午前二時ニ至リ歸路鈴木清右衛門方へ菓子ヲ買ハント立寄タルニ恰モ好シ兼テ所用アル者集合シ居タルヲ以テ談話セリ適マ坐中廻リ將棋ヲ爲シ居ルニ付錢賭ケナレハ爲ス可ラスト制止セシニ其不然旨答フルヲ以テ傍ラニ喫烟シ凡ソ一時間程モ居タルニ突然何者カ闖入シタルヲ見強盜ナラント思惟シ其場逃去リタル事實ナルヲ原裁判宣告中ニ病後夜半迄長居シタルヲ又ハ菓子ヲ買フニ一時間ヲ費シタルヲ又ハ強盜ナラント誤認ス可キ謂レナキ等ノ事ヲ以テ犯罪視シタル耳ナラス共犯者富山伊八富山貞次カ初メ水海道分署ニ自首セシ時ハ寺田清作ハ錢賭ケヲ爲シテハ惡ヒト云タル証言アルモ願ミス原裁判官カ共犯者ノ自首書及ヒ豫審廷ニ於テ爲シタル陳述等ニ依リ清作外四人ノ犯跡明瞭ナリト言渡タルハ未ダ審理ヲ盡サス事實ノ理由ニ齟齬アル裁判ナリ且同一ノ犯罪者ニ對シ刑期ノ等シカラサルハ不當ナリト云フニアリ對手人檢事補恒河修一郎ハ原裁判ハ相當ニシテ固ヨリ事實ノ理由ニ齟齬アル者ニ非サル旨答辨セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ檢事林三介ノ意見ヲ聽キ判決スルヲ左ノ如シ
上告ノ理由ハ原裁判官カ認定シタル事實ノ當否ヲ論難スルニ止リ又ハ共犯人ニ對シ科スルニ刑期ノ均一ナラサルハ不當ナリト云フニ在レテ事實ノ判定ハ一ニ承審官ニ任從シ治罪法第四百十六條ノアルアリテ動カス可カラス又刑法中各本條ニ記載アル刑期ノ範圍内ニ於テ其犯罪人ノ情狀ニ因リ刑期ヲ量定スルハ亦承審官ノ特權ニアリ故ニ其權内ニ侵入シ之レヲ左右セント欲スルモ得ヘカラサル者ニシテ本件上告ハ治罪法第四百十條ノ定規ニ適スル原由ナキ者トス
右ノ理由ナルニ因リ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スルモノ也

第七百六十七號

○判文(毆傷) 明治十五年十二月廿二日上告
明治十六年十一月廿二日發付

栃木縣下野國鹽谷郡平田村居住
平民農業

加

藤 幹 實

明治十五年七月
二十三年九月

毆打創傷被告事件ニ付明治十五年七月二十九日宇都宮輕罪裁判所會議局ニ於テ檢察官カ爲シタル豫審終結言渡ニ對スル故障申立ヲ判決シ被告加藤幹實カ所爲ハ増山「タミ」ヲ毆打シテ負傷セシメタル證據判然ナルニ豫審係カ證據不充分ナリトシテ免訴シタルハ不當ナルニ付治罪法第二百五十二條第二項ニ從ヒ其言渡ヲ取消シ刑法第三百一條ニ依リ罰スヘキ犯罪ナリトシ宇都宮輕罪裁判所ニ移ストノ言渡ヲ爲シタリ
被告加藤幹實ハ其判決ヲ不當ナリトシ上告ヲ爲シタルノ趣旨ハ本件ハ豫審廷ニ於テ證據不充分ナリトシ免訴シタルヲ檢察官ノ故障申立ニ因リ會議局ニ於テ被告ヲ刑法第三百一條ノ罪アル者ト判決スト雖モ其證據トスル所ハ證人加藤東十郎參考人増山「クニ」ノ陳述宇都宮公立病院ノ診斷書ノ三種ニ過キス然レモ加藤東十郎ノ証言タル(一時間モ經テ「タミ」自ラ自分方ニ參リ幹實ニ亂暴サレ水車場ヨリ押出サレタル旨申聞ケタレモ)云々トアルノ外現場實檢シタルニアラス又實檢ヲ求メラレタルニモアラサレハ被告人カ毆傷シタルノ證據有セス又増山「クニ」ハ被害者「タミ」ノ實子ニシテ齡十二歳ノ幼者ナレハ固ヨリ知覺完全ナラサルノミナラス親屬相容隱スルハ人情ノ然ラシムル所ニシテ其陳辨ハ信ヲ措クニ足ラス又診斷書ニ於テモ原因打撲ニ因ス徵候左肘關節骨膜ニ炎痛アリテ云々トアリテ其炎痛ハ外傷ノ爲ス所ナル可シト雖モ外傷モ亦種類多シ必ス打撲トノミ言フ可ラス加之被害者「タミ」カ自白ニ棒ニテ打タルハ左ノ足ノミニ有之トアルヲ以テ視ルモ診斷書ニ打撲ニ因ストハ蓋シ速了ノ見解ナルヤ明カナリ以上論スル如ク一モ其證左ト爲スヘキモノ有ルニ非サルノミナラス實ニ被告人カ「タミ」ヲ毆傷シタルニアラサレハ會議局ノ判決ハ破毀アラナイヲ望ムト謂フニ在リ

對手人檢事補吉野信三ハ本件被告人ノ所爲ヲ述ヘ原判決相當ニシテ上告ノ理由ナキ旨ヲ答辨セリ
大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ規則ヲ履行シ判決スルヲ左ノ如シ
本案被告事件ニ對シ豫審判官ハ犯罪ノ證據充分ナラストシテ免訴ノ言渡ヲ爲シ會議局ハ別ニ證據ヲ發見シタルニアラスシテ有罪ナリトノ判決ヲ與ヘタリ是レ齊シク判官ノ心證ニ感觸スル所ナリ以テ一ハ免訴シ一ハ有罪ト爲シタル者ナリ而シテ會議局カ有罪ノ證ト爲シテ其言渡書ニ掲ケタル所ハ證人加藤東十郎參考人増山「クニ」ノ陳述宇津宮公立病院ノ診斷書ニ在リ果シテ此等ノ證據ハ被告人カ増山「タミ」ヲ毆傷シタルトノ確證ト爲スニ足ルヤ否仍ホ公判廷ニ於テ仔細ニ吟味シ適當ノ處斷ヲ爲ス可キモノナレハ被告人カ事實認定ノ當否ヲ論辨シテ會議局ノ判決ニ不服ヲ訴フルノ上告ハ大審院ニ於テ之ヲ採用スルニ由シナキ者トス右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スルモノ也

第七百六十八號

○判文(侵害地) 明治十五年十二月廿五日上告
同 十六年十一月廿四日發付

東京府本所區橫網町二丁目寄留
岡山縣士族

長

瀨鐵藏
明治十五年九月
六十二歲

明治十五年九月二十五日橫濱輕罪裁判所會議局ニ於テ右鉄藏カ公路ヲ堀リ穿テ及ヒ私有地ヲ侵害シタリトノ被告事件ニ付同裁判所豫審掛カ爲シタル免訴ノ言渡ニ對シ民事原告人三原孫七郎ヨリ代人澤田俊三ヲ以テ申立タル故障ヲ審理シ民事原告人ニ於テ故障ヲ爲スヘキ場合ニ非スト爲シ棄却ノ判決ヲ爲シタリ三原孫七郎代人澤田俊三ハ右判決ヲ不當トシテ上告セリ其要旨ハ本按被告ノ所爲タル許可外ノ公路ヲ堀穿テ且民事原告人ノ私有地ニ侵入シ即チ一罪ニ様ノ害ヲ爲シタルモノナルニ豫審終結言渡ハ之ヲ判別セサルノミナラス漫然先地主小野義眞ノ許諾アリトシテ免訴シタルハ事實ノ理由齟齬セルモノニテ斯ノ場合ニハ私權利上ニ大關係ヲ生スルヤ勿論ナレハ故障ノ申立ヲ爲シ得ヘキ者ナルニ原會議局ニ於テ之ヲ棄却セラレタルハ治罪法第二百四十六條第二項ノ解釋ヲ誤レルモノニテ治罪法第四百十條第十項ノ原由アル不法ノ判決ナリト云ニ在リ對手人長瀨鐵藏ハ代言人吉田珍雄ヲ以テ上告ハ不當ニシテ原裁判ハ相當ナル旨答辨書ヲ差出シタリ
大審院ニ於テ尙上告代人及ヒ對手代言人ノ陳述檢事林三介ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

治罪法第二百四十六條第二項ニ民事原告人ハ私訴ニ付越權ノ處分アルニ因リ豫審終結ノ言渡ニ對シ故障ヲ爲スヲ得トアリテ其他ノ場合ニ於テハ之カ故障ヲ爲スヲ得サル者タリ故ニ本件上告ニ付テハ先ツ原豫審終結處分ハ果シテ越權ノ點アルヤ否ヲ見ルヲ以テ至要ナリトス因テ之ヲ監査スルニ原豫審掛ハ參考人ノ陳述并神奈川縣廳ニ差出シタル願書等ニ據リ被告人ノ所爲ハ罪ト爲ラサルヲ認メ免訴ノ言渡ヲ爲シタル者ナレハ是豫審判官カ爲シ得ヘキ權内ニ於テ其證據ヲ採擇シ其實ヲ認視シ本案ニ對スル相當ノ處分ヲ爲シタル者ニシテ毫モ私訴ニ付越權ノ處分アルニ非ス然ハ既ニ民事原告人ハ該終結言渡ニ對シ故障ヲ爲シ得ヘキ權ナキ者ナルニ依リ原會議局ニ於テ之ヲ棄却シタルハ擬律錯誤等不法ノ判決ニ非サルヲ以テ之ヲ不法ナリトスル上告ノ論旨ハ總テ相立タサル者ト判定ス
右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本件上告ヲ棄却スル者也

第七百六十九號

○判文(竊盜) 明治十五年十二月廿六日上告
同 十六年十一月廿四日發付

岐阜縣美濃國安八郡勝賀村平民

片

野房吉
明治十五年十月
十五歲

明治十五年十月十二日大坂輕罪裁判所ニ於テ右片野房吉カ被告事件ヲ審判シ曩キニ竊盜ノ處斷ヲ受ケ主刑滿限ノ後監視ノ執行ヲ逃レ又數次竊盜ヲ爲シ及ヒ警察署ニ對シ屬籍氏名ヲ詐稱シタル者ト爲シ其數罪中一ノ重キ二人共謀シテ竊盜ヲ犯シタル罪ヲ論シ刑法第三百六

十九條ニ依リ第三百六十六條ノ刑ニ一等ヲ加ヘ其再犯ナルヲ以テ仍ホ一等ヲ加ヘ而シテ十六歲未滿ニシテ是非ヲ辨別シタル者ト認メ本刑ニ二等ヲ減シ二月十一日以上三年一月九日以下ノ範圍内ニ於テ一年六月ノ重禁錮ニ處シ刑法第三百七十六條ニ照シ一年ノ監視ニ付スト言渡シタル裁判ニ服セス被告人ハ上告ヲ爲シタリ其旨趣ハ第一刑法第三百六十九條ノ刑ニ一等ヲ加フレハ三月三日以上六年三月以下ノ重禁錮ニ該リ其本刑ヨリ二等ヲ減スル時ハ一月十六日以上三年一月十五日以下ノ刑ニ處スヘキモノタリ然ルニ原裁判所カ二月十一日以上三年一月九日以下ノ範圍内ニ於テ處斷セラレシハ擬律ノ錯誤ナリ第二監視規則違犯ノ罪刑法第百五十五條ノ刑十五日以上六月以下ノ重禁錮ヨリ二等ヲ減スレハ七日以上三月以下ノ範圍ニ該レリ然ルニ三日以上三月以下ノ重禁錮ニ處スヘキ云々ト言渡シタルハ不當ナリ第三被告人ハ知覺精神ノ不充分ナルト赤貧飢渴ニ迫ルトニ因リ不良心ヲ生シタル者ナレハ其情狀ヲ審按シ刑期範圍内ノ最短期ニ處セラルヘキモノナリト云フニ在リ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ判決ヲ爲ス左ノ如シ

犯罪ノ情狀ヲ檢按シ本刑長期短期ノ範圍内ニ於テ相當ノ刑期ヲ定ムルハ固ヨリ事實裁判官ノ主權ナレハ其犯情ノ輕重ヲ陳述シ刑期ノ長短ヲ論難スルモノヲ以テ上告ノ原由ト爲スヲ得サルモノニシテ本件上告第三旨趣ノ如キハ之ヲ採用スルニ由ナシ又其第二ノ論旨ニ係ル監視規則違犯ノ罪ニ對シ七日以上三月以下ノ刑ニ該ルモノヲ三日以上三月以下ト言渡シタルハ上告旨趣ノ如ク其計算不當ナルモ原裁判ハ數罪中一ノ重キ竊盜ノ罪ヲ論シタルモノナレハ余罪ノ刑期ニ錯誤アルモ本刑ニ影響ヲ及ホサルニ依リ破毀ノ限ニ在ラス而シテ上

告第一ノ論點タル竊盜ノ本刑三月三日以上六年三月以下ノ重禁錮ヨリ二等ヲ減スレハ一月十六日以上三年一月十五日以下ニ處スヘキモノナルニ原裁判所カ二月十一日以上三年一月九日以下ノ範圍内ニ於テ處斷シタルハ本刑ヲ加重減輕スルノ際刑期計算ノ差異ヲ致シタルモノニシテ擬律ノ錯誤アル不法ノ裁判タルヲ免カレス依テ治罪法第四百三十一條ノ成規ニ從ヒ原裁判言渡中竊盜ノ處斷ニ係ル部分ヲ破毀シ本院ニ於テ直チニ裁判言渡ヲ爲スモノナリ

片 野 房 吉

原裁判言渡書ニ明示シタル如ク數罪俱發スルニ因リ刑法第百條ノ例ニ從ヒ一ノ重キ二人共謀シテ竊盜ヲ爲シタル罪ヲ論シ刑法第三百六十九條ニ二人以上共ニ前三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ各一等ヲ加フトアルニ依リ前第三百六十六條ニ記載シタル竊盜ノ罪二月以上四年以下ノ刑ニ一等ヲ加ヘ二月十五日以上五年以下ノ重禁錮ニ該ルモ其再犯ニ係ルヲ以テ刑法第九十二條ノ例ニ從ヒ本刑ニ一等ヲ加ヘ三月三日以上六年三月以下ノ重禁錮ニ處ス可キモノトス而シテ犯時十二歲以上十六歲未滿ニシテ是非ヲ辨別シタル者ト認メ刑法第八十條ニ照シ其罪ヲ宥恕シテ本刑ニ二等ヲ減シ一月十六日以上三年一月十五日以下ノ範圍内ニ於テ一年三月ノ重禁錮ニ處シ仍ホ刑法第三百七十六條ニ依リ十月ノ監視ニ付スルモノナリ

第七百七十號

○判文(私書偽造) 明治十六年十月十三日上告
全 年十一月廿四日發付

和歌山縣紀伊國名草郡内原
村平民

川 端 嘉 平 次

明治十六年五月

五十二年

証書偽造及証券印紙再貼用被告事件ニ付明治十六年五月三日和歌山輕罪裁判所ニ於テ刑法第二百十條及第二百十二條第八十九條第九十條ニ依リ重禁錮二月罰金二圓監視六月ニ處シ仍ホ明治七年第八十一號布告第十二條ニ依リ罰金拾圓ヲ科スト言渡シタル裁判ニ對シ本院檢事長渡邊驥ハ非常上告ヲ爲シタリ其要旨タル本案被告事件ハ私書偽造ト印紙再貼用トノ二罪ナルヲ以テ再貼用ノ罪ハ刑法第九十九條ニ依リ偽造ノ罪ハ同法第二百十條ニ依リ數罪俱發ナルヲ以テ其情狀最重キ一罪ヲ以テ處斷スヘキモノナルニ原裁判所カ刑法第二百十條第二百十二條第八十九條第九十條ニ依リ重禁錮二月罰金二圓ニ處シ監視六月ニ附シ而シテ明治十四年第七十二号布告第六條ノ明文アルニモ係ハラヌ明治七年第八十一号布告第十二條ニ依リ罰金拾圓トヲ併科シタルハ即チ通常ノ刑ヨリ重キ刑ヲ言渡シタル不法ノ裁判ナルヲ以テ之カ破毀ヲ求ムト云フニ在リ仍テ本院檢事加納久宜ノ意見ヲ聞キ判決スル左ノ如シ

証書偽造ノ罪ト印紙再貼用ノ罪ト併發シタル場合ニ於テハ其偽造ノ罪ハ刑法第二百十條ニ擬シ再貼用ノ罪ハ明治十四年第七十二號布告第六條ニ依リ刑法第九十九條ニ擬シ仍ホ數罪俱發例ニ照シ所犯情狀最重キニ從ヒ處斷スヘキハ論ヲ俟タスト雖モ其証書ノ偽造ニ係リ法律上無効ノモノナル時ハ証券印紙ヲ貼用スルヲ要セサルハ勿論再貼用スルモ刑法第九十九條ノ問フ所ニアラサルナリ抑モ本件被告カ所爲ハ原裁判官認定ノ如ク權利義務ニ關スル証書ヲ偽造シ印紙ヲ再貼用シテ之ヲ行使シタルモノナレハ原裁判所カ刑法第二百十條及同法第二百十二條第八十九條第九十條ニ依リ重禁錮二月罰金二圓ニ處シ監視六月ニ附シタルハ適當ナリト雖再貼用ヲ以テ論シタルハ乃チ罪トナラサル事實ニ對シ刑ヲ科シタル不法ノ裁判ナリト判定ス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百三十一條ニ基キ原裁判官言渡中印紙再貼用被告事件ニ係ル部分ヲ破毀シ其所爲ニ對シテハ本院ニ於テ更ニ無罪ノ言渡ヲ爲スモノ也

第一千七百七十號

○判文(監視犯則) 明治十六年一月廿五日上告
同 年十一月廿五日發付

新瀨縣佐渡國羽武茂郡瀧脇村平

民桂藏兄日稼

江 良 傳 三 郎

明治十五年十月

三十二年一月

右傳三郎カ監視規則違犯事件ニ付明治十五年十月三十一日相川治安裁判所ニ開キタル新瀨輕罪裁判所於テ刑法第五百五十五條及七同第九十二條ニ照シ本刑ニ一等ヲ加ヘ重禁錮二月ニ處スト言渡タル裁判ヲ不當ナリトシ同裁判所檢察官新瀨縣警部谷山新八カ上告爲シタル要領ハ裁判官カ刑法總則第九十二條ニ據リ通常ノ輕罪ヲ以テ再犯加重ニ論シ殊更ニ附加刑再

犯加重ノ明文即チ刑法第五十六條ノ特別法アルニモ關セサルハ則チ擬律ノ錯誤ト認メ上告スト云フニアリ茲ニ大審院於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之レヲ審案スルニ上告旨趣ノ如ク監視規則違犯ニ係リ再犯ヲ以テ論スヘキモノハ刑法第五十六條ニ明示アル所ナルニ原裁判茲ニ出テス再犯加重ヲ以テ處斷シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナルヲ以テ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ原裁判言渡ノ全部ヲ破毀シ大審院於テ直チニ判決スル左ノ如シ

江 良 傳 三 郎

原裁判所カ認定シタル事實ニ據リ刑法第一百五十五條監視ニ付セラレタル者其規則ニ違背シタル時ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮ニ處ストアルニ依リ右範圍内ニ於テ一月十五日ノ重禁錮ニ處スルモノ也

第七百七十二號

○判文〔詐爲文書及詐欺取財〕明治十五年十二月廿一日上告
明治十六年十一月廿六日發付

大坂府東區今橋五丁目十四番地

居住平民材木商

廣野 九郎 右衛門

明治十五年十月
三十五歲三月月

詐欺取財被告事件ニ付明治十五年十月三十一日高知縣裁判所ニ於テ右被告人ノ所爲ハ故陸軍少尉矢野茂亡妻「エン」ニ賜ル可キ扶助料ヲ同人死亡即チ明治十二年六月二十三日以後

明治十四年七月迄本籍親戚ニ報知セサルニ因リ本籍ニ於テハ仍ホ生存中ト心得生存証書ヲ作り高知縣廳ヨリ該扶助料ヲ受領シ其半額ハ豫テ約定ノ如ク「エン」へ送致シ來リタルヲ追テ「エン」及ヒ茂ノ法會ヲ開カン爲メ詐欺取シ之ヲ其旦那寺へ預ケ置タル者ト認定シ所犯新法施行以前ニ在ルヲ以テ刑法第三條末項及ヒ明治十四年第八十一號布告ニ從ヒ新舊ノ法ヲ比照シ新法ノ輕ニ從ヒ刑法第三百九十條ニ依リ重禁錮二月ニ處スト言渡セリ

被告廣野九郎右衛門ハ該裁判ニ對シ上告ヲ爲シタリ其趣旨ハ故陸軍少尉矢野茂カ遺妻當時被告人カ同居人矢野「エン」ニ賜ル可キ扶助料ハ恩給令ニ依ル可キ當然ナリト雖モ被告人ハ日夜商業ニ從事シ各地ニ徘徊シ家ニ在ルヲ稀ニシテ實ハ恩給令ノ何タルヲ知ラス故ニ委任權限ノ終身ナリシヤ又ハ年限アリシヤ意思ヲ注クニ違アラスシテ本籍親屬等カ請ヒニ任セ扶助料下賜ノ委任狀草稿ニ「エン」カ實印ヲ押捺シタル迄ナリ然ルニ裁判官ハ委任狀中終身委任シタルヲ以テ扶助料下賜ノ期限ハ「エン」カ終身中ナルハ素ヨリ承知ノトト推定シタルモ其推定ハ基礎ノ確タル者ニアラス況ヤ委任權限ノ終身云々ト恩給令ノ終身云々トハ其文字ハ同一ナルモ事物ノ間隔ハ甚タ遼遠ナルニ於テオヤ是レ情況ト証據ノ誤判ニ係ル者ナリ又「エン」カ死亡ハ實ニ明治十二年六月廿三日ニシテ所轄局長ニ届ケ公然葬儀ヲ行ヒタルナリ而シテ當時被告人ハ高知縣下ニ在テ被告人ノ親族坂上兵助ヨリ被告人及ヒ故矢野茂ノ親族へ宛タル報告書ノ全ク他ノ障害ニ因テ到達セス故ニ「エン」カ死亡ノ事ヲ知ラサルナリ況ヤ該金ハ法會ノ料ニ供シ自己カ不義ノ富ヲ得ント欲スル詐取心ナキニ於テオヤ以上ノ理由ニ因リ原裁判ハ推定ノ粗忽ニシテ然モ其理由ニ齟齬アル不法ノ裁判ナリト謂フニ在リ

對手人檢事補相澤市之丞カ答辨ノ要旨ハ上告人ハ恩給令ノ何タルヲ解セス又ハ「エン」カ死亡ノ報知ヲ得ス不義ノ富ヲ得ント謀リタル者ニアラサル旨ヲ辨解スレモ其欺罔シテ金圓ヲ得シコハ被告人ニ於テモ豫審廷ニテ明言シタル處ニシテ假令已レニ入レサルモ詐取ノ所爲タル明カナレハ上告ノ理由ナキ者ト信認スル旨ヲ開陳セリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ規則ヲ履行シ上告人カ差出シタル代言人吉永聰ノ辨論ヲ聽クニ上告ノ趣意ヲ敷衍シ且被告人ノ所爲ノ如キハ毫モ欺罔ノ意思アルニ非ス犯罪ノ組成セサル者ナレハ刑法第二條ニ從ヒ無罪ノ言渡ヲ爲スヘキヲ刑法第三百九十五條ヲ適用シタルハ擬律ノ錯誤ナリ又「エン」カ死亡ノ「コ」チ高知表ニ報道シタル「コ」ハ大坂高麗橋電信分局ノ受領証ニ依テ之ヲ証明スルニ足ル旨ヲ述ヘ其受領証ヲ提供シ到底無罪放免ノ言渡アラソ「コ」チ望ムトノ趣旨ヲ論究シ檢事林三介ハ被告人ノ上告ハ事實認定ノ當否ヲ論難スルニ止リ上告ノ理由不立旨ヲ辨明セリ依テ判決スルコト左ノ如シ

本件ハ恩給令ニ依リ故陸軍少尉矢野茂ノ寡婦「エン」ニ賜ル可キ扶助料ヲ「エン」カ死亡後即チ明治十二年六月廿三日ヨリ明治十四年七月ニ至ルノ久キ「エン」カ本籍高知縣親戚ヨリ豫テノ約定ニ因リ其半額ヲ送致シ來リタルチ「エン」カ寄留所即チ被告人「コ」於テ之ヲ默受シ會テ「エン」カ死亡ノ事ヲ本籍ニ報知セシテ詐テ金圓ヲ受領シタリトノ斷案ニ對シ被告人ニ於テ恩給令ノ何タルヲ知得セス又ハ「エン」カ死亡ノ事ハ被告人ノ留主中親族ヨリ被告人ノ所在及ヒ「エン」ノ本籍ナル高知表親戚ニ報知シタリ然ルニ其報知書ノ到着セサルハ他ノ障礙ニ原因シ被告人ニ於テ關知ス可キ「コ」ニアラスト云フヲ論據トシ原裁判ニ不服ヲ訴フルト

雖モ被告人ニ於テ「エン」ニ賜ル可キ扶助料ニシテ「エン」カ死亡後之ヲ默受ス可キ謂レナキノミナラス明治十五年六月二十六日大坂輕罪裁判所豫審廷ニ於テ被告人カ爲シタル訊問調書中ニ全ク心得違ニテ「エン」カ死亡ノ儀ヲ推包ミ置云々ト白狀セシ等ノ事實ニ因リ假令其受領シタル扶助料ヲ被告人自ラ之ヲ使用セサルモ其犯罪ノ組成ハ「エン」カ死亡ヲ報知セサル所爲ヲ以テ原裁判官カ詐爲ノ手段ナリト認メタル以上其事實ハ他ヨリ之ヲ動スニ由シナキモノトス到底上告ノ趣旨ハ原裁判官カ認定シタル事實ノ當否ヲ論難スルニ止リ治罪法第四百十條ノ規定ニ準據ス可キ原由ナキ者ト判定ス

以上辨明スル如クナルチ以テ本件上告ハ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ之ヲ棄却スル者也

第七百七十三號

○判文(詐欺取財) 明治十六年二月一日上告
同 年十一月廿六日發付

茨城縣常陸國那珂郡額田村平民
農業朝日屋平四郎事

前 澤 巳 之 助

詐欺取財被告事件ニ付明治十五年十一月一日水戸輕罪裁判所會議局カ刑法第三條ニ從ヒ舊法賊盜律竊盜條例凡客廬倉戶工人云々ト新法第三百九十五條トニ比照シ處斷スヘキモノト認メ公判ニ移スノ言渡ニ對シ檢事補立花敏ハ上告セリ其要領ハ巳之助カ被告事實タル新法ニアリテハ刑法第三百九十五條ニ該ルモノナリトセシハ允當ナルモ舊法賊盜律竊盜條例凡

客塵倉戸工人云々トアルヲ適用セシハ不當ナリトス何トナレハ寄托ノ物品ヲ消費シタルモ
ノニテ竊盜ニアラス且新舊法ノ性質相違セシモノヲ以テ比照スルノ理アラサレハナリ因テ
破毀ヲ求ムト云フニアリ

對手人前澤巳之助ハ之ニ答辨セス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
賊盜律竊盜條例凡客塵倉戸及ヒ工人舟子脚夫馬丁車力等其寄托ヲ受ル所ノ財物ヲ盜ム者ハ
並ニ竊盜ヲ以テ論シ一等ヲ加ヘ罪懲役終身ニ止ルトアリテ其職業上ニ因リ寄託ヲ受ケタル
物品ヲ消費セシモノヲ罰スル法文ニテ雜犯律費用受寄財產條ノ如キ尋常ノ預リ物品ヲ消費
セシモノヲ罰スル法文ト其精神ヲ異ニスル顯著ナレハ本案巳之助カ被告事實ハ自己ノ職業
ニ因リ他人ノ蚊帳ヲ色揚セント請負ヒ之ヲ典物トナシタルニアリテ即チ前ニ掲ケタル竊盜
條例ニ適當スヘキモノナリトス而シテ新舊法ノ性質相違セシモノヲ比照スヘキ理ナキト云
フモ新法第三百九十五條ハ竊盜條例及ヒ費用受寄財產條ヲ併セテ包含セシ法律ナレハ刑法
第三百九十五條ト竊盜條例トハ決テ其性質ヲ異ニシタルモノニアラサルナリ因テ上告ノ趣
旨總テ効ナキモノトス
右ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スル者也

第一千七百七十四號

○判文(誹毀) 明治十五年十二月廿八日上告
明治十六年十一月廿七日發付

新潟縣越後國古志郡長岡殿町

平民文平弟長岡日報假編輯長

野

口保治

明治十五年九月

十年十一月

誹毀被告事件ニ付明治十五年十月六日長岡輕罪裁判所ニ於テ被告ニ於テハ編輯ノ事ニ與ラ
サルヲ以無罪ト言渡タル裁判ニ對シ檢事補中原正夫ハ之ヲ不當ナリトシ上告セル要領ハ野
口保治ハ長岡日報ノ假編輯長ナルハ各証憑ニ據テ明瞭ナルニ拘ハラズ原裁判官ニ於テ其名
義ヲ取捨シ之ヲ假編輯長ニ非スト判定セシハ治罪法第四百十條第十一項ニ舉ル越權ノ處分
ニ係リ從テ無罪ト爲シタルハ擬律錯誤ナリト云フニ在リ

對手人野口保治ハ答辨セス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ以判決スル左ノ如シ

原檢事ノ上告ニ依リ訴訟書類ヲ查スルニ野口保治ナル者ハ長岡日報ノ假編輯長ニ相違非ス
シテ固ヨリ編輯ノ事ニ干預セサルハ無キニ原裁判所ハ編輯ノ事ニ與ラストシテ無罪ヲ言渡
シタルヲ以保治ノ年齢ハ十年十一月ニシテ所謂十二歲未滿ノ者ニ付其罪ヲ論セサルハ勿
論ナルモ其懲治檻ニ入ルヘキヤ否ノ点ニ於テ判決ノ及ハサル等總テ不當ノ裁判ニシテ治罪
法第四百十條第十一項ニ掲ケル越權ノ處分タルヲ免カレサルニ付治罪法第四百二十八條ニ
從ヒ之ヲ破毀シ長野輕罪裁判所ニ移スモノ也

第一千七百七十五號

○判文(賭場開張) 明治十六年二月二日上告
全 年十一月廿七日發付

大坂府北區堂島船大工町五十一番地平民酒駄賣商

守口彌三郎

明治十五年十一月

五十四年三月生

賭場開張被告事件ニ付明治十五年十一月二十日大坂輕罪裁判所カ刑法第二百六十一條ニ依リ三月ノ重禁錮ニ處シ二十圓ノ罰金ヲ附加スト言渡タル裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ治罪法第二百七十六條ニ訴テ受ケサル事件ニ付裁判ヲ爲スヘカラストアリ然ルニ被告彌三郎ノ博奕事件ハ檢察官ノ起訴ニ係ラサルモノナルニ附帶ノ事件ナリトシ刑ヲ言渡サレタルハ不當ナリト云ヒ又假リニ原裁判ヲ不當ニアラストスルモ共犯人共ニハ二月ノ重禁錮十圓ノ罰金ヲ言渡シ被告ニ對シテハ三月ノ重禁錮二十圓ノ罰金ヲ言渡サレタルハ其公平ヲ失シ裁判官ノ職權ヲ濫用シタル處分ナルニ因リ破毀ヲ求ムト云フニ在リ

對手人檢事補須賀忠貞ハ上告趣旨ノ不當ナルヲ辨駁シ原裁判允當ナリト答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ノ理由トスル處訴テ受ケサル事件ニ付裁判ヲ爲シタリト云ヒ且假リニ刑ヲ言渡サルヘキモノナリトスルモ共犯人ト刑ノ權衡ヲ異ニシタルモノニテ裁判官ノ職權ヲ濫用セシニアリト云フト雖モ治罪法第二百七十六條ニ裁判所ニ於テハ訴テ受ケサル事件ニ付裁判ヲ爲スヘカラスト但辨論ニ因リ發見シタル附帶ノ事件及ヒ公廷内ノ犯罪ニ付テハ此限ニアラストアリテ本案ハ賭場開帳ノ公訴ニ係リ辨論中附帶ノ事件ナリト認メ裁判ヲ與ヘタルモノニテ聊

法律ニ違ヒタルモノニアラサルナリ而シテ其刑期ノ最上最下ハ犯人ノ情狀ニ因リ事實裁判所ノ見ル處ニ任從セシモノナレハ共犯人ト同一ノ刑期ニ出テサルモ敢テ不法ナリト云フヲ得ス因テ上告ノ趣意相立タサルモノトス

右ノ如ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スル者也

第一千七百七十六號

○判文(竊盜)明治十五年十二月廿六日上告
同 十六年十一月廿七日發付

岡山縣備前國岡山區門田屋敷士族

松原軍夫

明治十五年十月
五十歲七月生

同所士族

大森清次郎

明治十五年十月
二十九歲一月生

明治十五年十月二十六日岡山輕罪裁判所ニ於テ右松原軍夫大森清次郎カ竊盜被告事件ヲ審判シ其所爲ハ刑法第三百六十六條同第三百七十六條ニ依リ仍ホ原諒スヘキ情狀アルヲ以テ刑法第八十九條同第九十條ニ依リ本刑ニ二等ヲ減シ各一月七日ノ重禁錮ニ處シ六月ノ監視ニ付シ贓品ハ取揚ケ被害者ニ還付スル旨ヲ宣告セリ軍夫清次郎ハ右ノ裁判ニ服セス上告ヲ爲シタリ其要旨軍夫ハ土俗ノ習慣ニ因リ信仰上ヨリ該木像等ヲ取出シタル所業ニシテ決シ

テ盜意ニアラス清次郎ハ止タ軍夫ノ依頼ニ應シ其運搬ヲ助ケタル迄ニシテ毫モ其事情ノ何
タルヲ知ラサレハ何レモ刑ニ問ハルヘキモノニアラスト云フニアリ依テ治罪法第四百二十
五條ノ規則ニ從ヒ立會檢事池上三郎ノ意見ヲ聽キ之レヲ判決スル左ノ如シ
被告軍夫等ノ所爲タル假令土俗ノ習慣ニ因リ信仰上ノ迷誤ニ起因シタルモノトスルモ其他
人ノ所有ニ屬スル物件ヲ竊取シタルハ其行爲ニ於テ竊盜犯タルハ固ヨリ免レサルモノトス
況ンヤ既ニ事實裁判官ニ於テ職權上其竊盜ノ事實アル者ト判定シタル以上ナレハ此事實判
定ニ對シ徒ラニ非難スルモ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得サルモノトス又清次郎ハ其事情ノ如
何ヲ知ラス唯タ軍夫カ依頼ニ應シ運搬シタル迄ナリト申立レヒ是亦原裁判官ニ於テ其竊盜
共犯ノ事實アリトノ斷定上ニ對シ非難スルニ止マルヲ以テ右申立モ相立サルモノトス
右ノ理由ナルニ因リ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本件上告ヲ棄却スル者也

第七百七十七號

○判文(印稅犯則) 明治十五年十二月廿六日上告
十六年十一月廿七日發付

新潟縣越後國三島郡與板町平民

金具師

藤田權四郎

明治十五年十月

同縣同國同郡同町平民小間物商

種田金治

明治十五年十月

同縣同國同郡同町平民舟乘業

阪口歌吉

明治十五年十月

明治十五年十月十三日長岡輕罪裁判所ニ於テ右藤田權四郎外二名カ被告事件ヲ審判シ金額
九千二百四十圓ノ證書ニ印紙ヲ貼用セシテ人ニ渡シ及ヒ金二百圓ノ無印紙證書ニ證人ニ
立チタル罪アリトシ其無印紙ノ證書ヲ渡シタルハ證券印稅規則第四則第二條ニ照シ各脫稅
高ノ二十倍百八十四圓八十錢ノ罰金ニ處シ無印紙ノ證書ニ證人ニ立チタルハ同第九條ニ照
シ各罰金二圓ニ處スヘキモノナルモ原諱スヘキ情狀アルヲ以テ刑法第八十九條第九十條ニ
從ヒ本刑ニ二等ニ減シ各九十二圓四十錢ノ罰金一圓ノ科料ニ處スト言渡シタル裁判ニ服セ
ス被告人三名ハ上告ヲ爲シタル其旨趣第一本件證書ハ當初印紙ヲ貼用セシテ授受セシモ
爾後之ヲ貼用セリ特ニ消印セサルノミナレハ稅則第四則第二條ニ依リ處斷セラレヘキモノ
ニ非ス第二被告人等ハ犯罪發覺前官ニ自首シタルヲ以テ新舊ノ法ヲ比照シ減免ヲ與ヘラル
ヘキモノナリ第三罰金ヲ各自ニ科セラレタルモ右ハ先年白河縣伺指令ニ基キ各共犯人ニ分
割シテ科スヘキモノナリ依テ原裁判ヲ破毀セラレシコトヲ請求スト云フニ在リ大審院ニ於テ
治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ判決ヲ爲スノ左ノ如シ
證券印稅規則違犯ノ罪ハ證書ヲ授與シ之ヲ受取ルノ際ニ成立タルモノニシテ既ニ無印紙ノ
證書ヲ授受シタル上ハ假令後日印紙ヲ貼用スルモ之ヲ以テ犯則ノ罪ヲ免カル、コトヲ得ス又

被告人ノ官ニ自首シタルハ明治十五年九月二十五日ニ在ルモ其前八月五日ニ於テ既ニ他ヨリ告發セラレタルモノナレハ固ヨリ未發自首ト謂フコト得サルナリ而シテ數人共犯ノ處分ハ刑法第四百條ニ二人以上現ニ罪ヲ犯シタル者ハ皆正犯ト爲シ各自ニ其刑ヲ科ストノ明文アルヲ以テ罰金ヲ分割シテ各共犯人ニ科スヘキモノニ非ス故ニ原裁判所ニ於テ被告人等ニ言渡シタル裁判ハ不當ノ廉アルニ非スシテ上告ノ旨趣總テ相立サルモノトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ本件上告ヲ棄却スルモノナリ

○判文(詐欺取財) 明治十五年十二月十九日上告 同 十六年十一月廿七日發付

埼玉縣武藏國秩父郡野卷村平民

富田ナベ實兄無職業

富田漢四郎

明治十五年十月 三十六歲

明治十五年十月三日大宮治安裁判所ニ開ク熊谷輕罪裁判所ニ於テ右富田漢四郎カ詐欺取財ノ被告事件ヲ審理シ所犯新法實施以前ニ在テ以テ新舊ノ法ヲ比照シ賊盜律詐欺取財條ニ依リ而テ被告ハ詐欺取財ノ罪一次先ニ發シ已ニ論決ヲ經テ贓ヲ盡サ、ル者トシ改定律例第七十三條ニ從ヒ後發ノ贓ヲ以テ前發ノ贓貳百圓餘ニ通算スレハ三百圓以上懲役十年前刑ハ情法酌量ニテ二等ヲ減シ懲役五年ノ收贖金十五圓ニ決シタリト雖モ本罪ハ別ニ情法酌量ノ廢ナキヲ以テ改定律例第七十三條後項ニ依リ後發ノ贓金七十圓餘ノ全罪懲役二年旨目ナルヲ

以テ同第四十六條ニ照シ收贖金六圓ニ處ストノ言渡ヲ爲シタリ

被告漢四郎ハ右ノ裁判ヲ不法トシ上告ヲ爲シタルノ要旨ハ被告ハ先キニ明治十五年三月二十日詐欺取財ノ罪ニ依リ懲役十年ヨリ二等ヲ減シ懲役五年ノ收贖金十五圓ニ處セラレタリ而テ本案ノ罪ハ前罪ニ比フルニ寛ニ輕キモノナレハ刑法第二百二條ノ明文ニ依リ免罪ノ裁判ヲ受シヘキニ改定律例第七十三條後項ニ依リ尙ホ加フヘキモノアリトシ後發ノ刑ヲ科シタルハ不當ナリト謂フニ在リ

茲ニ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ被告ハ詐欺取財贓金二百圓余ノ罪ニ因リ前ニ懲役十年ヨリ情法酌量ニテ二等ヲ減シ懲役五年ノ收贖金十五圓ニ處セラレシ後チ仍ホ詐欺取財ノ不盡贓七十圓ノ罪發覺シタル者ニシテ該後發罪ハ情法酌量ノ廉之ナキ者トハ原裁判官カ認視シタル所ノ事實ナリトス依テ之ヲ法律ニ照スニ其所犯新法實施以前ニ在ルヲ以テ刑法第三條第二項及ヒ明治十四年第八十一号布告ニ依リ新舊法ヲ比照スルニ舊法ニ於テハ改定律例第七十三條ニ依リ後發ノ贓七十圓ヲ以テ前發ノ贓二百圓余ニ併スレハ三百圓以上トナルモ詐欺取財ノ罪ハ懲役十年ニ止マルヲ以テ即チ前發ノ本罪加フヘキナケレハ後發ノ罪ハ之ヲ論スルノ限ニ非ス新法ニ於テハ不盡贓ノ罪ヲ罰スルノ正條アルヲ見ス依テ新法ニ從ヒ刑法第二條ヲ適用シ無罪ト爲スヘキ者ナリトス然ルチ原裁判官ニ出テスシテ後發ノ罪ヲ論シ收贖金六圓ニ處シタルハ擬律ヲ錯誤シタル不法ノ裁判ナリトス依テ之ヲ破毀シ治罪法第四百二十九條ノ規則ニ從ヒ大審院ニ於テ直ニ判決ヲ與フル左ノ如シ

富田漢四郎

右ノ理由ナルヲ以テ刑法第二條ニ依リ無罪タル者也

第七百七十九號

○判文(証券印稅犯則)明治十五年十二月廿七日上告
明治十六年十一月廿七日發付

函館縣函館區東濱町四十九番地
寄留東京芝區櫻田善右衛門町一
番地平民

上原庄左衛門

明治十五年十一月
二十八年

証券印稅規則違犯事件ニ付函館輕罪裁判所ニ於テ右被告人ニ對シ明治七年第八十一號公布
証券印稅規則改正第七條ニ照シ減稅高十倍ノ科料金十錢ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ同
所檢事補須賀芳則ハ之ヲ不當ナリトシ上告セリ其要領ハ金高十五圓以上二十圓以下ノ定價
ニテ賣渡ス云々トアル證書ヲ印稅不貼ノ儘受取リ置キ事發覺以前一錢ノ印紙ヲ貼用シタル
モノナレハ証券印稅規則第四則第二條ニ依リ脫稅高ノ十倍ヲ科スヘキモノナルモ未發自首
スルヲ以テ本刑ニ一等ヲ減スヘキモノトス然ルニ原裁判所カ該規則第四則第七條改正ニ依
リ處斷シタルハ不當ナリト云フニ在リ

對手人上原庄左衛門ハ答辨セス

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聞キ以テ判決スル左ノ如シ

本案庄左衛門カ被告事實ハ金一圓九十五錢以下ノ科料ニ該ルヘキモノニテ即チ刑法第九條

ニ定メタル違警罪ノ範圍内ナリトス而シテ明治十四年第四十四号布告ニ違警罪ノ審判ニ關
スル一切手續ハ云々當分ノ内便宜取計ヒ其裁判言渡ニ付テハ總テ上訴ヲ許サストアレハ本
案上告ハ成立サルモノトス因テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スル者也
第七百八十號

○判文(囚徒逃走及竊盜)明治十六年十二月十五日上告
明治十六年十一月廿七日發付

岩手縣陸中國岩手郡仁王村平民
時計職

横濱 賴俊

明治十五年十二月
二十五年十月

囚徒逃走及ヒ竊盜被告事件ニ付明治十五年十二月六日函館輕罪裁判所カ數罪俱發ニ係ルヲ
以テ刑法第百條ニ照シ一ツノ同第三百六十六條同第三百六十九條同第三百七十六條ニ從ヒ
三年三月十日ノ重禁錮ニ處シ一年六月ノ監視ニ付スト言渡タル裁判ニ服セス上告セリ其要
領ハ刑法第三百六十九條ニ該ル罪ハ全ク虛構ノ申立ナリト云ヒ又自首シタルニ減輕ヲ與ヘ
ラレカリシト云ヒ又後發ノ刑ハ前發ノ刑ヨリ情狀最モ輕シ故ニ更ニ論スヘキモノニアラサ
ルニ原裁判ノ玆ニ出テサルハ不法ナリト云フニアリ

對手人檢事補須賀芳則ハ上告趣旨ノ不當ナルヲ辨駁シ原裁判毫モ不當ニアラヌト答辨セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ノ理由トスル處刑法第三百六十六條同第三百六十九條ニ該ル罪ハ一時ノ虛構ヲ申立タ

リト云ヒ又後發ノ刑ハ前發ノ刑ヨリ輕キ以テ更ニ論スヘキモノニアラスト云フニアリト雖モ各種ノ証憑ヲ取捨シ其事實ヲ認ムルハ原裁判所ノ職權タル治罪法第四十六條ニ被告人ノ自狀官吏ノ檢証調書証據物件証人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアルヲ以テ明瞭ナリ而シテ刑法第百條末項ニ輕罪ノ刑ハ其所犯情狀最重キ者ニ從テ處斷ストアリテ其情狀輕重ヲ判斷スル事實裁判所ノ權内タレハ是亦上告ノ原因ト爲スニ足ラス其他自首シタリト云フモ訴訟書類中自首セシヲ見ルヘキ証憑アルコトナシ因テ上告ノ趣旨總テ相立タス

右ノ如クナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スル者也

第一千七百八十壹號

○判文(誹毀) 明治十六年二月五日上告
全 年十一月廿七日發付

熊本縣肥後國飽田郡横手村士族

熊本新聞假編輯長

箕田十三郎

明治十五年十一月十九年二月

誹毀被告事件ニ付明治十五年十一月六日熊本輕罪裁判所カ惡事醜行ヲ摘發公布セシモノニアラストシ無罪且附帶私訴ニ付民事原告人中島周賢ノ要償ハ相立スト言渡タル裁判ニ對シ檢事補世古祐次郎民事原告人中島周賢ハ上告セリ檢事補世古祐次郎カ論告スル要領ハ熊本新聞雜報欄内ニ(當時潛社會ニテ有名ナル中島周賢ヲ頼ミ云々)(代人ノ慣習トシテ此詞訟

ニ負ケル理由ナシ云々)ト二葉ノ紙上ニ掲ケタル潛社會ノ語ハ世人皆解シテ善カラヌ事ヲ竊ニ爲ス者ノ仲間ト云フノ意味合ニテ中島周賢ヲ誹毀シタルモノタル明瞭ナルニ原裁判所ハ字句ノ解釋ヲ誤リ誹毀セシ語ニアラスト認メ無罪ト裁判言渡タルハ不法ナリト云フニアリ民事原告人中島周賢ハ定期内上告趣旨書ヲ差出サス
對手人箕田十三郎ハ上告趣意ノ不當ナルヲ辨論シ原裁判ヲ以テ至當ナリトシ甘受シタリト答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ

上告ノ理由トスル處原裁判所ハ新聞紙上ノ數語ヲ誤解シ誹毀ニ涉ルモノニアラストシ無罪ト言渡タルハ不法ナリト云ニアリト雖モ其誹毀ナリト云フ語句ハ當時潛社會ニテ有名ナル中島周賢云々又代人ノ慣習トシテ此詞訟ニ負ケル理由ナシ云々又控訴ノ代人ハ未ダ歸ラズ長崎ニ滯リ都合宜シ不日判決ノ上目出度渡海スルヲ待テ云々アルヲ主眼ト爲シタルモノニテ直ニ以テ誹毀ノ一編章ナリトモ云ヒ難ク其潛社會ノ文字ノ如キハ聊カ嫌ヒナキテ保シ難キモ箇是普通ノ語ニアラスト所謂僂諺ナレハ果シテ誹毀ニ涉ルヘキヤ否ヤハ事實裁判所ノ判定ニ一任セシ部内ニテ輒ク之ヲ左右セントノ上告趣意ハ其効ナキモノトス其他民事原告人ハ上告趣意書ヲ差出サ、レハ其上告ハ成立タス

右ノ如ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ檢事補世古祐次郎カ上告ヲ棄却シ民事原告人中島周賢カ上告ハ直ニ之ヲ棄却スル者也

第一千七百八十二號

○判文(毆打創傷) 明治十五年十二月十九日上告
十六年十一月廿七日發付

佐賀縣肥前國杵嶋郡大町村平民

當今高木河内坑山縁人

松尾源次郎

明治十五年九月

三十二年

毆打創傷被告事件ニ付明治十五年九月十一日佐賀縣裁判所カ刑法第三百十四條ニ依リ正當防衛ニ出テタルモノトシ其罪ヲ論セスト言渡シタル裁判ニ對シ檢事補大谷巖夫ハ上告セリ其要領ハ被告源次郎カ井上淺吉ニ傷ヲ負ハセタルハ正當防衛ニアラス自己ノ所爲ニ基因スルモノニテ尋常ノ闘毆ナルニ原裁判所ハ刑法第三百十四條ヲ適用シ加フルニ其傍ラニ在シ中山孫太郎ニ誤傷セシハ源次郎カ疎忽ニ出テタルモノナレハ刑法第三百四條ニ當該スヘキニ之モ亦正當防衛ト認メ其罪ヲ問ハサルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニアリ

對手人松尾源次郎ハ之ニ答辨セス
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽クニ本案上告ノ當否ハ暫ク措キ別ニ裁判不當ト認ムヘキ廉アルヲ以テ附帶上告スト其要點ニ曰原裁判言渡ニ中山孫太郎ニ傷負ハセ云々トアリテ其認定セシ事實ハ過失ニ出テタルモノ、如ク殊ニ分明ナラサルノミナラス其所爲ニ對スル法律ノ適條ヲ示サ、ルハ即チ治罪法第四百十條第九第十一ノ場合ニ適當スル破毀ノ原由アルモノト思考ストノヲ因テ之ヲ審按スルニ
附帶上告ノ趣旨ニ付原裁判言渡ヲ見ルニ(明治十五年八月十六日途中於テ井上淺吉ト兩度

飲酒ノ後同人方於テ茶碗ヲ投付ケ傷負ハセタル際遂ニ其茶碗中山孫太郎ニ當リ是亦負傷セシメタル云々)トアリテ果シテ其孫太郎ヲ負傷セシメタルハ被告源次郎カ誤傷ニ係ルヤ否ヤノ事實理由ヲ明示セス加ルニ之ニ適スル法律ヲ掲ケサルハ治罪法第四百十條第九項第一項ニ該ル上告ノ原因アルモノト判定ス以上既ニ全部ニ付破毀ノ原因アルヲ以テ原檢察官ノ上告趣意ニ對シ別ニ辨明ヲ與ヘス
右ノ如ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ニ依リ原裁判ノ全部ヲ破毀シ適法ノ裁判ヲ受ケシメシメ爲メ福岡輕罪裁判所ヘ移ス者也

第千七百八十三號

○判文(証書偽造) 明治十五年十二月十四日上告
十六年十一月廿七日發付

新潟縣越後國中頸城郡市野江村

平民農業

小日向與一郎

明治十五年九月

五十五歲

明治十五年九月二十九日高田輕罪裁判所ニ於テ右與一郎カ証書偽造被告事件ヲ審理シ刑法第二百十條第二百十二條ニ照シ重禁錮十月ニ處シ罰金四十圓ヲ附加シ一年ノ監視ニ付シタル裁判ニ對シ與一郎上告セリ其要旨ハ凡ソ民事上契約ヲ取結ヒシ後ニ至リ其誤約ニシテ道理ニ適セサルコトナシトセス然ルニ原裁判言渡ニ被告ト五十嵐七十郎トノ間ニ本件田地ノ賣買ヲ結約スル道理ナシト云フヲ以テ証書ヲ偽造セシ者ト確認セラレ且該田地ヲ五十嵐清

三百二十九

藏ヨリ被告へ賣渡約定証書ヲ差入ルヘキ道理ナシトセラレタルハ皆理由ノ齟齬ナリ又本案証書ノ用紙ハ少シク小形ナルモ用紙ノ大小ニヨリ眞偽ニ關スヘキモノニアラサルニ原裁判ハ是レヲ以テ偽造ナリト爲シ清藏ノ印影カ如何シテ被告ノ手ニ在リシヤノ理由ヲ付セス又五十嵐清藏山岸光徹ハ公判廷ニ於テ宣誓セサル者ナルニ之ヲ証人トセラレタルハ越權ナリ要スルニ被告ハ犯罪ノ証憑充分ナラサルモノニ付無罪ノ言渡アルヘキニ刑ヲ適施セラレタルハ擬律ノ錯誤ナリ假リニ原判定ノ如ク証書ヲ偽造セシモノトシテ論スルモ未ダ行使ノ目的ヲ達セサル前ニ於テ公訴ノ起リシモノニ付未遂犯ナリト云フニアリ

依テ本院檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
上告人ニ於テ原裁判言渡ハ理由ニ齟齬アリ擬律ニ錯誤アリト論告スレモ其指摘スル所ハ何シモ原裁判官カ職權内ニ屬シタル証憑ノ採擇事實ノ判定ニ對シ非難スルニ過キサレハ以上告ノ原由ト爲スヲ得ス又清藏光徹ハ既ニ豫審廷ニ於テ宣誓シタル証人ナルニ付公判廷ニ於テ重テ宣誓ヲ要スヘキニアラサレハ之ヲ以テ越權ト爲スヲ得ス又本件証書即チ原裁判官ニ於テ被告カ偽造セシト認メタル約定証書ハ被告ニ於テ現ニ之ヲ勸解廷ニ呈供シタルモノナレハ即チ既ニ行使シタル者ニシテ未遂犯ヲ以テ論スルノ限リニアラス以上ノ理由ニシテ上告ノ旨趣總テ相立サルニ因リ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ之レヲ棄却スルモノ也

第七百八十四號

○判文(賭博) 明治十六年二月廿二日上告
年十一月廿七日發付

福島縣磐城國檜葉郡金ヶ澤村

平民德左衛門長男農業

遠藤又五郎

明治十五年十月三十四年十月生

福島縣磐城國檜葉郡末續村平民

米穀仲買商

遠藤喜惣太

明治十五年十月四十一年十月生

賭房開張被告事件ニ付明治十五年十月四日平輕罪裁判所カ刑法第二百六十條ニ依リ九月ノ重禁錮ニ處シ九十圓ノ罰金ヲ附加スト言渡タル裁判ニ服セス各上告セリ其要領ハ賭房ヲ開張シ利ヲ圖リタルニアラス喜惣太ハ昨十四年舊十月中房屋ヲ給與シタルノモ現場捕獲ニアラサレハ罪ヲ問ハルヘキ筈ナシ然ルニ原裁判所ハ曖昧ナル証人ノ陳述ヲ深リ牽強附會ノ妄說ヲ信シ賭房開張シタルモノナリト斷了セラレタルハ採証法ヲ誤リタルヨリ事實ニ齟齬シ擬律錯誤ヲ來シタル不法ノ裁判ナリト云ヒ仍ホ又五郎ハ仙臺控訴裁判所ニ於テ受ケタル貸金終審ノ判決ヲ提出シ賭房開張ノ所業ナキヲ証スト云フニアリ
對手人檢事補上村則敏ハ上告ノ理ナキヲ辨明シ原裁判允當ナリト答辨セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
上告ノ理由トスル處採証法ヲ誤リタルヨリ事實ニ齟齬シ擬律錯誤ヲ來シタル不法ノ裁判ナリト云フニアリト雖モ原裁判言渡ヲ見ルニ前ニ賭房開帳ノ事實ヲ認メ之ニ適スル法律ヲ擬

ト云フト雖原裁判官ニ於テ現ニ罪ヲ犯シタルモノト認定シタル以上ハ輒ク其當否如何ニ論及スルヲ得サルハ勿論被告事件ノ事實ヲシテ果シテ被告陳供ノ如クナラシムルモ其所爲ハ則チ正犯ニシテ從犯ニアラサルナリ何トナレハ從犯トハ犯罪ノ着手以前豫備ノ所爲ヲ以テ其成就ヲ容易ナラシムルモノニシテ其執行中幫助ヲ爲スモノ、如キハ正犯ヲ以テ論セサルヲ得サレハナリ又被告米次郎ハ竊盜ヲ犯シタルノ之ナク唯タ盜贓タルノ情ヲ知ラスシテ之カ運搬ノ依頼ヲ受ケタルニ止ルモノナレハ罪ノ論スヘキナシト云フト雖モ原裁判所カ正當ノ證據ニ據リ認定シタル事實ヲ批難スルニ過キサレハ治罪法第四百十條ノ各項外ニ涉ルヲ以テ到底上告ノ原由ナキモノトス因テ被告兩名カ上告趣旨ハ總テ相立サルモノトス右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ基キ上告ヲ棄却スルモノ也

第一千七百八十六號

○判文(毆傷)明治十五年十二月十九日上告
明治十六年十一月廿七日發付

熊本縣山鹿郡上高橋村二百六十
八番地平民

新

開亭 作
明治十五年九月
二十八年三月

毆打創傷被告事件ニ付山鹿治安裁判所ニ開ク熊本輕罪裁判所ニ於テ刑法第三百一條第二項ニ照シ重禁錮一月十五日ニ處スト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ被告人新開亭作ハ上告セリ其要領ハ二個ノ点ニアリテ第一ハ招魂祭ノ日日夜外出セス故ニ喧嘩ノ模様モ心得サレハ

毆傷ヲ爲シタルコトナシ第二ハ証人古閑順平へ面會セハ一言以テ論破スヘキニ警察署及ヒ公判ノ節証人ト引合テセスシテ直ニ判決ヲ與ヘラレタルハ不服ナリト云ヘリ
對手人同所警部補伊藤藤庫太郎ハ上告ノ不理ナルヲ辨駁シテ原裁判相當ナリト答辨セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聞キ以テ判決スル左ノ如シ
上告ノ理由トスル其第一点該祭日日夜外出セサルヲ以テ喧嘩ノ模様モ知ラサレハ無論負傷セシメタル所爲アラスト云フト雖モ承審官カ正當ノ證據ニ依リ爲シタル認定ヲ批難スルニ過キサレハ上告ノ原由トナスヲ得ス其第二警察署及ヒ公判廷ニ於テ証人ニ引合テ爲サルヲ不服ト云ヘルモ證人對質ハ被告カ請求ノ有無ニ關セス之ヲ爲スト否トハ承審官ノ權内ニアレハ是又上告ノ原由トナスヲ得ス因テ上告趣旨ハ總テ相立サルモノトス
右ノ理由ナルニ依リ治罪法等四百二十七條ニ從ヒ上告ヲ棄却スル者ナリ
第一千七百八十七號

○判文(官印及ヒ官文書偽造)明治十五年十二月廿八日上告
明治十六年十一月廿七日發付

和歌山縣紀伊國名草郡日方浦川
端彌助方居住當今無籍平民無職
業

佐々木 千春 雄

明治十五年九月

二十九年八月

明治十五年九月十四日和歌山輕罪裁判所會議局ニ於テ右佐々木千春雄カ豫審終結ノ言渡ニ

對スル故障申立ヲ判決シ豫審判事カ被告人ハ官印及ヒ官文書偽造ノ罪アリトシ刑法第九十五條ヲ適用スヘキ重罪ナリト言渡シタルモ被告人ハ詐欺取財ノ目的ニ出テ官文書ヲ偽造行使シタル者ニシテ其印影ハ之ヲ摸擬シタルモ止マリ之ヲ偽造シタリト認メ難キニ因リ刑法第二百三條ヲ適用スヘキ重罪ナリトス依テ豫審終結ノ言渡ニ於テ指示シタル法律ハ不適當ナルヲ以テ之ヲ取消シ而シテ重罪裁判所ニ移スノ言渡ハ豫審ノ言渡ノ如ク之ヲ改ム可カラサルモノナリト言渡シタリ

被告人千春雄ハ右ノ判決ニ服セス上告ヲ爲シ趣意書及ヒ追伸書等ヲ差出シ事實ヲ陳辨シタリ其要旨ハ被告人カ摸倣シテ他人ニ示シタル山林下附願書ノ指令文ノ如キハ免狀ト一般ニシテ官ノ文書ト爲スヘキモノニ非ラス之ヲ偽造スルモ刑法第二百三條ニ該ル輕罪ナリ而シテ之ヲ行使セント欲シタルノミナレハ同第一百十一條第一百十二條ニ依ルヘキモノナルニ原會議局ハ刑法第二百三條ヲ適用スヘキ重罪ナリトシ輕罪裁判所ノ管轄ニ屬スヘキ重罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲シ且未タ行使セサルヲ行使セリト爲シタルハ治罪法第四百十條第三項第九項ニ適當スル不法ノ判決ナリ又被告人ハ山林局ノ免狀ヲ漫書セシモ山林局長官ノ氏名捺印アルニ非ラス其體裁具備セサルモノナレハ偽造ノ所爲ト認ムルヲ得ス即チ刑法第二條ニ依リ無罪ノ言渡ヲ受クヘキモノナリト云フニ在リ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ判決ヲ爲ス左ノ如シ

原裁判所會議局ノ言渡書ヲ檢閱スルニ被告人ノ所爲ニ對シ官文書ヲ偽造行使シテ人ヲ欺罔シ財物ヲ騙取セントシタル犯罪アリト判定シ其實事ノ理由ヲ明示シ及ヒ其犯罪ニ適用スヘキ相當ノ法律ヲ明示シテ重罪裁判所ニ移スノ言渡ヲ爲シタルモノナレハ毫モ法律ニ違背スルノ點アルニ非ラス然ルニ被告人ハ其文書ノ性質行使ノ方法等ニ附キ反覆論告スト雖モ徒ニ事實判定上ニ對シ其當否ヲ陳辨シ不服ヲ訴アルノ趣旨ニ過キスシテ治罪法第四百十條ノ各項ニ定メタル場合ニ適當セサルヲ以テ上告ノ理由ナキモノトス依テ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ本件上告ヲ棄却スルモノナリ

第七百八十八號

○判文(証券印稅犯則)明治十五年十二月廿二日上告
十六年十一月廿七日發付

札幌縣石狩國札幌區平岸村十三番地平民

壹

岐由藏
明治十五年九月
四十二年

明治十五年九月五日札幌輕罪裁判所ニ於テ右壹岐由藏ハ金高十一圓記載アル借用証書ヲ無印紙ノ儘木村柔祐ヘ差入レ又該証書ヲ爲替ニ爲ス際其爲替証書ヘ一錢印紙ヲ貼用スルモ摺印ノ儘ニテ水戸與七郎ヘ差入レタル者ト爲シ証券印稅規則第四則第二條ニ依リ科料金二十錢ニ處ス可キ處滿六月ヲ經發覺スルヲ以テ免訴ヲ言渡ストノ裁判ヲ爲シタリ
札幌輕罪裁判所檢事補近藤昂藏ハ該裁判ニ對シ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告人壹岐由藏カ木村柔祐ヘ無印紙ノ証書ヲ差入レタル所爲ハ繼續犯罪ニ準シ處分スヘキ者ナルニ原裁判所カ期滿免除ヲ得セシメタルハ擬律ニ錯誤アル不法ノ裁判ナリト謂フニ在リ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告書ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルコト左ノ如シ
 明治十四年第四十四號布告ニ違警罪ノ審判ニ關スル一切ノ手續ハ治罪法ニ從フヘシト雖モ
 實際已ムヲ得サル場合ニ於テハ當分ノ内便宜取計ヒ其裁判言渡ニ付テハ經テ上告ヲ許サス
 トアリテ諸規則中ノ罰例ニ依リ處斷スルモノト雖モ拘留科料ノ範圍内ニ在テ違警罪ノ刑ニ
 止マルモノハ上告ヲ爲スコト得ルノ限ニ在ラス本案被告事件ハ証券印稅規則第四則第二條
 ニ依リ科料金二十錢ニ處スヘキ繼續犯罪ニシテ期滿免除ヲ經タル者ニ非スト雖モ其科料ハ
 違警罪ノ部内ニ屬スルモノナレハ右布告ニ從ヒ其處斷ニ對シテハ上告ヲ許サ、ルモノトス
 依テ本件上告ハ之ヲ棄却スル者也

第七百八十九號

○判文(竊盜) 明治十五年十二月廿五日上告
 同 十六年十一月廿七日發付

京都府上京區第二十二組榎屋町
 士族當時同府下京區第七組三吉
 町寄留無職業

眞

野 蟻 洞
 明治十五年九月
 四十二歲九ヶ月

竊盜犯罪被告事件ニ付明治十五年九月十二日京都輕罪裁判所ニ於テ右被告蟻洞カ所爲ハ松
 永昌言所持ノ懷中時計ヲ竊取シタル者ト判定シ刑法第三百六十六條同第三百七十六條ニ照
 重禁錮三月監視六月ノ刑ヲ言渡セリ

被告眞野蟻洞ハ該裁判ニ對シ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告人カ中村「マツ」ハ貸與ヘタル時
 計ハ森偵次郎ヨリ抵當ニ取リタル品ニシテ決シテ竊取シタル者ニアラス然ルチ原裁判官ニ
 於テ松永昌言カ前後不合ノ告訴森偵次郎カ前供ヲ翻異シタル不正ノ証言ニ依リ處斷シタル
 ハ不當ノ裁判ニ付破毀ヲ求ムト云フニ在リ
 對手人檢事補小室確彌カ答辨ノ要旨ハ被告人カ森偵次郎ヨリ抵當ニ取リタル時計ハ松永昌
 言カ竊取セラレタル時計トハ現ニ相違アルコト各証人ノ陳述ニ因テ明晰ナレハ裁判官カ竊盜
 犯ト判定シタルハ相當ナル旨ヲ開陳セリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ規則ヲ履行シ檢事池上三郎ノ意見ヲ聽クニ本案ハ事
 實判定上ニ對シ論辨スル者ニシテ上告ノ原由ト爲スニ足ラサル旨ヲ辨明セリ仍テ判決スル
 コト左ノ如シ

上告ノ論旨ハ單ニ竊盜ヲ爲シタルコトナキ旨ヲ陳辨シテ原裁判ヲ非難スト雖モ原裁判所ニ於
 テハ各証人ノ陳述及ヒ證據物品ニ依リ竊盜ノ所爲アル者ト認定シ相當ノ刑ヲ言渡シタル者
 ナレハ毫モ不當ノ廉アルコト無シ要スルニ被告人ノ上告ハ原裁判官カ職權内ナル事實ノ判定
 上ニ對シ不服ヲ訴フルニ止ル者ニシテ治罪法第四百十條ノ各項ニ定メタル上告ノ原由ナキ
 者トス

右ノ理由ナルニ依リ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ本件上告ハ棄却スル者也

第七百九十號

○判文(竊盜) 明治十五年十二月十九日上告
 明治十六年十一月廿七日發付

德島縣阿波國麻植郡木屋平村平

民當今懲役人

三 山 大 藏

明治十五年十一月

二十六歲

明治十五年十一月七日德島輕罪裁判所ニ於テ右大藏ノ被告事件ヲ審判シ明治十年五月十八日ニ處斷セラレタル懲役十年ノ刑期中明治十四年十一月十四日外役先ヨリ逃走シタルト所有主知レサル畑ニ猪威ニ用ヒアル古衣ヲ竊取シタル賍金四錢ト獄衣ヲ川ヘ投棄セシ賍金貳拾錢ト以上數罪ニ對シ新舊ノ法ヲ比照シ舊法ヲ輕トシ一ノ重キ逃走ノ罪ヲ以テ改定律例第三百一條ニ從ヒ棒鎖二日ノ上原犯ノ年限ニ照シ新ニ拘役シ且獄衣ヲ投棄セシ罪ヲ以テ戸婚律棄毀器物稼穡條ニ依リ懲役六十日ヲ全加セリ同裁判所檢事補印南富彦ハ右裁判ヲ不當ナリトシ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ本案被告ノ所爲之ヲ舊法ニ照セハ原裁判ノ如クナリト雖新法ニ照セハ逃走罪ハ刑法第四百二十二條盜罪ハ第三百六十六條器物棄毀罪ハ第四百二十一條ニ該リ數罪俱發スルヲ以テ所犯情狀最重キ逃走ノ罪ヲ問ヒ即チ新法輕キニ付其第四百二十二條ニ依テ處斷シ尙前犯刑期計算方ハ刑法第五十二條ニ從フヘキ者ナルニ其ノ玆ニ出テサルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云ニ在リ依テ本院檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ

原裁判言渡ニ於テ本案數罪ノ内一ノ逃走罪ヲ以テ重トシタルハ敢テ不當ニ非スト雖其原犯懲役十年ノ處斷ハ明治十年五月十八日ニシテ逃走シタルハ明治十四年十一月十四日ニ在レハ之ヲ舊法ニ照シ棒鎖二日ノ上從新拘役ニ處スレハ即チ該棒鎖二日ト既ニ役過セシ年月

日トチ以テ之ヲ併科スルニ當リ且外ニ在テ犯シタル準竊盜罪懲役六十日ノ刑ヲモ全加スヘキ者ニシテ之ヲ新法ニ照セハ刑法第四百二十二條第一項ニ依リ一月以上六月以下ノ重禁錮ニ處スヘキ者ニ該ルニ付新法ヲ以テ輕トス然ルニ原裁判所ニ於テ舊法ヲ輕トシ且其獄舎獄具ヲ毀壞セシ等ノ事實アルニ非スシテ刑法第四百二十二條第二項ニ比照シタルハ共ニ擬律ヲ錯誤シタル裁判ナルコト付之ヲ破毀シ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ本院ニ於テ直チニ裁判言渡ヲ爲ス左ノ如シ

三 山 大 藏

被告人カ犯罪ノ事實ハ原裁判言渡書ニ據リ明瞭ナルニ付之ヲ法律ニ照スニ所犯新法施行以前ニ在ルヲ以テ刑法第三條第二項ニ從ヒ舊法ニ於テハ第一懲役限内逃走ノ罪ハ改定律例第三百一條ニ依リ棒鎖二日ノ上仍ホ原犯十年ノ年限ニ照シ新ニ拘役スヘキ者第二其外ニ在テ人ノ看守ナキ古衣ヲ竊取セシ賍金四錢ノ罪ハ賊盜律盜田野藪麥條ニ依リ竊盜ニ準シテ論シ懲役五十日第三獄衣ヲ投棄セシ賍金貳拾錢ノ罪ハ戸婚律棄毀器物稼穡條ニ依リ竊盜ニ準シテ論シ官物ヲ以テ一等ヲ加ヘ懲役六十日二罪俱發以重論條ニ照シ第三ノ重罪ヲ以テ第二ノ輕罪ニ併スモ仍ホ輕キヲ以テ第二ノ罪ニ論セシ其重キ第一ノ罪ニ從ヒ棒鎖及ヒ從新拘役ノ上仍ホ改定律例第三百一條ニ依リ第三ノ罪ニ係ル懲役六十日ヲ全加スヘキ者トス又新法ニ照セハ第一ハ刑法第四百二十二條第一項一月以上六月以下ノ重禁錮ニ該リ第二ハ同第三百六十六條及ヒ第三百七十六條二月以上四年以下ノ重禁錮及ヒ六月以上二年以下ノ監視ニ該リ第三ハ同第四百二十一條十一日以上六月以下ノ重禁錮又ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ該リ

リ仍ホ同第百條第三項ニ照テシ右數罪ノ内其所犯情狀最重キ第一ノ罪ヲ以テ處斷スヘキ者トス因テ新法ノ輕ニ從ヒ重禁錮六月ニ處スルモノ也

第千七百九十一號

○判文(官吏罵詈) 明治十五年十二月廿二日上告
明治十六年十一月廿七日發付

栃木縣下野國那須郡瀧田村平民

小 西 平 三 郎

明治十五年九月

三十歲

明治十五年九月二十六日栃木輕罪裁判所ニ於テ右小西平三郎カ巡查ノ職務ニ對シ侮辱シタル被告事件ヲ審判シ其所爲新法施行前ニ在ルニ因リ新舊ノ法ヲ比照シ刑法ニ於テ罰ヘキ正條ナシト爲シ刑法第三條第二項ニ基キ無罪ノ言渡ヲ爲シタル裁判ニ對シ同裁判所檢事補牛込喜一ハ上告セリ其要旨ハ被告人ノ所爲タル告訴及ヒ被告ノ陳述ニ依リ栃木縣警部代理巡查小寺辨カ檢視ノ爲出張シ其復命ノ途中背後ニ於テ(巡查云々)ト高聲ニ放歌セシ明白ナルニ付刑法第四百一條ニ該ル犯罪ナリ假リニ其職務外ニ在ル小寺巡查ヲ罵詈シタル者トスルモ刑法第四百廿六條第十二項ニ該レリト云ニ在リ依テ本院檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ明治十四年十二月十五日巡查小寺辨カ正服ヲ着シ那須郡瀧田村ヲ通行スル際其背後十間許ノ處ニ於テ巡查云々ト放歌セシハ其方ノ自供小寺辨ノ告訴ニ依リ明カナリトハ是原裁判所ニ於テ其言渡書ニ舉示シテ以テ認視シタル事實ナリ此事實タル假令其背後十間許ノ處ニ於ケルモ親シク其視聽ノ及フ場合ニ在テ其巡查タル者ヲ賤辱スヘキ俚語ヲ放歌シタル

者ニ付乃チ之ヲ刑法ニ照セハ其第四百四十一條第一項ニ該ルヘキ犯罪ノ性質ヲ充分具備シタル者トス然ルニ原裁判所ハ右ノ事實ヲ認視シナカラ刑法ニ正條ナシトシ無罪ノ言渡ヲ爲シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナリトス依テ之ヲ破毀シ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ本院ニ於テ直チニ裁判言渡ヲ爲ス左ノ如シ

小 西 平 三 郎

右ニ明示シタル事實ノ理由ニシテ其所犯新法實施以前ニ係ルヲ以テ刑法第三條第二項ニ依リ新舊ノ法ヲ比照スルニ舊法ニ在テハ改定律例第二百二十七條ニ云々邏卒ヲ罵ル者ハ又一等ヲ加フトアルニ擬シ懲役三十日新法ニ在テハ刑法第四百四十一條第一項一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ストアルニ該ル依テ仍ホ明治十四年第八十一號布告第二條及ヒ第六條ニ照シ刑法ニ從ヒ重禁錮一月ニ處スルモノナリ

第千七百九十二號

○判文(偽造証書) 明治十五年十二月廿三日上告
十六年十一月廿八日發付

新潟縣越後國北蒲原郡鍛江村

平民

近 利 三 郎

明治十五年八月

二十六年生月不知

明治十五年八月二十九日新發田輕罪裁判所會議局ニ於テ右近利三郎カ偽造証書被告事件ニ付豫審終結言渡ニ對スル檢察官ノ故障申立ヲ判決シ本案証書ノ印影ハ糺糊トシテ分明ナラ

三百四十三

印章ノ効力ナキモノナレハ假ニ被告人カ偽印ヲ捺シテトスルモ是レヲ以テ權利義務ヲ生スヘキモノニ非ス故ニ被告人ハ權利義務ニ關スル証書ヲ偽造シ又ハ増減變換シタルノ所爲ナキニ因リ豫審判事補カ免訴ノ言渡ヲ爲シタルハ不適法ニ非スト言渡シタリ原裁判所檢事富塚直大ハ上告ヲ爲シ右判決ノ不當ナル理由ヲ反覆辨論セリ其要領ハ原會議局ニ於テ被告カ偽押シタル印章ハ影蹟分明ナラスシテ普通印章ノ効力ナキニ付偽造ノ所爲ニ非スト判決セシハ証書ノ作爲ト其作爲ノ巧拙トヲ混同視シタルモノニシテ決シテ正當ノ理由ニ非ス何トナレハ文書押印ハ証書ノ作爲ニシテ印影ノ分明ナルト否トノ如キハ作爲ノ巧拙ニ係リ全ク其性質ヲ異ニスル者ナレハ既ニ被告カ偽印ヲ捺シタリト認メタル上ハ偽造ノ罪成立タルモノニシテ其印影ノ分明ナラサル即チ作爲ノ拙ナルヲ以テ其偽造ノ罪ヲ論セスト謂フノ理アラシヤ故ニ原判決ハ言渡ノ理由齟齬シ不法ト認ムルニ因リ破毀ヲ求ムト云フニアリ大審院檢事池上三郎ハ其意見ヲ陳述シ且附帶ノ上告ヲ爲シタリ其旨趣ハ原判決書中ニ利三郎カ捺捺セシモノ、如シ然ラハ假リニ同人カ偽造シテ捺捺セシモノトスルモ云々トアルニ依レハ果シテ利三郎カ偽造捺捺シタリト認定セシカ將タ然ラスト認メタルヤ確知スルニ由ナシ苟モ豫審ノ言渡ヲ認可セシトセハ豫審判事ノ認定セシ如ク利三郎カ偽造捺捺セシトノ理由ヲ明示セサルヘカラス若シ偽造捺捺セシニ非ストセハ豫審ノ言渡ヲ認可スヘカラス然ルニ其偽造ノ點ヲ曖昧ニ付シ去リ輒ク免訴ノ言渡ヲ認可セシハ治罪法第四百十條第九項ニ相當スル破毀ノ原由アルモノト思考スト云フニ在リ依テ判決ヲ爲ス左ノ如シ

原裁判所會議局ニ於テ本案証書ノ印影ハ被告人カ偽造捺捺セシモノトスルモ印章ノ効力ナ

キニ因リ証書偽造ノ所爲ニ非スト判決シタルハ原檢察官上告旨趣ノ如ク事實ノ理由齟齬スルモノト謂ハサルヲ得ス而シテ其偽造捺捺ノ所爲ハ本件最緊要ノ點ナルヲ以テ果シテ被告人ノ所爲ナリヤ否ノ事實ヲ明示斷言セサルヘカラス然ルニ原判決書ニハ利三郎カ捺捺セシモノ、如シ假リニ偽造捺捺セシモノトスルモ云々等ノ文字ヲ用ヒ曖昧模糊中ニ於テ豫審ノ言渡ヲ認可セシハ即チ本院檢事附帶上告旨趣ノ如ク事實ノ理由ヲ明示セサルモノト謂ハサルヲ得ス之ヲ要スルニ原會議局ノ言渡ハ治罪法第四百十條第九項ノ場合ニ適當スル不法ノ判決ナリトス

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十八條ノ成規ニ從ヒ原判決言渡ノ全部ヲ破毀シ被告事件ヲ新潟縣裁判所長岡支廳ニ移シ更ニ審判セシムルモノナリ

第一千七百九十三號

○判文(賭博) 明治十五年十二月廿六日上告
同 十六年十一月廿八日發付

愛媛縣伊豫國温泉郡道後村
湯月町平民

野

本政 八

明治十五年九月
四十九年三月

明治十五年九月二十六日松山輕罪裁判所ニ於テ右野本政八カ被告事件ヲ審判シ刑法第二百六十條ニ依リ六月ノ重禁錮ニ處シ八十圓ノ罰金ヲ附加スト言渡シタル裁判ヲ不當ナリトシ被告人ハ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告人カ設立シタル織物會社ハ正實ノ營業ニシテ固ヨリ

空相場又ハ賭博ニ類似スル不正ノ所業ニ非ス而シテ被告人カ松山警察署ノ口供ハ精神錯亂ノ際捺印シタルモノニシテ證據ト爲スニ足ラス其他犯罪ノ證據アルニ非ス然ルチ原裁判所カ有罪ノ判定ヲ下シ刑法第二百六十條ニ依リ處斷セラレタルハ不法ノ裁判ナリト云フニ在リ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ判決ヲ爲スコト左ノ如シ

諸般ノ證據ヲ採集シテ犯罪ノ事實ヲ判定スルハ法律ニ於テ裁判官ニ任從スル所ナレハ其職權内ニ侵入シ事實判定ノ當否ヲ論難スルモ之ヲ以テ上告ノ原由ト爲スコト得ス本件ノ如キハ原裁判官ニ於テ被告人ノ白狀相當官吏ノ作りタル調書其他證據物件ニ依リ事實ヲ判定シタルモノニシテ法律ニ違背スルノ點アルニ非ス而シテ上告ノ旨趣ハ徒ニ事實證據ノ有無ヲ陳辨シ裁判官ノ判定上ニ對シ不服ヲ訴フルニ止マリ治罪法第四百十條ノ各項ニ定メタル場合ニ適當セザサルヲ以テ上告ノ理由ナキモノトス依テ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ本件上告ヲ棄却スルモノナリ

第七百九十四號

○判文(偽造證書) 明治十五年十二月十五日上告
同 十六年十一月廿八日發付

長崎縣對馬國下縣郡小舟越村平
民

中

島 茂 吉

明治十五年十月
三十年八月

右茂吉カ被告事件ニ對シ明治十五年十月十二日小倉治安裁判所ニ開キタル福岡輕罪裁判所

ニ於テ中原昇造カ姓名捺印アル白紙盜用シタルハ刑法第二百八條第二項若シ他人ノ印影ヲ盜用シタル者ハ一等ヲ減スト在ルニ該ル其捺印アル白紙ニ潤飾シテ請取証書ヲ偽造シ賣與シタルハ同第二百十條ニ該ル同第三百條第三項ニ照シ一ノ重キ同第二百八條第二項ニ照シ六月ノ重禁錮罰金十圓ニ處シ同第二百十二條ニ依リ十月ノ監視ニ付スト言渡シタル裁判ヲ不當トシ同裁判所檢察官檢事代理警部田中良平カ上告爲シタル要領ハ被告人中島茂吉カ反古紙中ヨリ中原昇造カ記名捺印アル端紙ヲ得タルハ毫モ盜ミシモノニ非スシテ當時不用ノ反古紙中ヨリ取除ケ置タルモノナリ同第二百八條第二項ノ律意ヲ按スルニ之レハ是レ印影ヲ盜用シタルモノニ適用スヘキ法律ニシテ被告カ所爲ニ適當ノ法章ニ非ス然ルニ該刑ヲ適用シタルハ不當ナリ又金子ノ受取証書ヲ偽造シタルモ一時借用主タル柴田勝藏等ニ於テ未ダ之ヲ行使セサルモノナレハ宜シク未遂犯罪例ニ照シ減等處斷セサルヲ得ス然ルニ本案ノ裁判玆ニ出テサルハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニアリ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事林三介ハ原裁判上印影盜用罪ヲ引用シ數罪俱發ヲ以テ處斷シタルハ擬律錯誤ナルコトハ上告趣旨ト同論ナレハ上告官ハ二百十條ノ未遂ト云ヒ原裁判所ハ既遂トセシ点ニ至テハ其意見ヲ異ニスル所アリ其理由ハ已ニ偽造セシ証書ヲ被告カ林勝藏ニ渡シ金十三圓ヲ受取リタルヲ以テ行使セントシタルモノトスル乎被告ハ諱藏ト共ニ謀テ受取証書ヲ偽造シタルモノナリ左スレハ共謀者カ共謀者へ授與シタルマテニシテ其証書タル尙ホ共謀者諱藏ノ手ニ在ルモノニシテ未ダ他ニ之ヲ使用シ又ハ使用セントシタル所爲アラサルハ既ニ事實ニ於テ明カナレハ猶ホ豫備ノ所爲ニ止ルモノト云ヘキモノニシテ刑法第百十一條ニ據リ無罪ノ

言渡アルヘキモノト考量ストノ意見ヲ陳ヘタリ因テ判決スル左ノ如シ
 本案被告カ所爲ハ印影盗用犯ナニ罪トシテ論スヘキニアラス單ニ偽造証書ノ一罪ニ問擬ス
 ヘキモノナリ云々論告スル所ナルヲ以テ仍ホ原書類ニ就キ之ヲ審按スルニ公判始末書中原
 檢察官ノ陳述ニ「被告人ハ明治十五年六月頃粕屋助右衛門方ニ於テランブ掃除ノ節反古
 ナ需メシニ曾テ助右衛門方ニ於テ無盡講ヲ組立タル會員人名簿ヲ相與ヘラレタルニ中原昇
 造廣田久太郎等ノ記名捺印アルヲ見テ茲ニ始テ不良心ヲ生シ他日供用スル所アラント右記
 名捺印アル所ヲ切り取り所持シ居リシニ林諒藏カ中原昇造ヨリ曾テ借財アリシヲ云々被告
 ニ出會切迫ノ事情ヲ歎談シタルニ被告ニ於テハ豫テ供用スル所アラント所持シ居ル所ノ中
 原昇造等ノ記名捺印アル端紙ヲ諱藏ニ示シ是ニ受取証ヲ記載シ差出セハ立派ナモノナリ金
 十五圓ヲ與フレハ受取証ヲ作り遣サント諱藏ニ申向ケ云々受取証書ヲ偽造シ諱藏ヘ相渡シ
 金十三圓五十錢丈ヲ受取り云々」トアリ尤モ右ノ陳述ニ引續キ原檢察官ニ於テ直チニ刑ノ
 適用ニ論及シ被告ニ對スル訊問應答等ノ觀ルヘキナケレトモ被告カ上告答辨書中ニ「被告カ
 犯罪ノ原因タルヤ粕屋助右衛門方ノランブ掃除致サントスル際同家ノ者ヘ反古ヲ購求シタ
 レハ當時不用ナル無盡講人名簿ヲ與ヘタルヨリ不圖不良心ヲ抱キ他日日用ユヘキ事モアラ
 ト思慮スルヨリ中原昇造廣田久太郎兩名ノ記名捺印アル帳簿紙二枚ヲ除去シ所持致居候處
 云々昇造記名捺印ノ反古ヲ取出シ林諒藏ヘ示シ是ヲ以テ昇造カ受取証ヲ筆記セハ後日ノ憂
 ナク立派ナ者ナリ云々昇造ヨリ柴田勝藏ヘ宛金七拾圓ノ受取証書ヲ拵ヘ云々訟廷ニ於テモ
 前緋ノ通供出シタルニ該裁判所ニ於テ重禁錮云々監視ニ附セラレタリ」トアルヲ觀レハ被

告ハ公判廷ニ於テ原檢察官ノ陳述ニ異議ナキノミナラス其詳細自供シタル所ニ係リ隨テ原
 裁判官ニ於テ被告カ故意ニ印影ヲ盗用シタルトノ事實判定ヲ爲シタルモ亦憑據スル所アリ
 テ然ルモノ、如シ本件ノ事實果シテ此ノ如クナルトハ則チ原裁判官カ之ヲ刑法第二百八條
 第二項ニ問擬シタルハ敢テ不當ニ非ストス何ントナレハ被告カ林諒藏ニ賣與シタル偽造證
 書ノ印影ハ假令ヒ被害者ノ印類ヨリ直接ニ盜捺セサルモ其押捺シアルモノヲ何等不正ノ用
 ニ供セン爲メ私カニ取除ケ置キ以テ遂ニ証書偽造ノ用ニ供シタルハ即チ印影ヲ盗用シタル
 ト一般ニシテ畢竟其被害者ノ權利ヲ妨害スル効驗彼此毫モ異ナル所ナクシテ刑法第二百八
 條第二項法意ノ在ル所亦此ニ外ナラサレハナリ夫レ然リ然レトモ本件ノ事實タル各書類ニ就
 テ前述ノ推考ヲ下スモ第一公判始末書中記載備ハラス即チ審理盡サ、ル所アリ到底確認ス
 ヘキ事實ニ非サルヲ以テ本院ニ於テ其擬律ノ當否ヲ監査スルニ由ナシトス將又偽造証書行
 使ノ未遂犯ナルヤ否ヤニ至テハ原書類ヲ檢閱スルニ公判始末書中其他該事實ノ如何ヲ明記
 スルモノナシ唯被害者中原昇造ノ告訴狀中ニ「明治十五年八月二十九日裁判所ヘ貸金裁判
 執行ノ義出願致シタル處同年九月七日被告柴田勝藏代理トシテ的野喜四郎ナル者出頭致シ
 本訴ノ金圓ハ最早返済致シ已ニ受取証ヲ所持致シ居逆明治十五年八月二十三日付ケ金六十
 圓中原昇造名前ノ受取証ヲ提供セリ依テ自分共殆ト驚愕ノ至リニ付筆跡及ヒ印影等熟視ス
 ルニ筆跡ハ毫モ似寄ラサレトモ印影ハ能ク似寄リタルヲ以テ愈不審ノ晴レサルヨリ事實取調
 ノ爲メ法官ヘハ御猶豫相願ヒ置キ云々」トアリ而シテ原裁判官カ該被告事件ヲ判定スルノ
 資料ハ「檢察官ノ陳述云々其他書類ヲ檢閱シ」ト原判文ニ掲載スルヲ觀レハ右告訴狀モ所謂

「其他書類」ノ中ニ包含シ右ノ條件ヲモ判定資料ノ一ニ供シ由テ以テ偽造証書ノ行使既遂タルト認定シタルモノ、如シト雖モ原判文ニ據レハ「其捺印在ル白紙ニ潤飾シテ請取証ヲ偽造シ賣與シタルハ第二百十條ニ該ル」トノミアリテ之カ行使ヲ爲シタル事實ノ理由一モ觀ルヘキナキノミナラス該判文ノ旨趣ニテハ概ニ賣與シタルヲ以テ行使シタルトスルモノ、如シ果シテ然ラハ本院檢事論旨ノ如ク該証書ハ未ダ共謀者ノ手ニ存在シ他ニ使用ノ實アラサレハ寧ロ豫備ノ所爲ニ止マルト謂フモ敢テ不可ナカルヘシ若シ又原裁判官カ果シテ前記告訴ノ始末ヲ其事實判定ノ資料ニ供スルニ於テハ之ヲ右第二百十條ノ既遂犯ニ問フテ可ナリト雖モ要スルニ原判文中是等事實ノ理由ヲ明示セズ概ニ賣與シタル迄ノ事ヲ掲ケ以テ右第二百十條ヲ適用シタルハ不法ノ裁判ナルヲ以テ同法第四百二十八條ニ遵ヒ原裁判ノ全部ヲ破毀シ該被告事件ヲ大分輕罪裁判所中津支廳ニ移シ更ニ審判セシムル者也

第七百九十五號

○判文(猥褻冊子販賣)明治十六年二月二日上告

同 十六年十一月廿八日發付

千葉縣上總國望陀郡市場町八十

四番地平民商

眞田小右衛門

明治十五年十二月

三十七年

右小右衛門カ艶色花車ト題スル醜猥淫行ノ挿繪アル小冊子ヲ販賣シタル被告事件ニ對シ明治十五年十二月一日木更津輕罪裁判所於テ刑法第二百五十九條ニ依リ罰金五圓ニ處シ渡邊

勇次郎へ販賣セシ淫猥ノ小冊子及ヒ其代二十四錢ト家宅搜索ノ節臨檢官吏ノ差押ヘタル名物江戸壽々女ト題セル小冊子トモ刑法第四十三條ニ照シ沒收スト言渡シタル裁判ヲ不當トシ同裁判所檢事補江村忠一郎カ上告爲シタル要領ハ原裁判ハ艶色花車ノ冊子ヲ直ニ被告人ヨリ沒收スルノミナラス名物江戸壽々女ノ冊子迄ヲ沒收シタルモ該江戸壽々女ノ冊子ハ素ト販賣ニ宛テ置タルモノナレハ之ヲ沒收スルモ可ナリト爲スモ裁判言渡ニ其事實ヲ掲ケス治罪法第四百十條第九ニ所謂言渡ノ理由ノ齟齬アルモノナリ且刑法第四十三條第一ハ法律ニ於テ禁制シタル物件ヲ沒收スルノ法律ニシテ其第二ハ犯罪ノ用ニ供シタル物件ニ係ル然ルニ春畫ヲ所持スルノ禁令ハ無之ノミナラス艶色花車ノ冊子ハ犯罪ノ物件ニシテ犯罪ノ用ニ供シタル物件ニモアラス又既ニ賣渡シタルハ買得者ノ所有ニシテ犯人ノ所有ニアラス何レノ點ニ依ルモ艶色花車ノ冊子ハ沒收スヘキモノニアラサルニ之ヲ沒收シタルハ不法ノ裁判ナリト云フニアリ茲ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽クニ凡ソ刑法第二百五十九條ノ犯罪ニ係ル所ノ冊子圖畫等ハ法律ニ於テ禁制シタル物件ト見做スヘキモノトス故ニ艶色花車ト題セル淫本ヲ徵シテ沒收セシハ至當ナルモ名物江戸壽々女ト題セル淫本ヲ沒收セシハ不當ノ處斷ナリ何トナレハ該冊子ハ假令被告人於テ販賣スルノ目的ヲ以テ所有シタルモノト爲スモ未ダ之ヲ公然陳列シ又ハ販賣ナサル上ハ刑法第二百五十九條ノ罪ヲ組成セサルニ付隨テ之ヲ禁制ノ物件ト云フテ得サレハ其所有權ヲ侵スノ理ナキヲ以テナリト云フニアリ因テ判決スル左ノ如シ

凡ソ風俗ヲ害スル冊子圖畫等ヲ販賣ナシタルニ於テハ販賣者ヨリハ勿論買得者ノ知り得ル

限リハ其者ノ所有スル分タリトモ之ヲ沒収スヘキモノトス何トナレハ刑法第二百五十九條ノ制裁アツテ其販賣ヲ禁セラレタルモノナレハ則チ同法第四十四條法律ニ於テ禁制シタル箇條及ヒ同第四十三條第一項ニ準據シ沒収スヘキモノニシテ此場合ニ於テハ買得者タリトモ法律上所有スルコトヲ得サル物件ナルカ故ニ之ヲ沒収スルモ敢テ其所有權ヲ侵スナト、謂フヘキニアラサレハナリ故ニ原裁判所カ艶色花車ノ小冊子ヲ沒収スル旨言渡シタルハ相當ノ裁判ニシテ破毀ノ原由ナキモノトス然レモ名物江戸壽々女ノ小冊子ハ原ト家宅搜索ノ節差押ヘタル物件ニテ假令ヒ販賣スルノ目的アルニセヨ唯其意思ニ止マリ未タ公然陳列セス又販賣ナサ、ルニ於テハ固ヨリ刑法第四十四條ノ支配スル限リニアラストス然ルチ該冊子ヲ沒収シタルハ擬律錯誤ノ裁判ナルチ以テ治罪法第四百三十一條ニ依リ此ノ一部ヲ破毀シ大審院ニ於テ直ニ判決スル左ノ如シ

眞田小右衛門

右ノ理由ナルニ依リ原裁判所カ家宅搜索ノ節臨檢官吏ノ差押ヘタル名物江戸壽々女ト題セル小冊子ヲ沒収ストノ言渡ヲ取消シ該小冊子ハ被告ヘ還付スルモノ也

第七百九十六號

○判文(竊盜)明治十五年十二月十四日上告
十六年十一月廿八日發付

無籍

姓不明 德五郎

明治十五年八月十四年九月

明治十五年八月九日山形重罪裁判所ニ於テ右德五郎カ被告事件ヲ審判シ其竊取シタル物品ノ取還ヲ拒ク爲メ短刀ヲ以テ威迫シタルト他ノ竊盜ト二罪ノ内一ノ重キ刑法第三百八十二條及ヒ等三百七十八條ニ依リ犯時十六歳未滿ナルモ善惡ノ識別アリテ犯シタル者ト認メ同第八十條末項ニ照シ輕懲役ヨリ二等ヲ減シ二年六月ノ重禁錮ニ處シ仍ホ同第三百八十四條ニ照シ一年六月ノ監視ニ付シタル裁判ニ對シ同裁判所檢事納富利邦ハ上告セリ其主点ハ被告ノ所爲タル事主ニ追跡セラレ其盜品ノ返還ヲ拒ク爲メ短刀ヲ拔放シ威迫シタル者ナルチ以テ刑法第三百七十九條第二項ニ照シ加重シテ重懲役ヨリ減輕ス可キ者ナルニ同第三百七十八條輕懲役ヨリ減等シタルハ不當ナリト云ニ在リ

大審院ニ於テ立會檢事林三介ノ意見及ヒ院長ノ職權ヲ以テ撰任セラレタル代言人藤井三郎ノ答辨ヲ聽クニ檢事ハ本件加重ノ論旨ハ全ク原檢察官ト同意ナルモ被告ノ所爲タル其威迫ヲ爲シタル末逃ケ去ラントシタルハ跡ヨリ大勢馳セ來ルチ以テ該盜品ヲ返還シテ其場ヲ立去リタル者ナレハ強盜未遂罪ヲ以テ論スヘキチ相當ナリト思料スル旨陳述シ代言人ハ刑法第三百八十二條ニ依リ強盜ヲ以テ論セラルヘキ本案ノ如キ者ハ初メヨリ強盜ヲ犯ス者ト異ナルニ付兇器ノ有無ニ拘ハラス單ニ刑法第三百七十八條ノ輕懲役ニ止メ更ニ加重スヘキ者ニ非ラサルチ以テ原裁判ハ相當ナリト開陳セリ依テ之ヲ審按スルニ原裁判言渡書ニ舉示シタル被告事實ノ要領ハ被告人ハ佐野原村五十嵐佐藏宅軒端ニ乾シアル衣類ヲ竊取シ同村稻荷神社ノ近傍ニ至リ之ヲ袱ニ包ミタル處追跡シ來レル五十嵐「サク」ガ今盜難ニ遭フタル由其袱包ヲ披キ見スヘシト手ヲ懸ケルニ因リ懷中セシ短刀ヲ拔放シ威トシタルハ「サク」ハ恐

レテ手ヲ放チタルニ付直チニ逃去ントシタルに跡ヨリ大勢ノ男馳セ來ルヲ以テ到底逃ケ難キヲ察シ盜品ヲ返還シテ其場ヲ立去リ而シテ又他所ニ於テ一ノ竊盜ヲ爲シタル者ナリ此第一ノ事實タル其盜品ハ後ニ至リ之ヲ返還シタリト雖其前ニ在テ一旦之ヲ盜取シ得而テ其取還ヲ拒ク爲メ兇器即チ短刀ヲ以テ脅迫シタル者ナルニ付刑法第三百八十二條ノ支配スヘキ犯罪ハ充分成就シタル者ニシテ其後ニ返還セシテ以テ効チ既往ニ及ホシ更ニ未遂罪ト爲スヲ得サルモノトス而シテ既ニ刑法第三百八十二條ニ依リ強盜ヲ以テ論スル以上ハ其犯狀ニ因リ二人以上又ハ兇器攜帶等加重ノ摸樣アレハ亦加重ノ例ニ從フヘキハ所謂(強盜ヲ以テ論ス)トアル範圍中ニ屬セリ依テ本案事實ハ刑法第三百七十九條第二項ヲ適用シ重懲役ヲ以テ本刑ト爲シ之ヨリ減等ヲ擬スヘキ者ナルニ原裁判玆ニ出テサルハ擬律ノ錯誤ナルヲ以テ之ヲ破毀シ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ本院ニ於テ直チニ裁判言渡ヲ爲ス左ノ如シ

德 五 郎

二個ノ被告事實ハ原裁判言渡書ニ據リ明確ナルニ付之ヲ法律ニ照スニ第一ノ所爲ハ刑法第三百八十二條ニ依リ同第三百七十九條第二項ニ照シ同第三百七十八條ノ刑ニ一等ヲ加ヘ重懲役ヲ以テ本刑ト爲シ其犯時十六歲未滿ナルモ是非ノ辨別アリテ犯シタル者ニ付同第八十條末項ニ照シ其罪ヲ宥恕シテ二等ヲ減シ同第六十七條第六十九條ニ照シ二年以上五年以下ノ重禁錮ニ處シ同第三百八十四條ニ照シ六月以上二年以下ノ監視ニ付スヘキ者第二ノ所爲ハ同第三百六十六條及ヒ第三百七十六條ニ依リ二年以上四年以下ノ重禁錮及ヒ六月以上二年以下ノ監視ニ該ルニ付同第一百條ノ例ニ依リ其重キ第一ノ罪ヲ以テ重禁錮二年九月ニ處シ

監視一年八月ヲ附加スル者也

第七百九十七號

○判文(罪証隠蔽)明治十六年一月十二日上告
同 十六年十一月廿八日發付

岐阜縣美濃國安八郡大村平民
酒造營業

松 永 又 左衛門

明治十五年十月
五十八年四月

罪証隠蔽被告事件ニ付明治十五年十月二十八日岐阜重罪裁判所カ刑法第五百二十二條同第八十九條同第九十條同第七十條同第七十一條ニ依リ八日ノ拘留ニ處シ一圓五十錢ノ科料ヲ附加スト言渡タル裁判ニ對シ檢事補奧野毅ハ上告セリ其要領ハ被告又左衛門カ行爲ニ對シ刑法第五百二十二條ヲ適用セシハ相當ナルモ其酌量減輕ニ至テハ二箇ノ錯誤アリ第一被告ハ原諒スヘキ情狀アルヲ以テ本刑ニ一等ヲ減シ八日以上ノ拘留四月十五日以下ノ輕禁錮一圓五十錢以上ノ科料十五圓以下ノ罰金ニ該ルトノ範圍ニ制限ヲ設定シ其第二ハ其範圍ノ最下點ニ於テ拘留八日ニ處シ科料金一圓五十錢ヲ附加セラレシハ擬律錯誤ナリト云フニアリ

對手人松永又左衛門ハ檢察官上告趣意ニ同意ナル旨答辨セリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ
刑法第七十一條ニ禁錮ヲ減シ盡シタルハ拘留ニ處シ罰金ヲ減盡シタルハ科料ニ處ス禁錮罰金ヲ減シテ其短期十日以下寡數一圓九十五錢以下ニ及フ時ハ亦拘留科料ニ處スルヲ

得トアルヲ以テ見レハ原檢察官上告趣意ノ如ク拘留料ノ刑期中ニ就キ特ニ其範圍ヲ設ケ其短期ヲ以テ刑ヲ定メタルハ擬律錯誤ナリト云ハサルヲ得ス又刑法第七十四條ニ附加ノ罰金ハ主刑ニ從テ加減シ其金額ノ四分ノ一ヲ加減スルヲ以テ一等ト爲ス若シ減シ盡シタル時ハ止タ主刑ヲ科ストアリテ其附加セシ罰金ノ名義ヲ變シ之ヲ科料トシ附加スヘキ道理アルコトナシ然ルニ原裁判所ハ本刑拘留ノ刑ヲ適用シ之ニ科料ヲ附加セシハ共ニ擬律錯誤ノ裁判ナリト判定ス

右ノ理由ニ基キ治罪法第四百二十九條ニ依リ原裁判ノ全部ヲ破毀シ直ニ裁判スル左ノ如シ
松 永 又 左 衛 門

原裁判言渡ニ認メタル事實ノ理由及ヒ証憑トニ依リ他人ノ罪ヲ免カレシメント圖リ其罪証ト爲ルヘキ物件ヲ隱蔽シタルノ罪ヲ犯シタルコト明白ナリ即チ此ノ事實ヲ罰スル法律ハ刑法第五十二條他人ノ罪ヲ免カレシメント圖リ其罪証ト爲ルヘキ物件ヲ隱蔽シタル者ハ十一日以上六月以下ノ輕禁錮ニ處シ二圓以上二十圓以下ノ罰金ヲ附加ストアルニ該ル

因テ被告松永又左衛門ヲ十一日ノ輕禁錮ニ處シ二圓ノ罰金ヲ附加スル者也
第七百九十八號

○判文(証券印紙再貼用) 明治十六年二月十九日上告
全 年十一月二十八日發付

廣島縣安藝國賀茂郡志和西村平
民農

尾

上 吉 太 郎
明治十五年十二月
五十五年

右吉太郎カ被告事件ニ付明治十五年十二月五日廣島輕罪裁判所ニ於テ被告ハ一錢印紙二枚ヲ酒切手二通ニ再ヒ貼付シタルモノトシ刑法第九十九條ニ照シ罰金五圓ノ刑ヲ言渡シタル裁判ニ對シ被告吉太郎ハ同年同月六日上告申立ヲ爲シタル迄ニシテ趣意書ハ未タ差出サ、ルナリ原裁判所檢事補緒方敏ハ同月十二日付ヲ以テ被告ハ上告申立ノミニシテ趣意書ヲ差出サ、レハ上告ノ點何レニアルヤ得テ知ルヘカラサルヲ以テ答辨スルニ由ナキ旨趣ノ答辨書ヲ差出シタリ玆ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スルコト左ノ如シ

本案ハ原檢察官答辯書ノ如ク上告趣意書差出サ、レハ其旨趣ノ如何ンヲ知ルニ由ナキノミナラス治罪法第四百十七條ニ上告申立人ハ其申立ヲ爲シタルヨリ五日內ニ趣意書ヲ原裁判所ノ書記局ニ差出スヘシ又同法第二十條ニ此法律ニ於テ訴訟ヲ爲スニ付キ定メタル期限ヲ經過シタル時ハ特別ノ場合ヲ除クノ外其權ヲ失フヘシトアリテ本案上告事件ハ特別ノ場合アルニアラサレハ已ニ上告ノ權ハ失ヒタルモノナリトス因テ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ該上告ハ之ヲ棄却スルモノ也

第七百九十九號

○判文(竊盜) 明治十五年十一月廿五日上告
同 十六年十一月廿八日發付

福岡縣筑前國鞍手郡山口村士族

二百五十七

明治十五年八月十八日福岡輕罪裁判所ニ於テ被告事件ヲ審理シ被告ハ辨別アリテ金員ヲ詐取シタル者ト判定シ刑法第三百九十條第三百九十四條第八十條ニ依リ重禁錮一月ニ處シ監視六月ニ附スト裁判言渡ヲ爲シタリ

原檢察官カ右裁判ヲ不當トシ上告ヲ爲スノ要旨ハ抑モ被告カ所爲タル川崎源次郎方ヘ雇ハレ中明治十五年八月二日合田喜平方ヘ白米ヲ持參シ其翌日雇主ノ命ト僞リ右代金二圓ヲ受取り之ヲ費消中事ノ發覺セシテ恐レ逃走シタルモノニテ詐欺ノ手段ナルカ如クナレハ右代金ノ如キハ雇人ニ於テモ直チニ受取ルハ在來ノ慣行ニシテ詐言ヲ用ヒシト否トニ係ハラズ當然受取ルヘキモノナレハ詐言ヲ以テ受取リタルノミヲ以テ罪ト爲ス可カラス之ヲ雇主ニ渡サス竊ニ己カ所有ト爲シ初メテ罪ノ成立スヘキモノナレハ其所爲ハ竊盜ヲ以テ論シ刑法第三百六十六條ニ依リ處斷スヘキモノトス然ルニ原裁判所カ詐欺取財ノ罪ト爲シ刑法第三百九十條ニ問擬シタルハ不法ノ裁判ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニ在リ

本院檢事池上三郎ハ其意見ヲ陳述シ且附帶上告ヲ爲シタリ其要領ハ原裁判官認定ノ如ク被告ハ平日米ヲ持行キ其代金ヲ受取來ルヲモ有之トモハ即チ是レ一ノ慣例タルヲ以テ雇主ハ常ニ被告ノ米金ヲ授受スルヲ明許セシモノト謂ハサルヲ得ス然ルチ其米ノ買主ニ於テ之ヲ信認シタル上ハ被告カ偶詐言ヲ用ヒシト否ニ拘ハラズ代金ヲ得ント求ムル時ハ當然其求メニ應スヘキモノナレハ則チ被告カ之ヲ受取ルモ決テ騙取ニハアテサルナリ然ルチ原裁判

所カ欺詐取財ヲ以テ論シタルハ事實ノ理由ト法律ノ理由ニ齟齬アルヲ著明ナリトス而シテ右ノ代金ヲ受取リ被告ニ於テ擅ニ費消スル如キ所爲アラハ其關係ハ雇主ニ在テ刑法第三百九十五條ノ罪ヲ組成スヘキヲ論テ俟タスト雖モ原裁判ハ事實ニ不備ノ点アルヲ以テ果シテ同條ノ費消罪ニ適スルカ又ハ拐帶犯ニ該ルヤヲ檢別シ難キモノトス然ハ則チ原裁判ハ治罪法第四百十條第九項ノ場合ニ適セル破毀ノ原由アルノミナラス詐欺取財ヲ以テ論シナカラ其被害者ハ雇主ナリトシ之ニ賍金ヲ還附スルノ言渡ヲ爲シタルハ同條第十一項ノ原由ニ當ル不法ノ裁判ナルヲ以テ破毀ヲ求ムト云フニ在リ仍テ判決スル左ノ如シ

原裁判言渡ヲ閱スルニ被告ハ雇主ノ命ニ依リ喜平方ヘ白米二斗持行置キ其代價ノ如キハ平日受取來ルヲモ有之ヨリ雇主ノ命ト僞リ金二圓詐取シ云々ト在リ而シテ詐言ヲ用ヒ米代金ヲ受取リタルハ其米ノ買主ヲ瞞着スルノ意ニ出テタルヲ明確ナリト雖モ買主ニ於テハ曾テ被告ノ雇人ナルヲ確信シ米金ヲ授受スルノ慣例ナルヲ以テ詐言ヲ用ヒシト否トニ拘ハラズ被告ノ求メニ應シ當然其代金ヲ交付スヘキモノナレハ被告カ之ヲ受取ルモ買主ヲ欺罔シタルモノト謂フヲ得サルナリ然ルニ原裁判所ニ於テ被告カ所爲ヲ詐欺取財ノ罪ト爲シ刑法第三百九十條ニ依リ處斷シ且ツ被告カ其代金ヲ擅ニ費消シタル所爲ニ對シ其犯罪ノ模様等ヲ明示セカリシハ則チ擬律ノ錯誤ニ係ルノミナラス事實ノ理由ヲ附セサル不法ノ裁判ニシテ治罪法第四百十條ノ第九項及第十項ニ當ル破毀ノ原由アルモノトス
右ノ理由ナルヲ以テ原裁判ノ全部ヲ破毀シ被告事件ヲ佐賀輕罪裁判所ニ移シ更ニ審判セシムルモノ也

○判文(詐欺取財及ヒ器物棄損) 明治十六年二月十七日上告
年十一月廿八日發付

長崎縣肥前國南高來郡神代村平
民代書營業

古賀政次郎
明治十五年十一月
二十七年

詐欺取財及ヒ器物棄損被告事件ニ付明治十五年十一月十五日島原治安裁判所ニ於テ長崎輕罪裁判所カ數罪ノ内一ツノ重キ刑法第三百九十四條同第三百九十四條ニ依リ二年ノ重禁錮ニ處シ五圓ノ罰金ヲ附加シ一年ノ監視ニ付スト言渡シタル裁判ニ對シ檢察官警部補甲斐田毅カ上告シ被告政次郎ニ於テモ附帶上告ヲ爲シタリ檢察官警部補甲斐田毅カ論告スル要領ハ被告政次郎カ數罪ノ内詐欺取財ヲ以テ重ト爲シタルハ相當ナルモ其詐欺取財ノ所爲タルヤ騙取シタル地券ノ内二枚ヲ抵當ト爲シ内金二圓五十錢ヲ借受ケ費用セシマテ未タ全部ノ目的ヲ遂ケサレハ未遂犯ナルニ原裁判所ハ之ヲ既遂犯ナリト認メ刑法第一百十二條ヲ適用セサリシハ不當ナリト云フニアリ
對手人被告政次郎ニ於テハ檢察官上告趣意ハ其事實之ナキト答辨シ而シテ其附帶上告ノ要點ハ稻田卯吉ヨリ総理代人ノ委任ヲ受ケ同人共々金策致シタルモ決シテ詐欺取財ノ所爲アルニアラス又卯吉ヲ毆打シ衣類等ヲ毀損セシヨアルニアラサルニ原裁判所ハ曖昧ナル証人ノ陳述ヲ信用シ刑ヲ言渡サレタルハ不當ナリト云フニアリ

大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聞キ判決スル左ノ如シ
檢察官警部補甲斐田毅ハ被告政次郎ハ其詐欺ノ一部ヲ遂ケタルモ目的ノ全部ヲ遂ケサレハ未遂犯ナリト云フト雖モ原裁判所ノ裁判言渡ニ(依テ前後ノ情况ヲ推察スレハ卯吉ノ代人ト濫稱シテ十五圓ノ公正証書ヲ作り該証書ニ對シテ二圓五十錢ヲ詐取シ云々トアルヲ以テ見レハ既ニ詐欺取財ノ罪ヲ犯シ遂ケタルモノニテ其目的ノ全部ヲ得サルモ何ソ未遂ノ犯罪ナリト云フヲ得ンヤ對手人被告政次郎カ附帶上告ノ要點ハ原裁判所カ各種ノ証憑ニ依リ認メタル事實ニ對シ徒ラニ不服ヲ訟フルニ過キサレハ治罪法第四百十條第一ヨリ第十一ニ定メタル項目外ニ涉リ破毀ヲ求ムル原因ト爲スヲ得ス因テ上告及ヒ附帶上告ノ趣旨共ニ相立タス右ノ理由ニ基キ治罪法第四百二十七條ニ依リ上告及ヒ附帶上告トモ併テ之ヲ棄却スルモノナリ

第千八百壹號

○判文(萱場放火) 明治十五年十二月十八日上告
明治十六年十一月十八日發付

栃木縣下野國那須郡南野上村寄
留新潟縣越後國刈羽郡上田尻村
平民酒造渡世

前澤龜次

明治十五年七月三十日宇都宮輕罪裁判所會議局ニ於テ右龜次カ萱場ニ放火シタル被告事件

三十一歲十二月生
三百六十一

豫審終結言渡ニ對スル故障ノ判決ヲ爲シ刑法第二條ニ照シ免訴且放免セリ同裁判所檢事補
 鶴見時一ハ右判決ヲ不當トシ上告ヲ爲シタリ其要領ハ第一原會議局ハ被告人カ寺澤友三郎
 所有ノ萱場ニ放火シタル所爲ハ證據充分ナリト爲シタリ果シテ然ハ刑法第四百十九條ヲ以
 テ罰スヘキ犯罪ナリ彼ノ萱草ノ如キハ人家必需ノ植物ニシテ其價額ハ竹木ノ小ナル者ヨリ
 却テ高實ナルモノナリ而テ之ヲ毀損スルニ火ヲ用ユルモ鎌刀ノ類ヲ以テスルモ其方法ニ依
 テ罪ノ有無ヲ判ス可キニ非ス第二被告人カ放火シタル事實ハ只萱場ノミニ止マラスシテ平
 林ヲ燒燬シタルヲハ明治十五年三月十五日太田原警察署烏山分署警部代理巡查福原鐘太郎
 カ爲シタル臨檢調書及ヒ圖面ニ徵シテ明カナリ加之右萱場中ニハ竹木ノアリタル旨捜査上
 探知シタルニ依リ果テ然ハ刑法第四百六條ヲ適用スヘキ罪犯ナルニ付實地臨檢竹木有無ノ
 調査ヲ請求シタルニ原會議局ハ實地臨檢ヲ爲サスシテ漫ニ裁判シタルハ專横ノ處分ナリト
 云ニ在リ依テ本院檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ審按スルニ治罪法第二百五十三條ニ會議局ニ於テ
 必要ナリトスル時ハ判事一名ヲシテ更ニ豫審ヲ爲シ云々トアルニ依リ其必要ト思料シタル
 場合ニ於テハ更ニ豫審ヲ爲シ臨檢處分マテモ爲サシムルヲアリト雖モ之ヲ必要ナラスト思
 料シタル場合ニ於テモ會議局ハ必ス檢察官ノ請求ニ應シ臨檢處分ヲ爲サ、ル可カラサルノ
 義務アルヲナシ又同法第五百十八條第二項ニ檢事ノ請求アリタル時ハ如何ナル場合ト雖モ
 臨檢ス可シトアルモ是固ヨリ豫審判事ニ命シタル職務ナルニ付之ヲ以テ會議局ヲ制裁スル
 ヲ得ス故ニ上告第二ノ論旨ハ相立タスト雖モ上告第一ノ理由ニ付原判決書ニ舉示シタル事
 實ヲ見ルニ被告人ハ明治十五年三月十二日下野國那須郡南野上村寺澤友三郎所有ノ萱場ニ

放火シタル者トス此所爲ニシテ果シテ相違ナキカ即チ人ノ需用ノ植物ヲ毀損シタル犯罪ヲ
 免レサル者ナルヲ以テ上告論旨ノ如ク刑法第四百十九條ヲ適用ス可キ事件ナリトス然ルニ
 原會議局ハ右ノ事實ヲ認視シナカラ之ヲ罰スヘキ正條ナシト爲シ免訴シタルハ擬律錯誤ノ
 裁判ナリト判定ス依テ之ヲ破毀シ治罪法第四百二十九條ニ從ヒ本院ニ於テ直ニニ裁判言渡
 ヲ爲ス左ノ如シ

前 澤 龜 次

右被告人カ人ノ所有ノ萱場ニ放火シ其萱草ヲ燒燬シタルヲハ原會議局判決書ニ掲ケタル事
 實及ヒ證據ヲ以テ明確ニシテ此所爲ハ刑法第四百十九條ニ依リ罰スヘキ輕罪ナリトス依テ
 公判ヲ受ケシムル爲メ栃木輕罪裁判所宇都宮支廳ニ移ス者也

第一千八百二號

○判文(官吏侮辱)明治十五年十二月廿六日上告
 同 十六年十一月廿八日發付

高知縣土佐國土佐郡帶屋町士族
 土陽新聞假編輯長

安 原 喬 顯

明治十五年八月
 二十二歲七月

官吏ヲ侮辱シ人ヲ誹毀シ及ヒ新聞條例違犯被告事件ニ付明治十五年八月十八日高知輕罪裁
 判所ニ於テ右安原喬顯ニ對シ人ヲ誹毀シ又ヒ官吏ノ職務ヲ侮辱シタル罪ハ證據充分ナルニ
 付刑法第百條第三項及ヒ刑法第四百一十一條ニ依リ重禁錮八月罰金三十圓ノ刑ヲ言渡シ新聞

條例違犯及ヒ宮地堅盤ヲ誹毀シタル廉ハ並ニ犯罪ト認メ難キヲ以テ無罪ナリト言渡シタリ
被告安原喬顯ハ右刑ノ言渡ニ對シ上告ヲ爲シタル要旨ハ土陽新聞第六十九号第七十号ニ掲
載シタル事項ハ一モ警察官ノ職務ヲ行フヲ妨害シタル者ニアラスシテ却テ其職務ノ爲メニ
忠告ヲ爲シタルニ在リ若シ判官ニシテ之ヲ刑法第三百五十八條ニ照シ處斷シタランニハ固
ヨリ該法律ハ事實ノ有無ヲ問ハサル精神ナレハ之ヲ如何トモス可ラスト雖モ刑法第四百十
一條ヲ適用シ其第一項ニ問ヒタル者トセハ太シキ擬律ノ錯誤ナリ又其第二項ニ問ヒタル者
トスルモ他ニ牽制スヘキ法律ノアルアリ即チ讒謗律中事刑法ニ觸ルレハ裁判ヲ中止ストア
リ然レハ則之ヲ中止シ警察官ノ所爲刑法ニ觸ル、ヤ否ヲ審理シタル上ニアラサレハ被告人
ノ罪ヲ斷ス可ラサル者ナルニ其玆ニ出サルハ不當ナリト云フニアリ

原裁判所檢事補布野萬長ハ被告人ノ上告ハ其理由ナキ旨ヲ論辨シ而シテ附帶ノ上告ヲ爲シ
タリ其要旨ハ本件ハ土陽新聞中警察官ノ狂暴ト題スル論文ハ全篇皆官吏侮辱ト犯罪ヲ教唆
シタルノ証憑著明ナルヲ以テ新聞條例第十二條ニ照シ處斷ス可キニ無罪ノ言渡ヲ爲シ且治
罪法第三百五條ニ背キ犯罪ノ証憑ナキヲ明示セサルハ不當ノ裁判ナリト痛論セリ

大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ規則ニ從ヒ檢事加納久宜ノ意見ヲ聽クニ被告人ノ上
告趣意ノ不當ナルヲハ既ニ對手人ノ答辨ニ詳論シテ餘蘊ナケレハ更ニ贅辨ヲ要セス而シテ
檢察官カ附帶上告ノ趣旨タル新聞條例ニ依リ處斷ス可キヲ無罪ナリトシ且治罪法第三百五
條ニ背キタリト云フニ外ナラス然リト雖モ原裁判官ニ於テ該新聞ニ掲ケタル二篇ノ文章ハ
官吏侮辱罪ヲ組成シタルヲ視ルニ足ルモ未タ人ヲ教唆スルノ力ナシト事實ヲ認定シ新聞

條例第十二條ヲ適施セサリシ者ナレハ不法ト言フヲ得ス又無罪ナルノ理由ハ原裁判但書ヲ
一讀シテ明瞭タレハ治罪法第三百五條ニ背キタル者ニモアラスト辨明セリ仍テ判決スルヲ
左ノ如シ

本案被告人カ官吏ヲ侮辱シタルノ罪ニ對シテハ原裁判所ニ於テ刑法第四百一一條第二項ニ
觸ル、者ト認視シタルヲハ其言渡ニ依リ明晰ナリ而シテ上告人ハ其二項ニ擬スヘキ者ハ必
ス讒謗律ヲ援引シ被害者ノ所爲刑法ニ觸ル、ヤ否ヲ審究スル迄ハ本案被告事件ノ裁判ヲ中
止ス可キニ其之中止セサルハ不法ナリト云フニアレモ固ヨリ被告事件ノ裁判ヲ中止ス可
キ理由ナキノミナラス刑法施行後讒謗律ハ自ラ消滅ニ属シタル者ナレハ上告ノ趣旨不相立
者トス又附帶上告ニ於ケル新聞條例違犯ノ廉ニ對シ証憑充分ナルニ無罪ノ言渡ヲ爲シ且其
理由ヲ明示セサルハ不當ナリト云フト雖モ原裁判言渡ノ但書中(新聞條例違犯ノ件ハ該新
聞ニ依ルニ未タ人ヲ教唆スルノ力ナキ文書ナリト看認ム)ト明示シテ其犯罪ノ構造セサル
ヲ確認シタル者ナレハ毫モ不法ノ廉アルヲ無シ
右ノ理由ナルニ依リ治罪法第四百二十七條ニ從ヒ上告及ヒ附帶上告トモ棄却スル者ナリ
第一千八百三號

○判文(誣告) 明治十五年十二月廿二日上告
明治十六年十一月廿九日發付

長野縣信濃國東筑摩郡中川手村
平民

清水 權三郎
三百六十五

三百六十六
明治十五年十一月
七十二年六月

右被告カ物品強奪毆打創傷誣告事件豫審終結言渡ノ故障ニ對シ明治十五年十一月十一日松本輕罪裁判所會議局於テ被告清水權三郎ノ故障ヲ爲ス要領ハ第一事實ニ於テ矢淵小才治ヲ誣告スヘキ理由ナキトノ第二醫師波場泰藏カ診斷ニ依リ毆打創傷ナルトノ第三証人宮澤五六郎外二名ハ本案ノ証人タル資格ナキ等ノ右三項ノ趣意ヲ以テ豫審終結言渡ヲ不盡ナリト申立レテ治罪法第二百四十六條第三項ニ被告人ハ重罪裁判所ニ移スノ言渡ニ對シ故障ヲ爲スヲ得輕罪裁判所又ハ違警罪裁判所ニ移スノ言渡ニ對シテ豫審判事ノ管轄違越權又ハ其事件ヲ移スヘキ裁判所ノ管轄違ニ非サレハ故障ヲ爲スヲ得ストアリテ豫審判事ノ越權管轄違ノ外被告於テ故障ヲ爲スヲ得サルモノトス因テ豫審判事カ爲シタル言渡ニ於ケル右ニ抵觸スル廉ナキヲ以テ故障相立ストノ言渡ヲ不當ナリトシ被告人カ上告ナシタル要領ハ証人宮澤五六郎外二名ニ於テ云々ト辨明シ被告人ヲ誣告ナリトノ終結ヲ下サレタルニ被告カ證據トスル醫師ノ診斷ハ如何ナル理由ヲ以テ證據トスルニ足ラサルトノ辨明ヲ爲シ而シテ証人ノ申立ヲ採用セラル、ハ豫審判事ノ職ニ於テ爲スヘキノ順序タリ然ルニ是等ノ事實ヲモ明示セズ終結ノ言渡アリタルニ付該故障ヲ爲シタルニ會議局於テモ又故障相立スト判決セラレタルハ不當ナルニ依リ上告シテ破毀ヲ求ムト云フニ外ナラス大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ據リ上告代官八山田泰造ハ該事件ノ証人タル宮澤五六郎ハ現場ヲ目撃セシ者ニアラスシテ只自己ノ意見ヲ述ヘタルニアレハ証人タル資格ノ乏シキニモ拘ラス判官ハ之レヲ以テ證據ノ第一トセラレタルハ法律ノ原則ニ於テ採証法ヲ誤リタルモノナリ又會議

局於テハ治罪法第二百四十六條ニ違背セシ故障ナリト概シテ之ヲ援ケラレタルニ其無罪タルヘキ被告人ヲ以テ豫審係カ輕罪裁判所ヘ移スノ言渡アリタルモ亦該條ニ適當スルハ固ヨリ同條ノ精神ニシテ則チ上告ノ原由アル所ナリ云々ノ辨明ト立會檢事池上三郎ノ意見トヲ聽キ之レヲ判決スルコト左ノ如シ
本案上告ノ趣旨ハ專ラ事實ノ認定證據ノ取捨ニ就キ之カ不當ナルヲ唱ヘ將タ代官カ辨疏スル所ハ採証法ヲ誤リタルトノ及ヒ無罪者即チ被告人ヲシテ輕罪裁判所ヘ移スノ言渡モ亦治罪法第二百四十六條第三項ノ場合ニ適應スルモノナルニ會議局於テハ之ヲ概シテ同條ニ適セストノ判決ヲ爲セシハ不當ナリト云フニアリ然ルニ上告爲シ得ヘキ場合ハ治罪法第四百十條第一項乃至第十一項ニ規定スル所ニ限り是等事實ノ認定採証ノ如何ニ對シ不當ヲ論告スルモ固ヨリ右ノ各項以外ニ涉レハ以テ上告ノ原由ト爲スヲ得ス將タ被告事件ヲ輕罪裁判所ニ移ストノ豫審終結言渡ニ對シ被告人カ故障爲シ得ヘキ場合ハ同法第二百四十六條第三項ノ制裁アリテ豫審判事ノ管轄違其他二個ノ條件アル時ニ限り而シテ被告事件ノ果シテ輕罪ナルヲ以テ其相當裁判所ヘ移スノ言渡ヲ爲スハ同法第二百二十六條ノ規定アリテ一ニ豫審判事ノ思料スル所ニ任シ而シテ諸般ノ徵憑ヲ取捨シ事實犯罪ノ如何ヲ認定スルハ同法第四百十六條第二項ノ規定アリテ到底其固有ノ職權ヲ施爲スル所ニ係レハ他ヨリ輒スル其當否ヲ非難スルヲ得ス本案被告カ故障ノ旨趣タル只管採証又ハ事實ノ認定如何ニ對シ不服ヲ訴フルニ過キサルモ更ニ豫審判事ノ管轄違其他二個ノ不法處分アルニ非サレハ原會議局カ同法第二百四十六條第三項ニ抵觸スル廉ナキヲ以テ故障相立ストノ判決ヲ爲シタルハ

至當ニシテ代言人カ辨疏スル後段ノ旨趣モ相立タサルヲ固ヨリ多辨ヲ要セサルヘシ
右ノ理由ニ因リ治罪法第四百二十七條ニ遵ヒ本案上告ハ之ヲ棄却スルモノナリ

第千八百四號

○判文(詐欺取財) 明治十六年一月十二日上告
年十一月廿九日發付

廣島縣備後國沼隈郡中山南村

平民大工職

田中 猪之助

明治十五年十月
三十七年

詐欺取財被告事件ニ付明治十五年十一月十五日尾道輕罪裁判所カ刑法第三條ニ從ヒ新舊法
ヲ比照シ刑法第三百九十條ニ依リ八十五日ノ重禁錮ニ處スト言渡タル裁判ニ服セス上告セ
リ其要領ハ民事原告人桑田基三郎ノ差圖ニ因リ田中桂太郎方ニ預ケアル麥二十餘俵ヲ取寄
賣拂ヒ自分證人トナリタル借財ノ方ヘ仕拂ナシタルモノニテ決テ私擅ニ賣拂タルニアラサ
ルニ原裁判所ハ之ヲ詐欺取財ナリトシ刑ヲ言渡サレタルハ不法ナリト云フニアリ
對手人檢事補佐野直人ハ上告趣旨ノ不當ナルヲ辨駁シ原裁判允當ナリト答辨セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ因リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
上告ノ理由トスル處民事原告人ヨリ指圖ヲ受ケ爲シタルコトニテ詐欺取財ニアラスト云フニ
アリト雖モ事實裁判所カ各種ノ証憑ニ依リ認メタル事實當否ヲ非難スルニ過キサレハ破毀
ヲ求ムルノ原因ト爲スヲ得ス何ントナレハ治罪法第四百十條ニ檢察官及ヒ被告人ハ豫審又

ハ公判ノ言渡ニ對シ左ノ場合ニ於テ上告ヲ爲スコトヲ得トアリテ第一ヨリ第十一ニ定メタル
項目外ニ涉ルモノナレハナリ因テ上告ノ趣旨相立ス
右ノ如ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スル者也

第千八百五號

○判文(私印偽造) 明治十五年十二月十三日上告
明治十六年十一月廿九日發付

石川縣加賀國金澤區油車町平民

多 島 彌 三 次

明治十五年十月
三十三年八月

私印盜用証書偽造受託金費消滅被告事件ニ付明治十五年十月二日金澤輕罪裁判所カ一ノ重キ
刑法第二百八條ニ依リ重禁錮三年六月罰金三十圓ニ處シ同第二百十二條ニ依リ監視一年ニ
付スト言渡タル裁判ニ服セス上告セリ其要領ハ中村與右衛門カ酒造犯則ニ依リ科セラレタ
ル罰金十九圓六十八錢並ニ酒賣代金三十九圓三十六錢合計金五十九圓四錢上納方委託セラ
レ明治十五年三月二十二日同人ヨリ一旦右金額ヲ領受セシモ翌二十三日ニ至リ與右衛門ヨ
リ返戻致シ吳レ度旨申スニ任セ即チ之ヲ還付シ被告宛名ノ請取証ヲ取置タリ其後明治十五
年六月三日與右衛門右罰金ヲ持參シ再ヒ上納方ヲ委託セシモ被告ハ其暇ナキヲ以テ武部太
次郎ナル者ヘ依頼シ罰金ハ太次郎ノ目前ニテ與右衛門懷中ヨリ出シタルヲ自分取次ヲ以テ
其員數ヲ改メ太次郎カ手ニ渡シタリ且酒賣代金ノ方ハ同月六日迄上納延期願ノ義ヲ與右衛
門ヨリ直チニ太次郎ニ依頼シタルコトアルヲ以テモ右金額ハ業已ニ與右衛門ヘ返還セシテ証

スルニ足ル然ルチ原裁判所ハ徒ニ中村與右衛門ノ告訴ニ偏依シ該請取証ハ同人ノ實印ヲ盜用シ偽造セシ者ト認定シ刑法第二百八條同第二百十二條ニ照シ處斷セラレシハ不法ナルチ以テ原裁判ノ破毀ヲ求ムト云フニアリ尙再應進申書ヲ出シ其旨趣ヲ擴張セリ

對手人檢事補森繁彦ハ原裁判不當ニアラスト答辨セリ
大審院ニ於テ專任判事ノ報告ニ依リ立會檢事ノ意見ヲ聽キ判決スル左ノ如シ
被告多島彌三次ニ於テ中村與右衛門ヨリ委託サレタル金員ハ既ニ與右衛門ヘ返還セシチ以テ同人ノ實印ヲ盜用シ請取証ヲ偽造スヘキ理ナキチ其所爲アルモノト判定サレタルハ不當ナリト論告スルモ原裁判所カ各証憑ニ依リ認定シタル事實ニ對シ不服ヲ訴フルニ過キサレハ破毀ヲ求ムルノ原因ト爲スチ得ス何ントナレハ治罪法第四百十六條ニ被告人ノ白狀官吏ノ檢証調書証據物件証人ノ陳述鑑定人ノ申立其他諸般ノ徵憑ハ裁判官ノ判定ニ任ストアリテ事實裁判所ニ任從セシ部内ナレハナリ因テ上告ノ旨趣相立タス
右ノ如クナルチ以テ治罪法第四百二十七條ニ依リ本案上告ヲ棄却スル者也

第千八百六號

○判文(毆打創傷) 明治十六年二月三日上告
全 年十一月廿九日發付

山梨縣甲斐國西山梨郡里垣村平
民農業

岩 間 藤 藏
明治十五年十一月
四十二年

右藤藏カ被告事件ニ付明治十五年十一月十七日甲府輕罪裁判所ニ於テ被告ハ明治十五年七月十一日池田「ヨリ」カ高聲惡口セシトテ手ヲ以テ同人ヲ毆打シ二十日ニ至ラサル時間疾病休業ニ罹ラシメタル者ト判定シ刑法第三百一條第二項ニ依リ重禁錮一月ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ被告藤藏カ上告ヲ爲シタル要旨ハ被告ハ池田「ヨリ」ヲ毆打シタル「決シテ之レ無キニ同人ハ被告ニ毆打セテレ爲メニ病褥ニ就キ五六日休業セリト云フト雖モ此事タル眞實ニアラスシテ池田「ヨリ」ハ翌日ヨリ職業ニ從事スルノミナラス詞訟事件ニ付日々甲府裁判所ニ出頭シ居リタル「ナレハ或ハ告訴シタル所以ハ池田「ヨリ」ノ情夫依田直高ニ被告カ會テ貸金アリ之ヲ返金セサルヨリ口論ナシタル事アレハ右直高ノ教唆ニ出テタルカモ知ル可ラサルナリ亦証人鈴木藤右衛門ノ証言ハ池田「ヨリ」ノ依頼ニ應シ通謀セシモノナルヘシ若シ假ニ通謀セサルモノトスルモ藤右衛門ハ元來兩眼矇トシテ白晝咫尺ヲ辨スル能ハサルモノナレハ無能力者ト同様ナルヘケレハ証人トスルニ足ラス其他醫師ノ診斷書モ池田「ヨリ」ト通謀ニ出ツルモノナレハ眞正ノモノニアラス故ニ証人志村「イシ」ノ証言ニ依ルモ被告カ池田「ヨリ」ヲ毆打セサル「判然タリ況ンヤ志村「イシ」ハ池田「ヨリ」ノ借家ノ身ニシテ其家主ノ恩義ヲモ顧ミス供述シタルモノナルチヤ然ルチ原裁判官カ右等ノ事實ヲ審究セテ輒ク有罪ノ判定ヲ下サレタルハ不當ナレハ破毀ヲ請願スト云フニ在リ原裁判所檢事補若林爲三藏ハ本案上告ノ旨趣ヲ一々辨駁シ上告不當ナル旨答辨セリ玆ニ大審院ニ於テ專任判事ノ報告及ヒ立會檢事ノ意見ヲ聽キ之ヲ判決スル左ノ如シ
本案上告ノ要旨ハ原裁判官カ採証及ヒ事實ノ認定ヲ誤リタル不當ノ裁判ナリト云フニアレ

是等ノ點ニ對シテハ他ヨリ輒ク非難シ得可ラサルハ勿論原一件書類ヲ檢閱スルニ原裁判官カ諸般ノ徵憑ニ依リ被告ハ池田「ヨリ」ヲ毆打シタルモノト認定シタルハ一モ不當ノ廉ナキヲ以テ破毀スヘキ理由ナシトス因テ本案上告ハ治罪法第四百二十七條ニ法リ之ヲ棄却スルモノ也

第千八百七號

○判文(空米限月賣買)明治十五年十二月廿七日上告
明治十六年十一月廿九日發付

山口縣周防國吉敷郡山口後河原
町平民

上 田 格 之 進

同縣同國同郡山口米殿小路平民
三十七歲

中 村 要 右 衛 門

同縣同國同郡山口米屋町平民
三十九歲

松 原 治 助

同縣同國同郡同町平民
四十一歲

梶 山 豐 吉

同縣同國同郡山口上豎小路町平民
明治十五年九月四十歲

德 本 萬 吉

同縣同國同郡山口中河原町平民
四十三歲

河 野 友 七

同縣同國同郡湯田町平民
明治十五年九月七十二歲

田 中 忠 右 衛 門

同縣同國同郡宇野令村平民
四十八歲

別 府 彦 槌

同縣同國同郡山口下豎小路町平民
明治十五年九月四十三歲

宗 萬 吉

明治十五年九月
六十歲
三百七十三

三百七十四

同縣同國同郡同町平民

古 見 嘉 平

明治十五年九月

同縣同國同郡山口米屋町平民

藤澤 善 右衛門

明治十五年九月

同縣同國同郡山口久保小路平民

內 田 清 太郎

明治十五年九月

同縣同國同郡山口中市町平民

有 井 宗 吉

明治十五年九月

同縣同國同郡山口中河原町平民

山 城 嘉 三郎

明治十五年九月

明治十五年九月十八日山口輕罪裁判所ニ於テ右上田格之進外十三名カ空米限月賣買被告事
件ヲ審判シ明治十三年第二十一號布告ニ依リ罰金五十圓ヲ科スヘキ處上田格之進ハ犯罪ノ
數三十二度ニ係ルヲ以テ明治十四年第七十二號布告第五條ニ照シ各自ニ之ヲ科シ合セテ千

六百圓ノ罰金ニ處シ中村要右衛門松原治助ハ犯罪十五度ナルヲ以テ各七百五十圓ノ罰金梶
山豐吉ハ犯罪十三度ナルヲ以テ六百五十圓ノ罰金徳本萬吉ハ犯罪七度ナルヲ以テ三百五十
圓ノ罰金河野友七田中忠右衛門別府彦樅ハ犯罪三度ナルヲ以テ各五百五十圓ノ罰金宗萬吉古
見嘉平ハ犯罪六度ナルヲ以テ各三百圓ノ罰金藤澤善右衛門ハ犯罪十一度ナルヲ以テ五百五
十圓ノ罰金内田清太郎ハ犯罪二十一度ナルヲ以テ千五十圓ノ罰金有井宗吉ハ犯罪二度ナル
ヲ以テ百圓ノ罰金山城嘉三郎ハ罰金三十圓ヲ科スヘキ處犯罪五度ナルヲ以テ合セテ百五十
圓ノ罰金ニ處スト言渡シタリ原裁判所檢事補玉置琢及ヒ被告人上田格之進中村要右衛門松
原治助梶山豐吉徳本萬吉田中忠右衛門別府彦樅宗萬吉古見嘉平藤澤善右衛門内田清太郎ハ
右ノ裁判ヲ不當ナリトシ各自ニ同一ノ趣意ヲ以テ上告ヲ爲シタリ其要旨ハ被告人等ノ所爲
ハ同一ノ方法ヲ以テ同一ノ場所ニ於テ同一ノ事柄ヲ數次ニ執行シタルモノナレハ即チ明治
十三年第二十一號布告ニ依リ十圓以上二百圓以下ノ範圍内ニ於テ處斷スヘキ一個ノ犯罪ニ
シテ其度數ニ依リ各自ニ罰金ヲ科スヘキモノニアラス又明治十四年第七十二號布告第五條
ニ法律規則ヲ犯シタルモノニハ刑法ノ再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用ヒストアルハ犯罪種
類ノ異ナル者即チ印稅規則ノ一部ニ觸ル、モノト酒造稅則ノ一部ニ觸ル、モノト併發スル
歟若クハ是等ノ罪ト刑法ニ掲クル犯罪ト併發シタル如キ場合ニ於テハ數罪俱發ノ例ヲ用ヒ
ストノ旨趣ニシテ決シテ本案ノ如キ場合ニ適用スヘキモノニ非サルナリ然ルニ原裁判所カ
其數次ニ執行シタル度數ニ依リ各自ニ罰金ヲ科シタルハ法律ニ違背セル不當ノ裁判ナリト
云フニアリ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ判決ヲ爲スノ左ノ如シ

三百七十五

被告人等カ山口米商會社ニ於テ數次空米限月賣買ヲ爲シタル所爲ハ所謂連續犯罪ニシテ同一ノ場所ニテ同一ノ事柄ヲ爲スモ一次毎ニ犯罪ノ成立タルモノナレハ數次執行セシ時ハ即チ數個ノ犯罪ト爲サ、ルヲ得ス而シテ明治十四年第七十二號布告第五條ニ法律規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ再犯加重及ヒ數罪俱發ノ例ヲ用ヒストアルニ依リ同一ノ所爲ト雖モ數次ノ犯罪ニ係ルモノハ各自ニ其刑ヲ科セサルヘカラス故ニ原裁判所ニ於テ被告人等ノ犯罪度數ニ依リ罰金ヲ併科シタルハ不當ノ裁判ト謂フコトヲ得サルモノトス然ルニ原檢察官及ヒ被告人等ハ同一ノ所爲ニ係ルモノハ數次之ヲ犯スモ仍ホ一個ノ犯罪ナリト陳辨シ又甲ノ規則ニ觸ル、モノト乙ノ規則ニ觸ル、モノト併發スルカ若クハ規則違犯ノ罪ト刑法ニ掲載スル罪ト併發シタル場合ニ非サレハ數罪俱發ト爲スコトヲ得スト論告スルモ共ニ法律ノ解釋ヲ誤リタルモノニシテ之ヲ採用スルニ由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ本件檢察官及ヒ各被告人ノ上告ハ共ニ之ヲ棄却スルモノナリ

山口縣周防國吉敷郡山口後河原町平民

福江六三郎

明治十五年九月

同縣同國同郡山口中河原町平民
布谷善八

明治十五年九月
四十歲

明治十五年九月十八日山口輕罪裁判所ニ於テ空米限月賣買被告事件ヲ審判シ明治十三年第二十一號布告ニ依リ各百圓ノ罰金ニ處スト言渡シタル裁判ニ對シ被告人福江六三郎布谷善八ハ各自上告ヲ爲シタリ其旨趣ハ被告人等ハ米商會所仲買人ニ依頼シ現米ヲ買受ケタルモノニシテ決シテ空米賣買ヲ爲シタルニ非ス其仲買人ノ賣買上ニ如何ナル所爲アルモ被告人等ノ預知セサル所ナリ然ルニ原裁判所ニ於テ空米賣買ナリト認定シ罰金ヲ科セタルタルハ不當ナリト云フニ在リ大審院ニ於テ治罪法第四百二十五條ノ定式ヲ履行シ判決ヲ爲スコト左ノ如シ

被告事件ニ付諸般ノ証憑ヲ採擇シテ犯罪ノ事實ヲ判定スルハ法律ニ於テ裁判官ニ任從スル所ナレハ其職權内ニ侵入シ事實判定ノ當否ヲ論難スルモノ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スコトヲ得ス本件ノ如キハ原裁判所ニ於テ被告人ノ白狀其他証據書類ニ依リ犯罪事實ヲ認定シ法律ニ照シ相當ノ處分ヲ爲シタルモノニシテ毫モ不法ノ點アルニ非ス而シテ上告ノ旨趣ハ專ラ事實ノ有無ヲ陳辨シ漫ニ裁判官ノ判定上ニ對シ不服ヲ訴フルニ過キスシテ治罪法第四百十條ノ各項ニ定メタル場合ニ適當セサルヲ以テ上告ノ理由ナキモノトス依テ治罪法第四百二十七條ノ成規ニ從ヒ本件上告ヲ棄却スルモノナリ

第千八百八號

○判文(官吏侮辱)全
明治十六年一月十九日上告
年十一月三十日發付

島根縣石見國鹿足郡中座村平民

二百七十七